

巻頭写真版目次

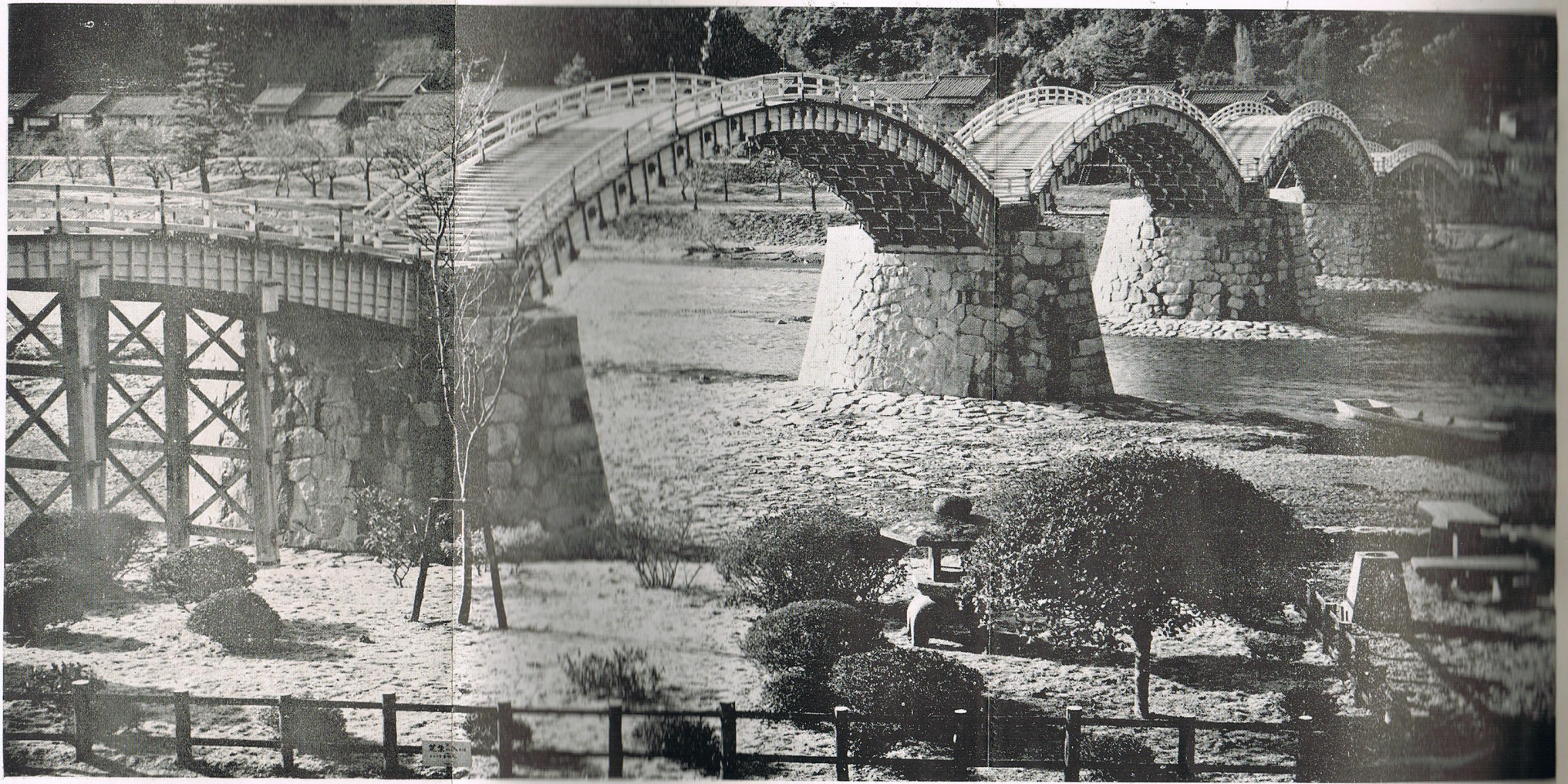
- 一、 再建復興の新しき錦帯橋、木の香も高きその姿……………(一)
- 一、 昭和二十五年九月十四日流失前の古色ゆかしき錦帯橋……………(二)
- 一、 錦帯橋創建者岩国第三代藩主吉川廣嘉卿の墓……………(三)
- 一、 錦帯橋渡初式橋靈奉告祭典……………(四五)
- 一、 渡初式典終りて久能市長東口のテープ切断……………(六)
- 一、 橋下の渡初式場を包囲する河原の歡衆大群……………(七)
- 一、 三大婦揃いの八家族渡初め……………(八)
- 一、 光榮ある三代夫婦揃う目出度い家(其一、二、三)……………(九・一〇・一一)
- 一、 古代大名行列の青壯年新橋を練り渡る……………(一二・一三)
- 一、 凍雲青空に白し橋も白し渡初の日……………(一四)
- 一、 歡衆の大群渡初の光景……………(一五)
- 一、 刻々に落ちゆく錦帯橋の無残な姿……………(一六・一七)
- 一、 荒涼たる洪水禍の跡、五龍飛躍の雄姿いづこに在る……………(一八・一九)
- 一、 瀬戸内海の各地海岸へ漂着した錦帯橋の残骸……………(二〇・二一)
- 一、 錦帯橋再建起工式の盛典……………(二三)
- 一、 錦帯橋架設協同組合の橋梁工事……………(二三)
- 一、 錦帯橋橋梁部建造の八機構(其一、二、三)……………(二四・二五・二六)

一、錦帯橋建設鉄工会の鉄具製造臨時工場……………	(二七)
一、錦帯橋建設鉄工会の鉄具製造作業……………	(二八)
一、鉄工会の井筒沓鉄完成引渡し据附……………	(二九)
一、橋脚(台)崩壊して築石散乱の慘景……………	(三〇)
一、橋台の残壘を取払いつゝある状況……………	(三一)
一、井筒沈下中の水中検査並に旧工作物の堀出し光景……………	(三二)
一、井筒式橋脚埋設の現況……………	(三三)
一、井筒式橋台基礎工事の進行……………	(三四)
一、各橋台(脚)の井筒沈下作業……………	(三五)
一、橋脚成就し外壁に張石を装う作業……………	(三六)
一、第二橋脚井筒沈下記念撮影……………	(三七)
一、ルース颱風の錦川洪水……………	(三八)
一、橋脚築造を担当した岩国建設協会の一党……………	(三九)
一、錦帯橋の再建復興に努力したる市議會議員の面々……………	(四〇・四一・四二・四三)
一、錦帯橋建設局の陣容……………	(四四)
一、錦帯橋の再建に新時代の技術を吹込たる顧問の両博士……………	(四五)
一、橋桁刎ね返し用隔石の全廃……………	(四六)
一、甲斐の猿橋の桁起しと錦帯橋の其れと……………	(四七)

一、昭和四年横山寄りの第四、第五橋架替當時の情景……………	(四四)
一、錦帯橋の護衛樹たりし寿木「槍倒し松」は遂に枯れた……………	(四五)
一、浮城のように映り出した宵暗の錦帯橋……………	(五五)
一、錦帯橋完工式の祝賀団、平田の囃し田と鶉飼……………	(五五)
一、思い出深き錦帯橋の歴史的面影……………	(五四)
一、徳富蘇峰先生の愛硯錦帯硯……………	(五五)
一、二十八年前の今上陛下と錦帯橋……………	(五六)
一、皇室へ献上したる錦帯橋の模型……………	(五七)
一、湯淺七右エ門と児玉九郎右工門の幽香しき遺影……………	(五八)
一、吉川広嘉卿が架橋を監視した別荘の一室……………	(五九)
一、萬谷御別荘の月夜物語……………	(六〇)
一、名勝保存に付文部省委員の視察並蒙古音楽団の一行……………	(六一)
一、外字新聞に現われたる錦帯橋の再建復興……………	(六二)
一、落橋、復興當時、在岩国の報道陣士……………	(六三)
一、錦帯橋史の編纂終結記念日の著者……………	(六四)
一、日本建築学会員大挙して新装の錦帯橋見学……………	(六五)
一、岩国観光協会の錦帯橋史発行会議……………	(六六)

図 表

錦帯橋の復興と新しき姿 錦帯橋・木の香も高きその雄姿



昭和廿六年二月廿二日
起工式

昭和廿八年一月十五日
渡初式

爾後は河床敷石工事と
橋梁部の補修を終えて
昭和廿八年五月三日完
工式

工事期間

二年一ヶ月

総工費

壹億壹千八百万円

所要資材

△架橋木材

約一千六百石(檜、

樺、松、栗、榎等)

△橋石材料

在平品を用ひ

△鉄筋鉄骨九十一通

鋼三、四通

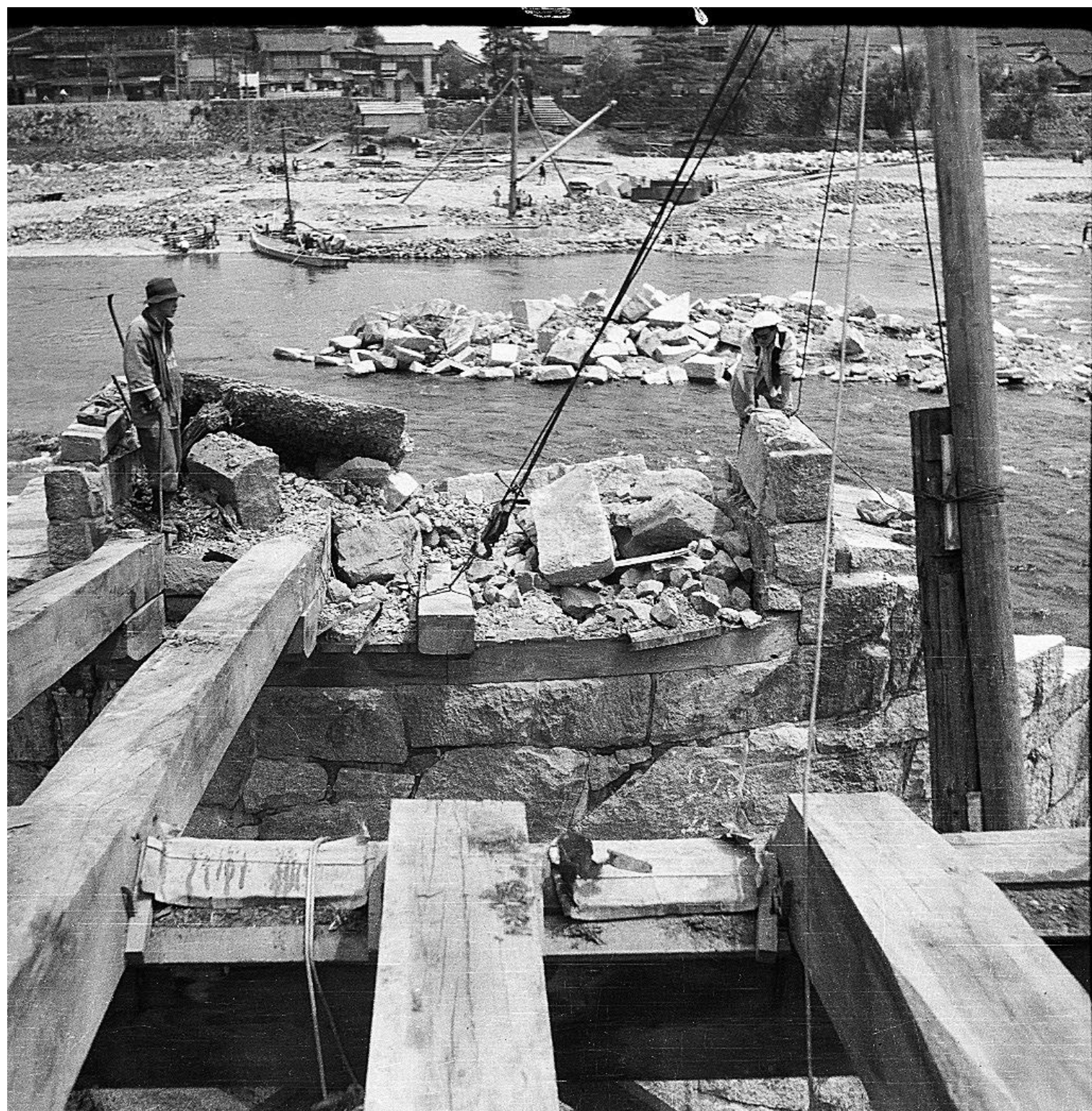
△セメント

九百六十二通

所要勞力

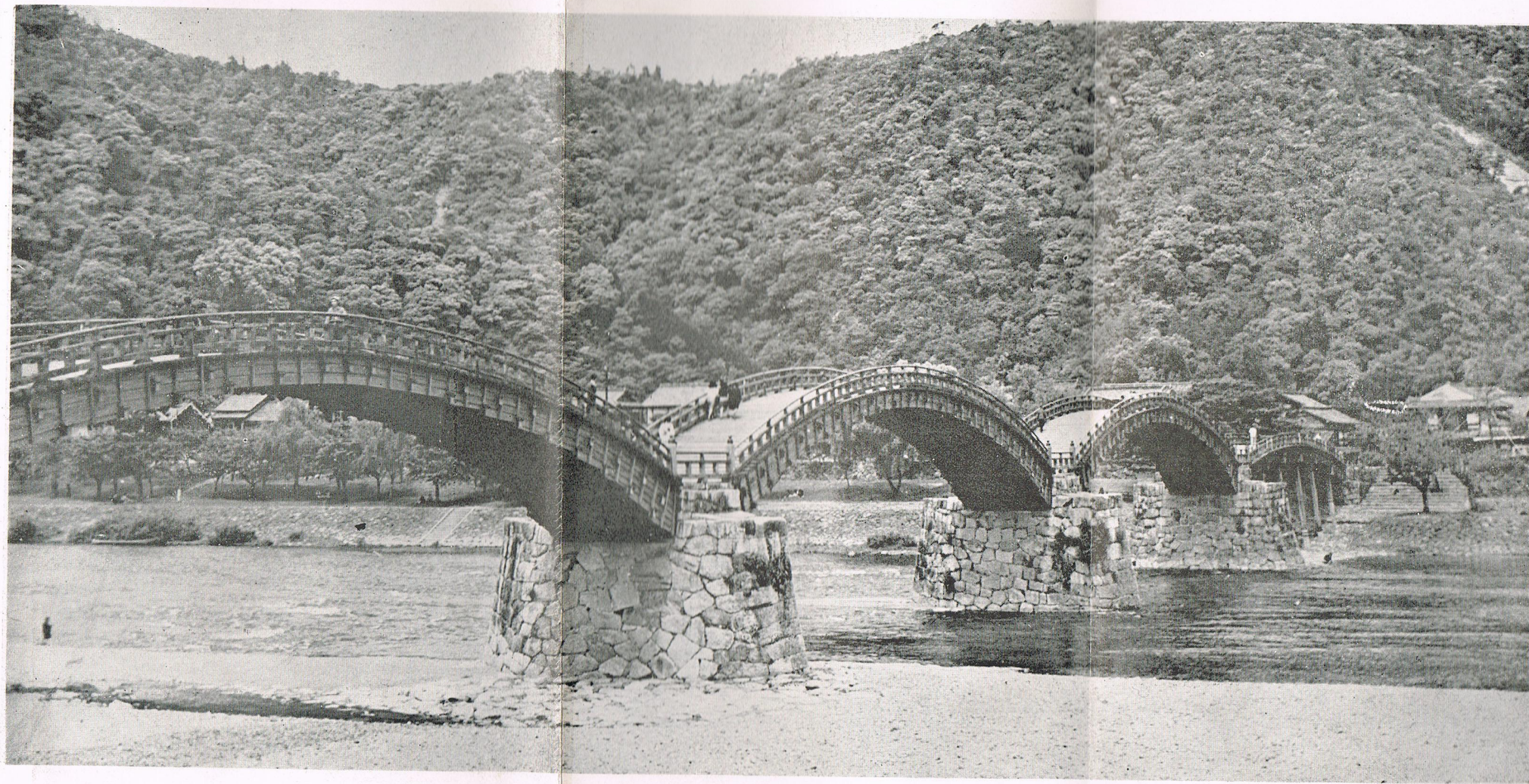
延約六万八千人

(大工、鍛冶工、石
工、土工、葺工、潜
水夫等)





昭和二十五年九月十四日キジア颱風禍に因る流失前・在りし日の古色ゆかしき錦帯橋



延宝元年（一六七三年）の創設、翌延宝二年五月廿八日洪水にて橋台崩落、橋梁流失、此間寿命僅に半年。

流失の原因が橋台の築造不備に在るを察して直に再建に着手し、約四ヶ月余にて竣功、即ち延宝二年十月也。

爾來二百八十年、幾十回の風水害に遭遇するも落橋の変を招かず。

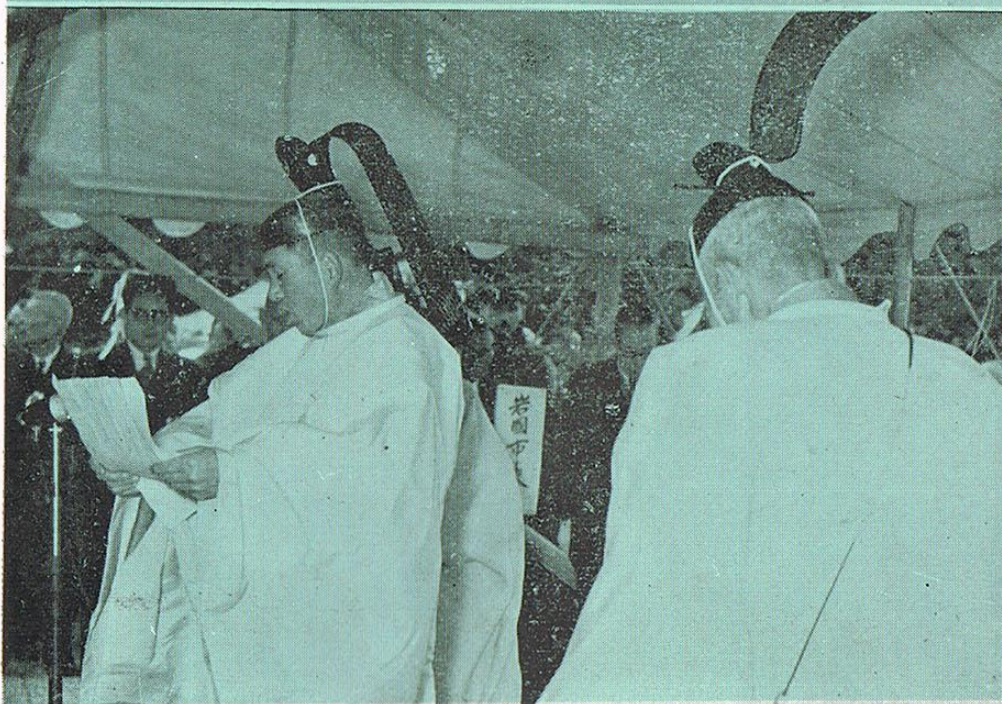
偶々昭和廿五年九月の水禍に大変災を来した禍因は延宝二年と同じく橋台の弱点より生じた。二百八十年間既に弱っていたものと思わ

る。
今度の再建に橋脚（台）の基礎工事を井筒式に改めたのは此理由である。

……開式。錦帯橋初式橋靈奉告祭典



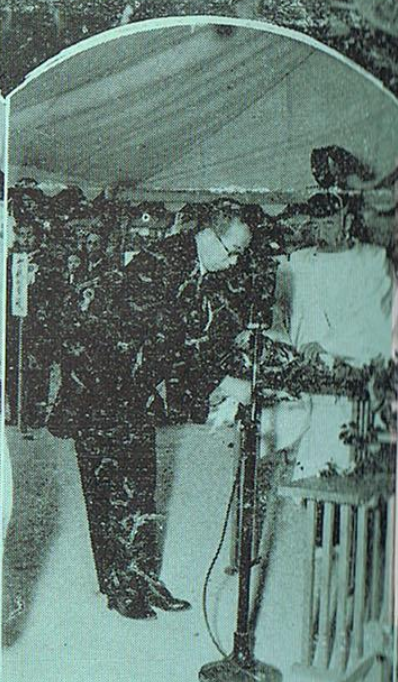
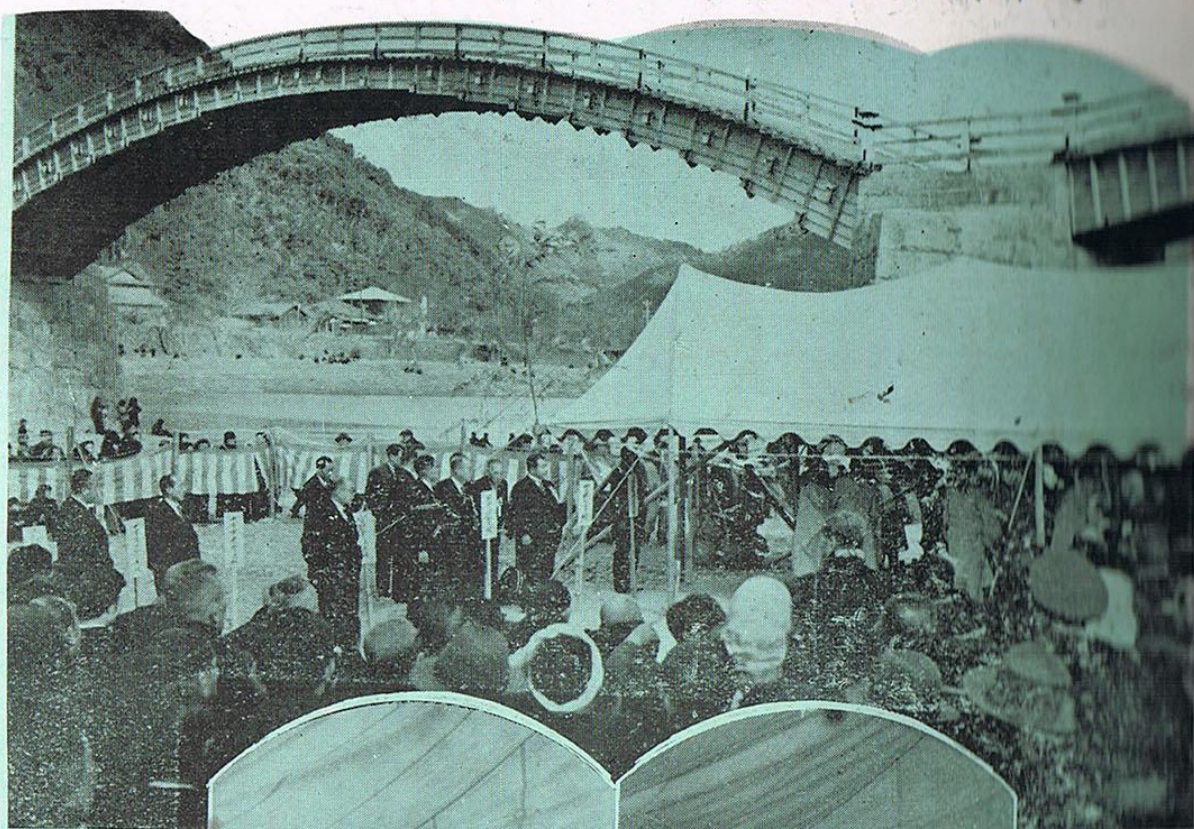
①



②

- (1) は新装の錦帯橋下に於ける渡初奉告祭場、群客此処をめぐつて数万参列す、橋上には人影なし只役員のみ
- (2) 司祭の神職、一木宮司並に宮地司祭
- (3) 久能岩国市長の玉串奉奠拝
- (4) 田中山口県知事の玉串奉奠拝外参列者之に順じて奉拝
- (5) 一般参列者の最前列なる三代夫婦八家族の一群

昭和二十八年一月十五日午前十時……



④ 員、受田衆議院議員、二木
山口県会議長、森本町村会
長、其他

⑤ 市、重宗、栗河衆議院議員
議事、重宗、栗河衆議院議員



渡初式典終りて久能市長東口のテープを切斷す

是より行列順序に隨いて橋辺橋下の大群衆続々
新橋の板を踏み渡る

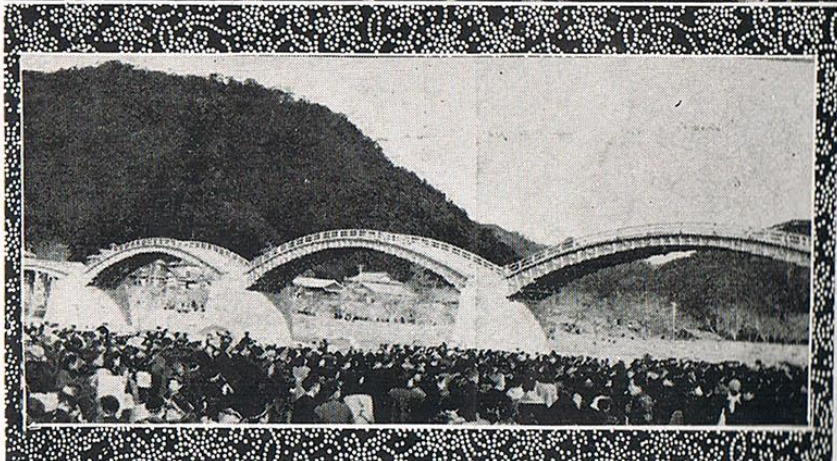
(中央) 久能市長 (其右) 品川建設局次長 (其左) 八賀建設局工務課長
市長の右後方、桑田市議會議長



渡橋門を待機する報道陣・写真班・映画班・放送陣の人々



橋下の渡初式祭場を包囲する河原の歓衆大群



当日通車より数分前、河原の無圍
五万と称し、或は十方という、
今や橋東口の行通止アーズは
市長の缺にて切られ、これら
の群衆は序を追つて橋上にと
急ぎゆく

官公職先登に次で三夫婦揃いの八家族渡初め



(毎日新聞社提供)

三夫婦揃うて一家族を成すは世に珍らしき御目出度い事で、錦帯橋あつてこのかたの吉例に従い此日の大呼物
岩国市内に三夫婦揃いの家が十一家族あつたが、内三家は都合にて参列を辞退し



(毎日新聞社提供)

たものである
一月十五日の錦河
原は川風が寒い、
時々薄雲もチラチ
ラ飛んだ其中を長



(中国新聞社提供)

い間立つて祭典を終えた疲れにも退屈せず
渡り初めの五つ反りを、健気に昇降して渡
つて来る老男老女のニコニコ顔・年若き男
女の観衆から万歳万歳の声が揚つた

光榮ある三代夫婦揃う目出度い家 (其一)

(錦帯橋渡初式に出場の八家族の内)

(今津) 上

(今津) 中

(今津) 下

孫	長男	米屋	係	長男	市木	孫	長男	釘屋
数	才助	寅	誠	与一	右一	大輔	義雄	萬次
(三五)	(六一)	(八七)	(二八)	(四九)	(七七)	(二八)	(四八)	(七〇)
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
ハ	ハ	マ	昭	イ	ス	美	ヨ	ナ
ッ	ッ	チ	シ	ミ	江	子	子	子
子	子	子	子	子	子	子	子	子
(二四)	(五四)	(八二)	(二四)	(四八)	(七四)	(二六)	(四七)	(七四)



家い度目う揃夫婦三代ある榮光 (其二)

(錦帯橋渡初式へ出場の八家族の内)

(室木)

松浦熊次郎 (七四) 妻フク (六七)
 長男 岩一 (五〇) 妻ツジ (四五)
 孫 一雄 (二八) 妻富美子 (二六)



向今津)

高藤柳吉 (七五) 妻ツチ (七二)
 二男 勇一 (五二) 妻ヨシ子 (四七)
 孫 博 (三〇) 妻礼子 (二七)



(中津)
 上村米太郎 (八二)
 長男 三治 (五八)
 孫 悟 (二九)
 妻ヤエ子 (七六)
 妻笑子 (四五)
 妻子 (二四)

光榮ある三代夫婦揃う目出度い家 (其三)

(尾津)
 孫長男 藤岡喜太郎 (八二)
 喜成諭 (五七)
 一 (三四)
 妻 妻 妻
 峯 シ シ
 子 ゲ ノ ツ
 (二五)
 (九三)
 (七七)

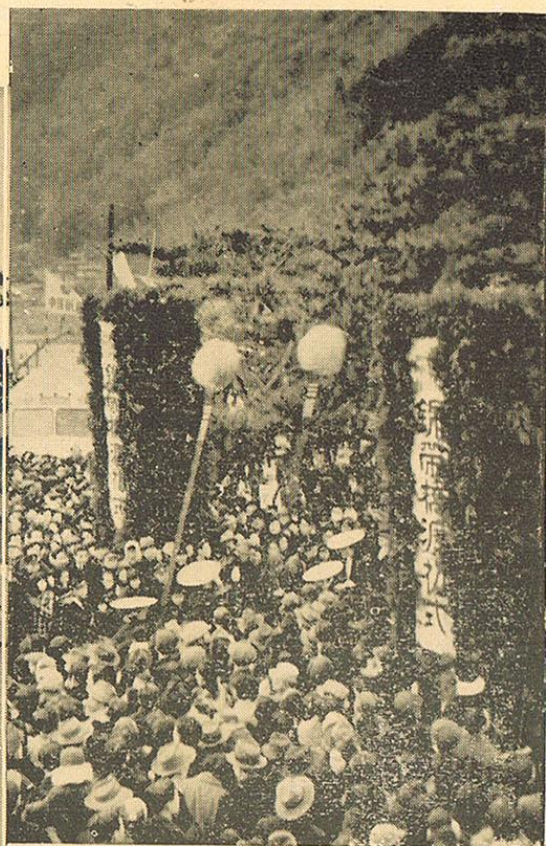


三夫婦の最後列渡り終る後へ官公庁来賓
 之に続く

(玖珂郡北河内村 長田勝三写)

…青壯年陣・傳統の作法を練りつつ新橋を渡る

大名行列東口第一橋より乗込む
(宇部市 三浦九洲男氏写)



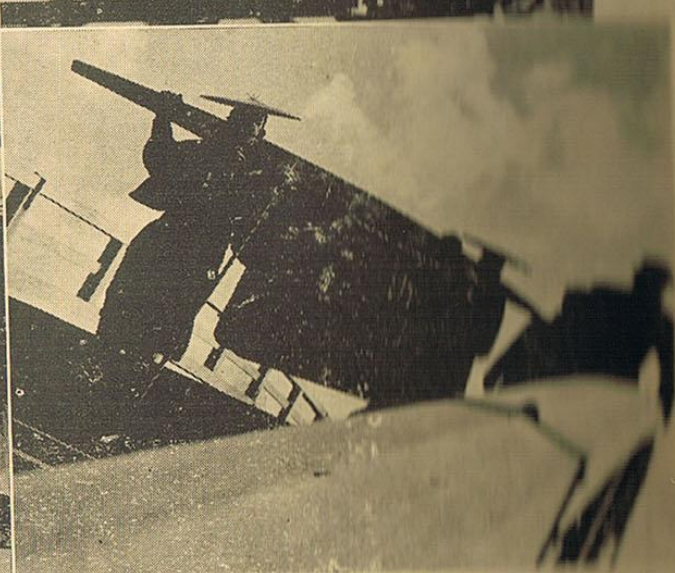
↑ 橋の東口より大名行列渡り始む (中国新聞社提供)

← 大名行列橋上のいきり子 (大島郡久賀町 浜本栄氏写)



古來錦帯橋の祝節に伴う行事・古式大名行列の

橋上のいきり子行事



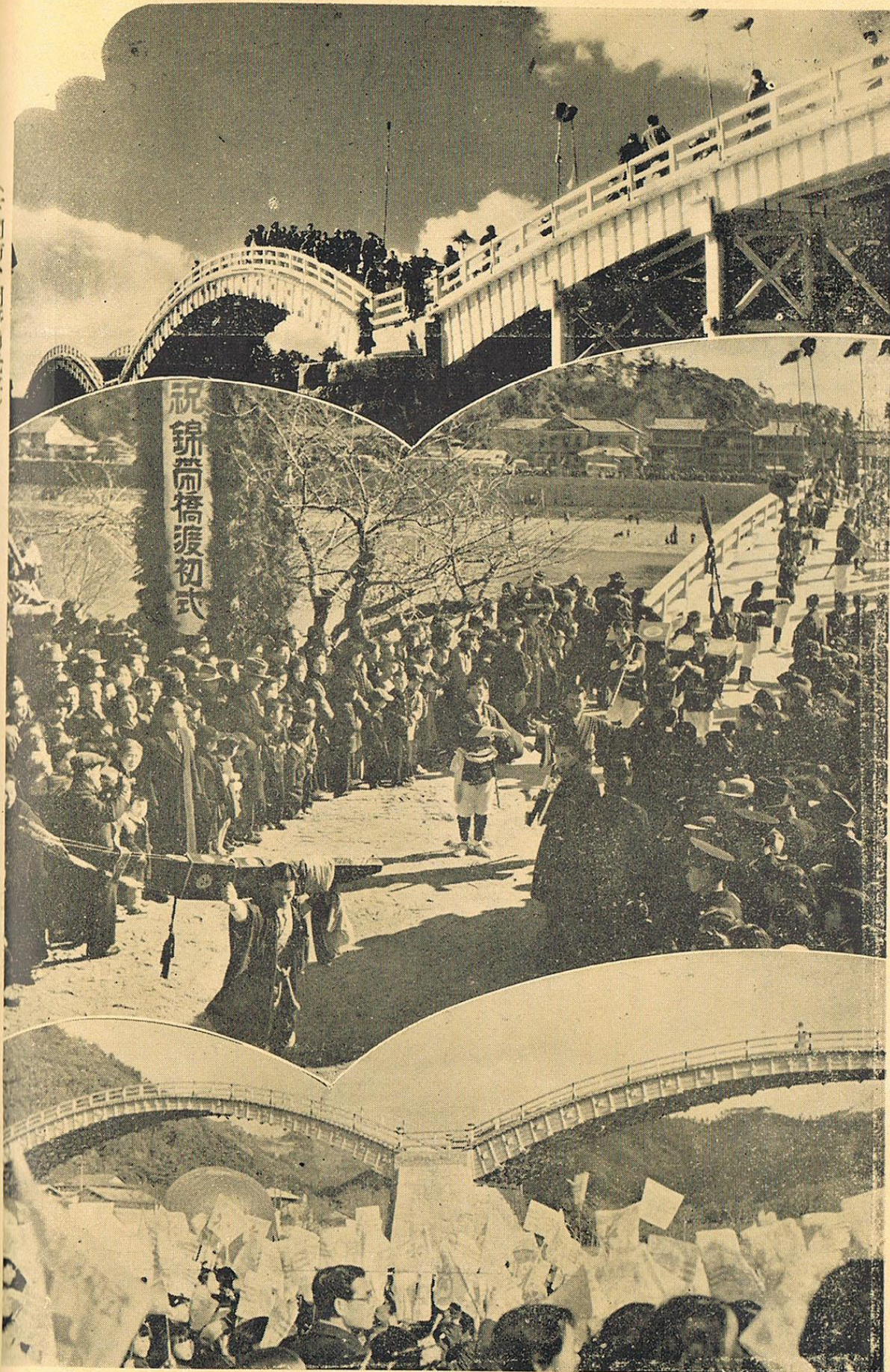
大名行列の御籠（大名乗の物）

(宇都市 三浦九洲男氏写)

凍雲青空に白し橋も白し渡初の日

空高く練り行く橋上の大名行列

横山乗越しに降り行く大名行列



(下関市、岡野勇氏写)

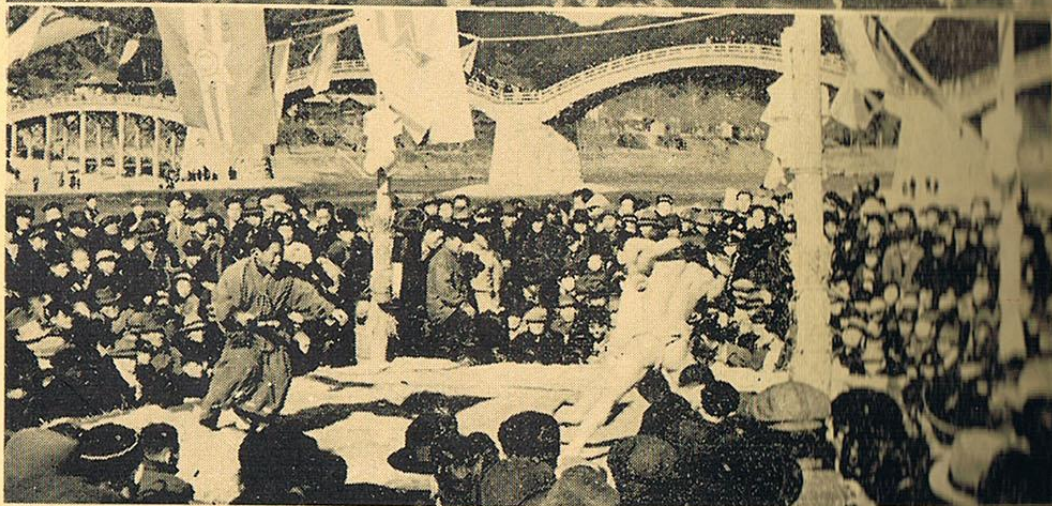
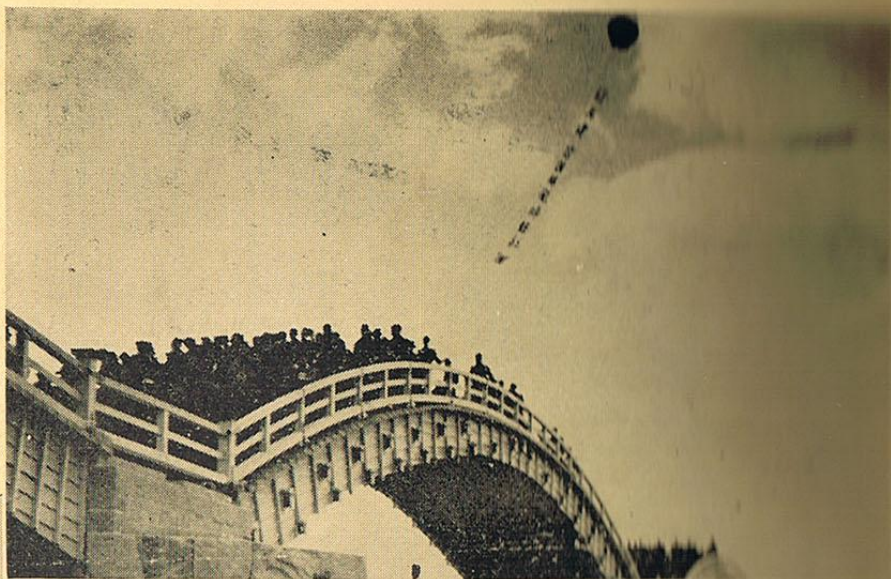
(宇部市、藤田富二氏写)

祝 錦帯橋渡初式

(宇部市 白石直典氏写)

景光の初渡群の大衆の歡

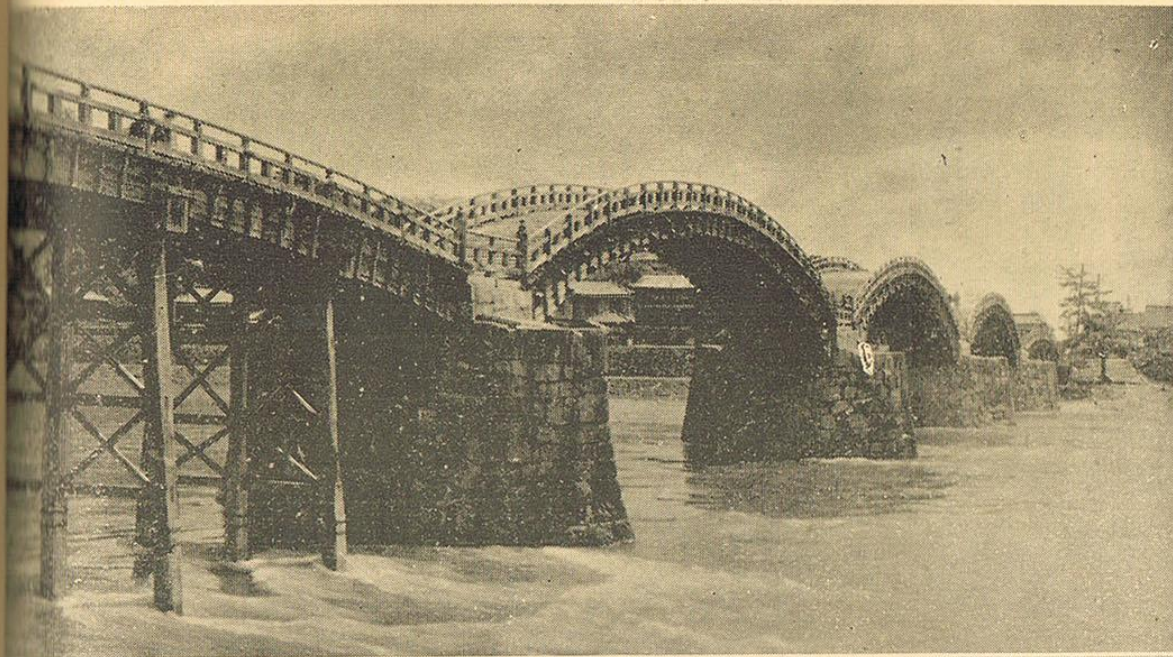
岩国興風時報社の放てるアドバルンの飛揚
 無脚アーチ形の橋に是れだけの大群を錐でなく針を立てる地もなく満載してビクともせぬ驚異すべき其保強力よ一橋三千人の計算



(毎日新聞社提供)

錦帯橋の落ちゆく無残な姿

其の前日の橋下の水位



九月十四日午前八時二十分頃の水
位刻々に増水す



同午前九時五十分第三橋墜落、第四橋
半ば墜落の利那光景

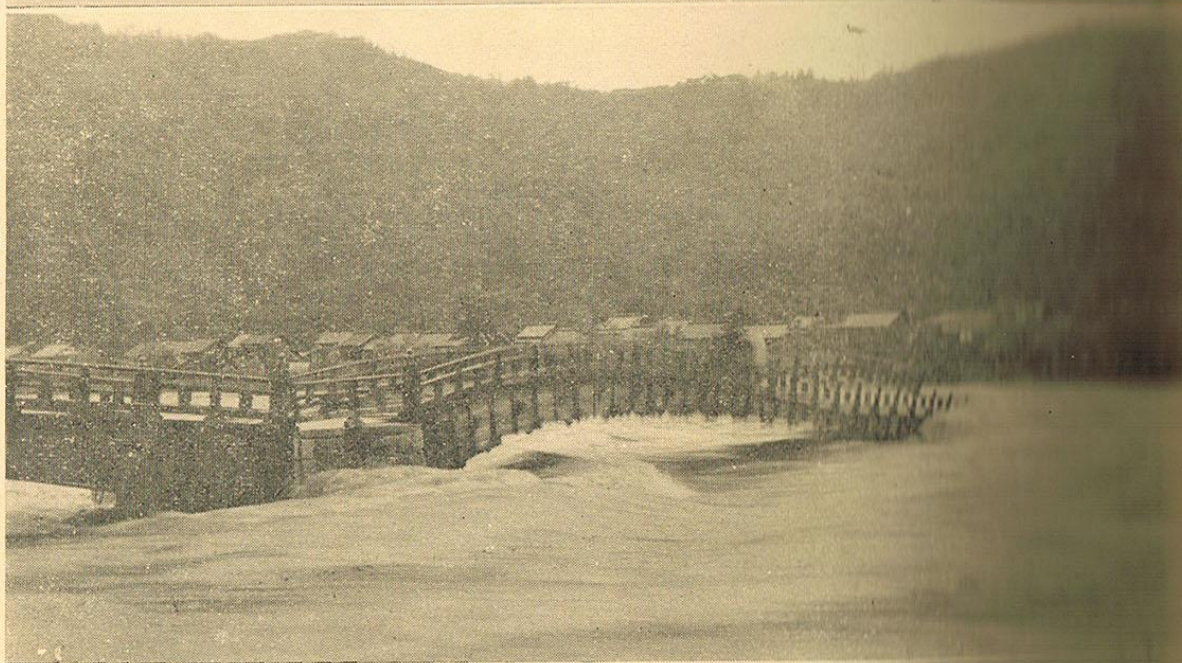


嗚呼昭和二十五年九月十四日午前刻々に

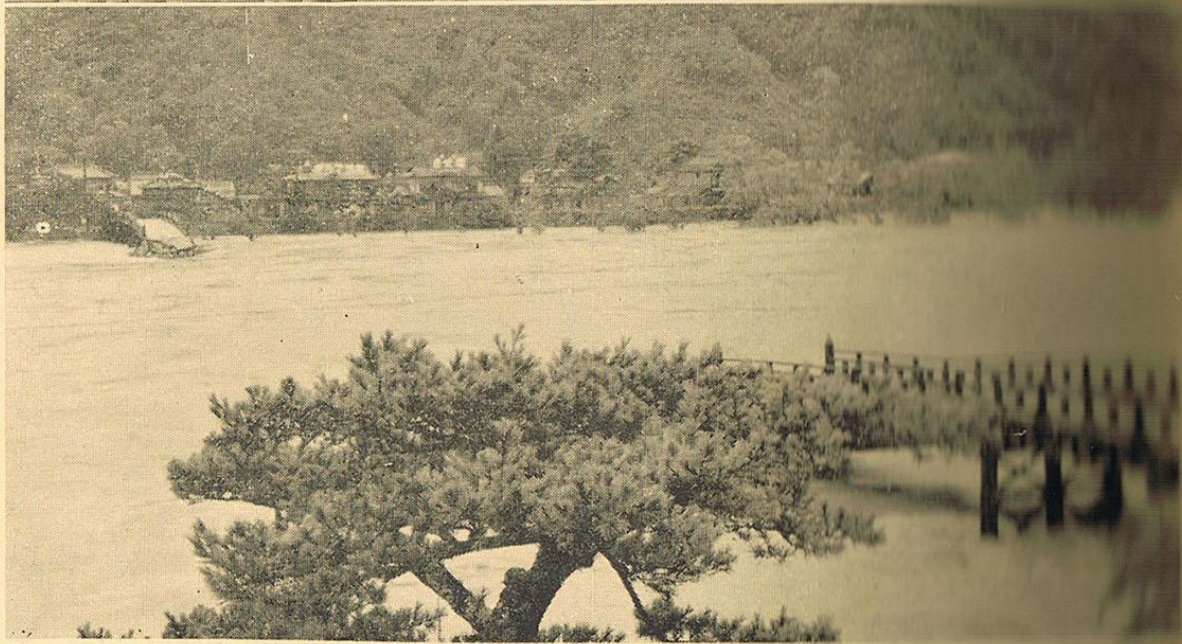
第三、第四橋流失、橋台も濁流に
吞まる



第二橋危うし



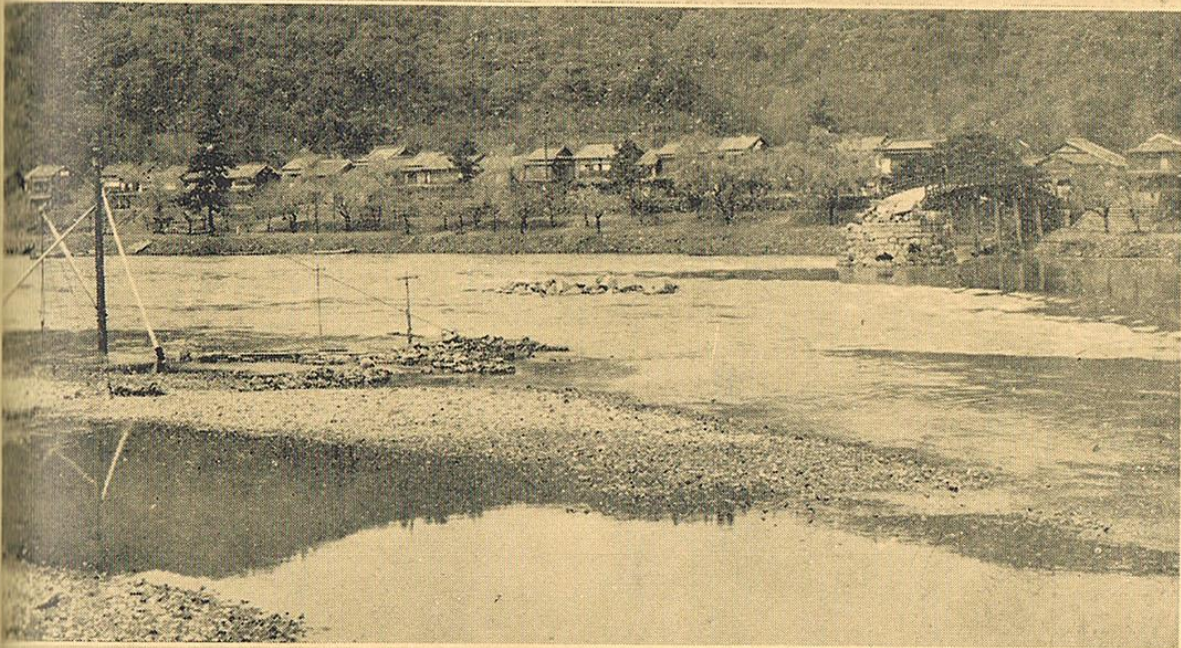
第二橋遂に落つ、無脚の反り橋皆落ちて東西
両端の有脚橋が辛うじて濁流に身ぶるいす



…し日の五龍飛躍の雄姿今いつこに在る



第一橋、脚を奪われて折断、
墜前の惨状



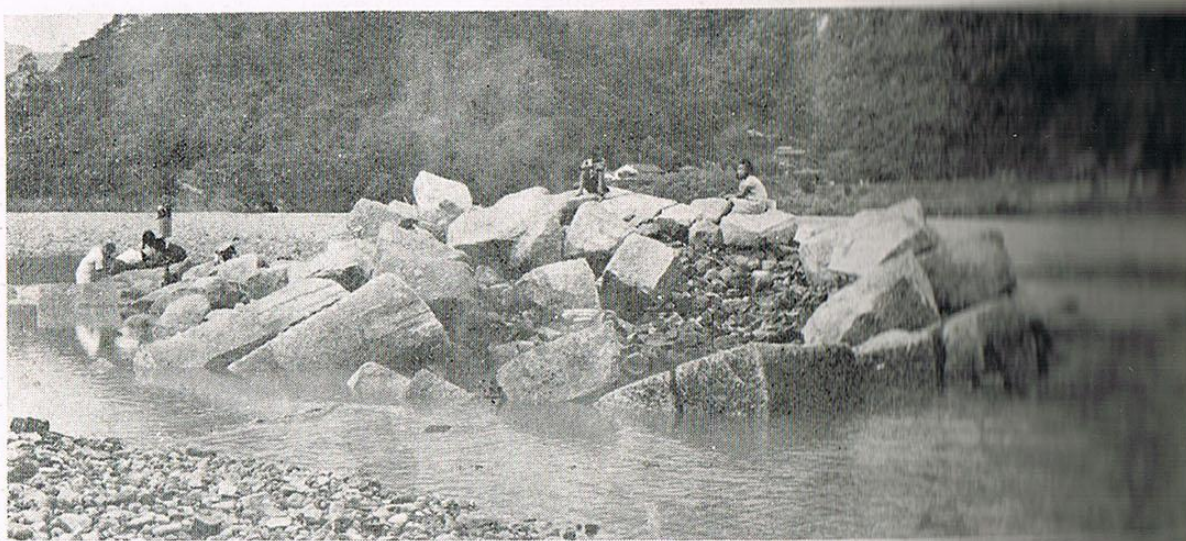
二百八十年間天下の名橋夢の跡



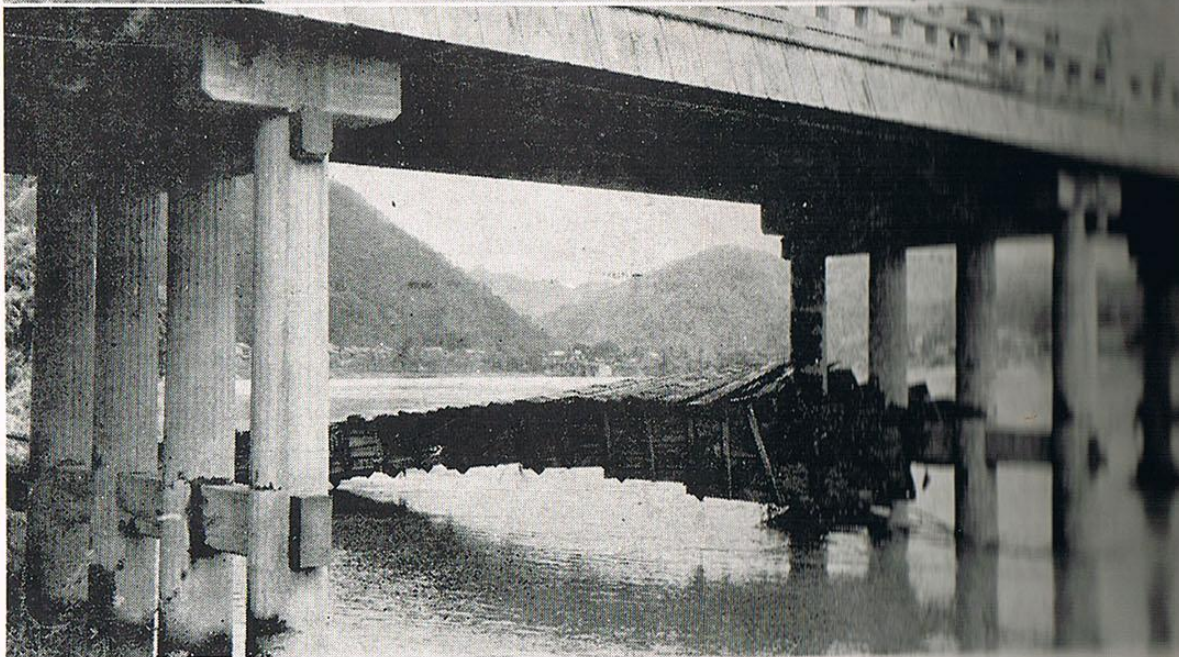
流失の橋材、下流の橋脚に引つかゝつて
残骸をさらす

荒涼たる洪水禍の跡・在り

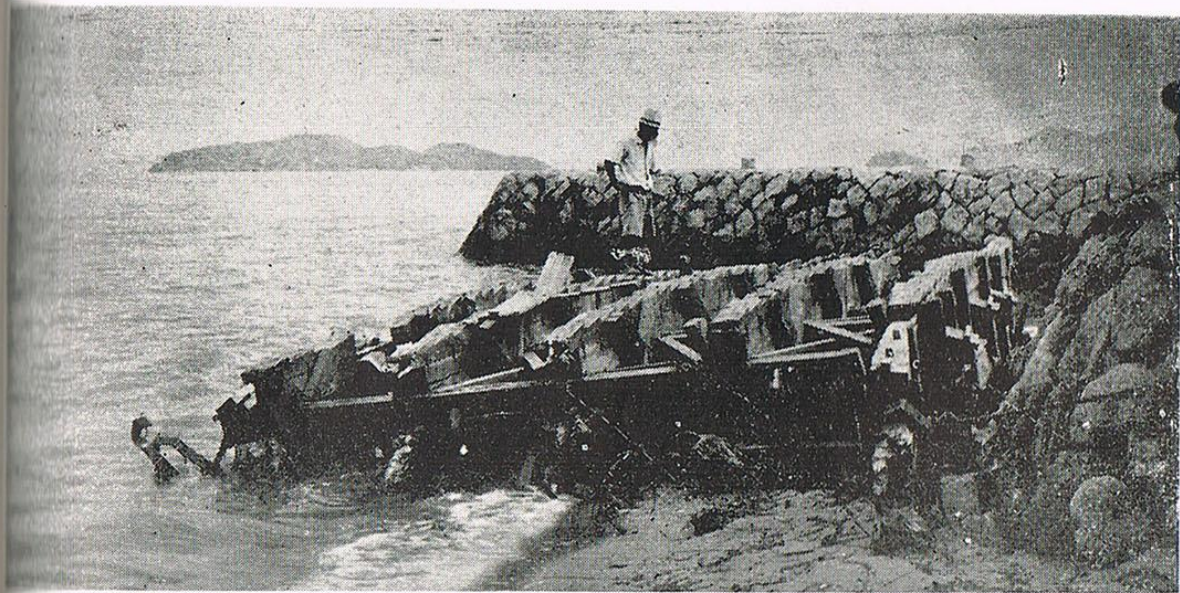
橋台崩壊濁流に洗われて残骨累々の惨状



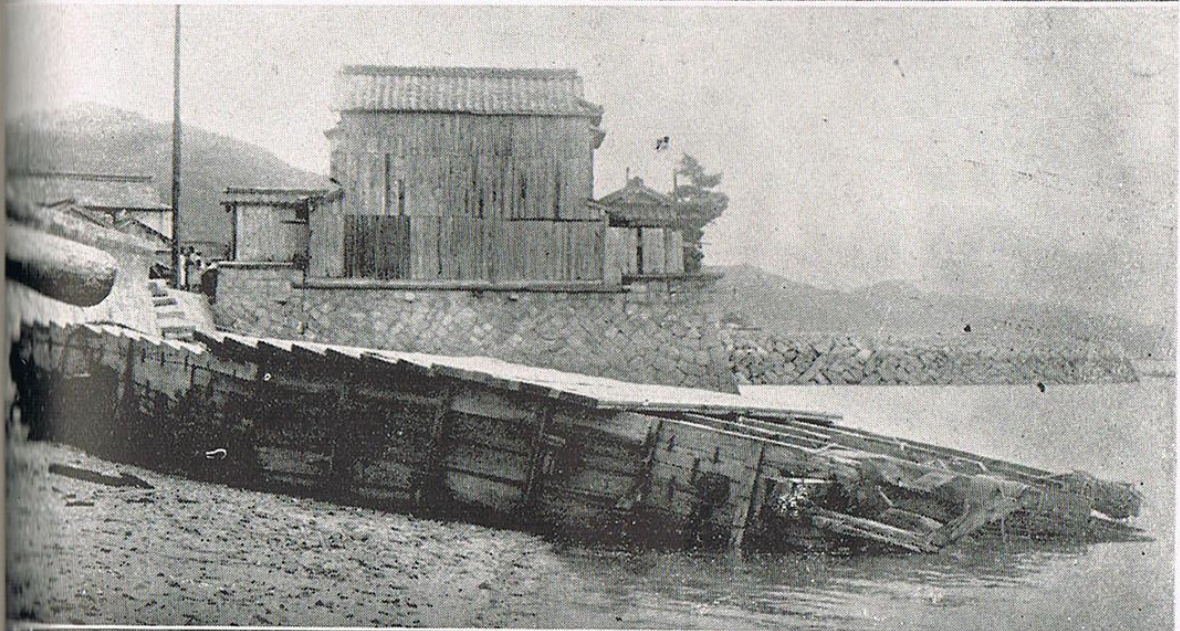
四分五乱の橋体の一部下流に引つかかる右



着したる錦帯橋の残骸

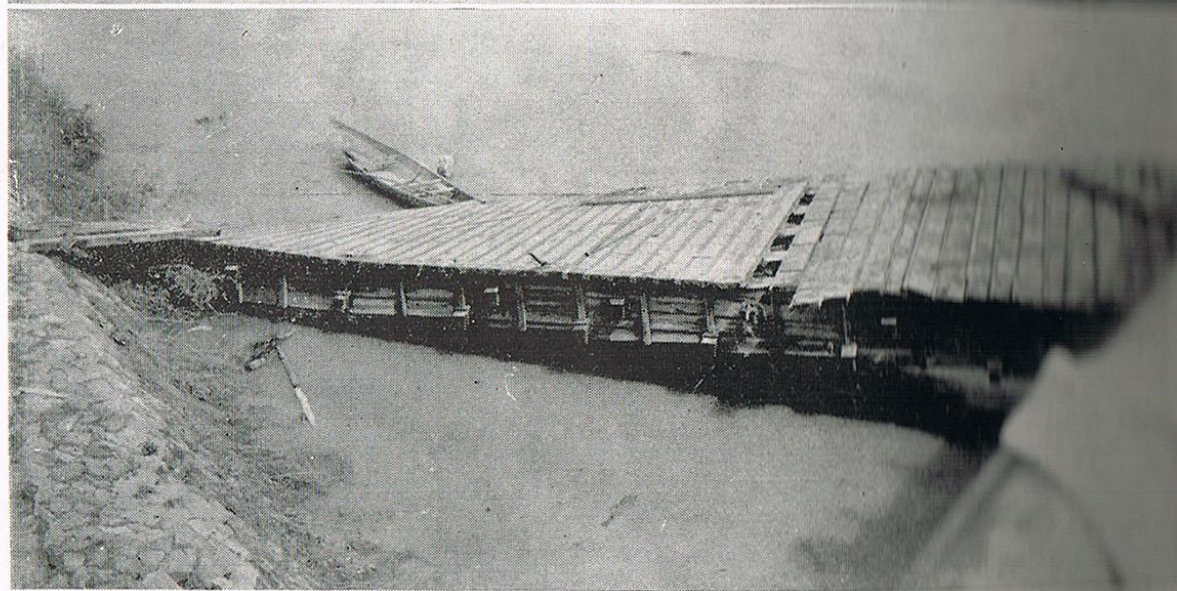
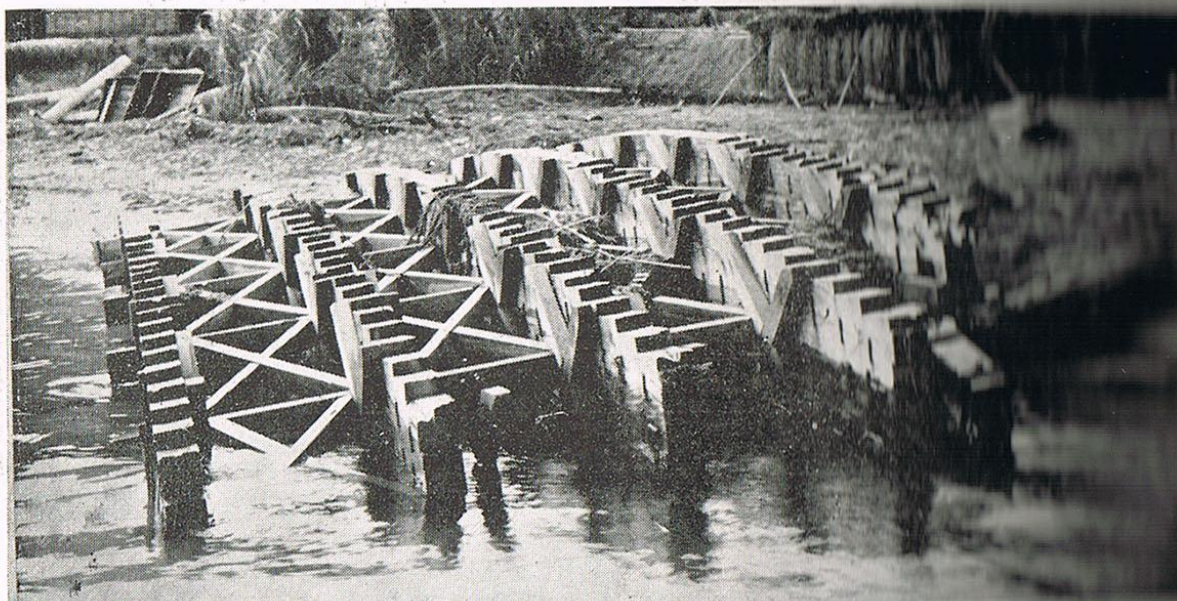


濁流に吞まれた錦帯橋の断片は橋辺より河口まで流長一里の間を浮きつ沈みつ、瀬戸内海に押流されて島や本土の
海浜へ漂着し物の哀れを留めている



瀬戸内海の各地海岸へ浦

此の橋梁は去る昭和四年架替の第四、第五橋（横山寄り）同九年架替の第一、第二、第三橋のもので、もはや何れも高欄と橋板の張替の年期が或は過ぎ或は到来していたものである。



錦帯橋再建起工式の盛典

(昭和廿六年二月廿二日午前十時錦帯橋下に於て)



津田市長の式辞

吉川広嘉卿の墓前奉告(津田市長)

津田市長の墨入れ



駐留軍司令官
将僚の参列

起工式場全景



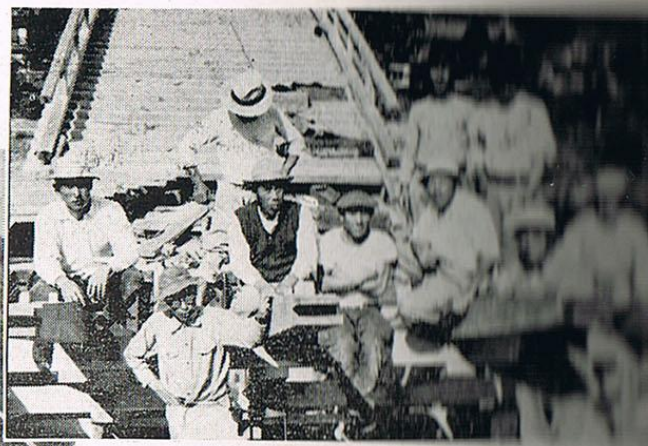
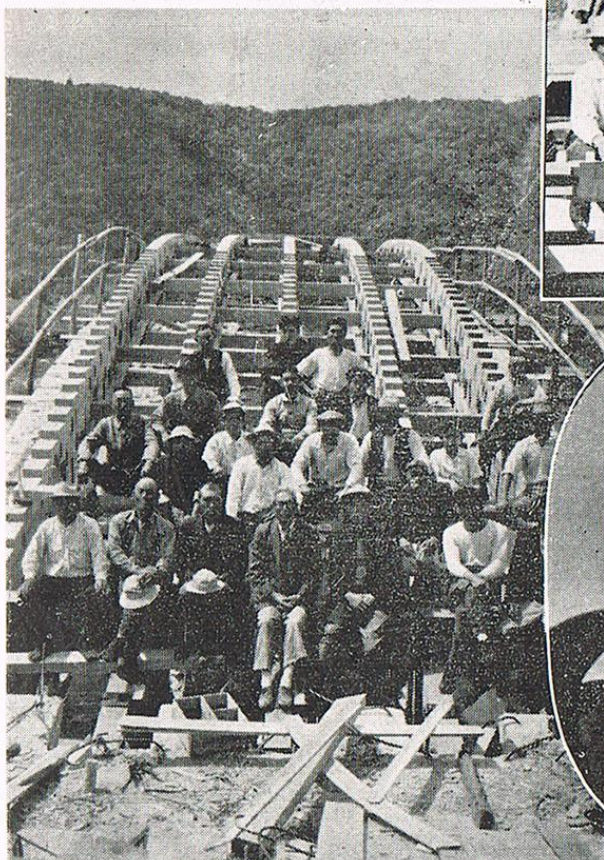
錦帯橋架設協同組合の橋梁工事

昭和二十七年十一月初第三桁組立光景

→

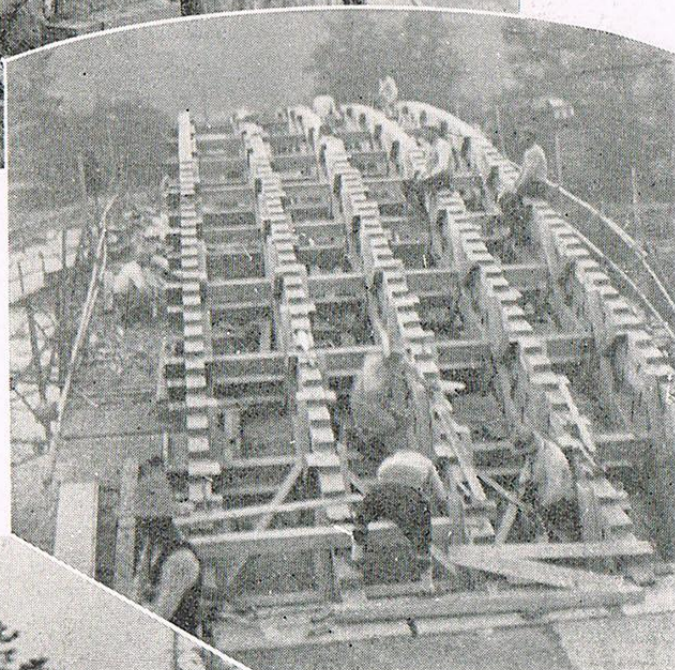
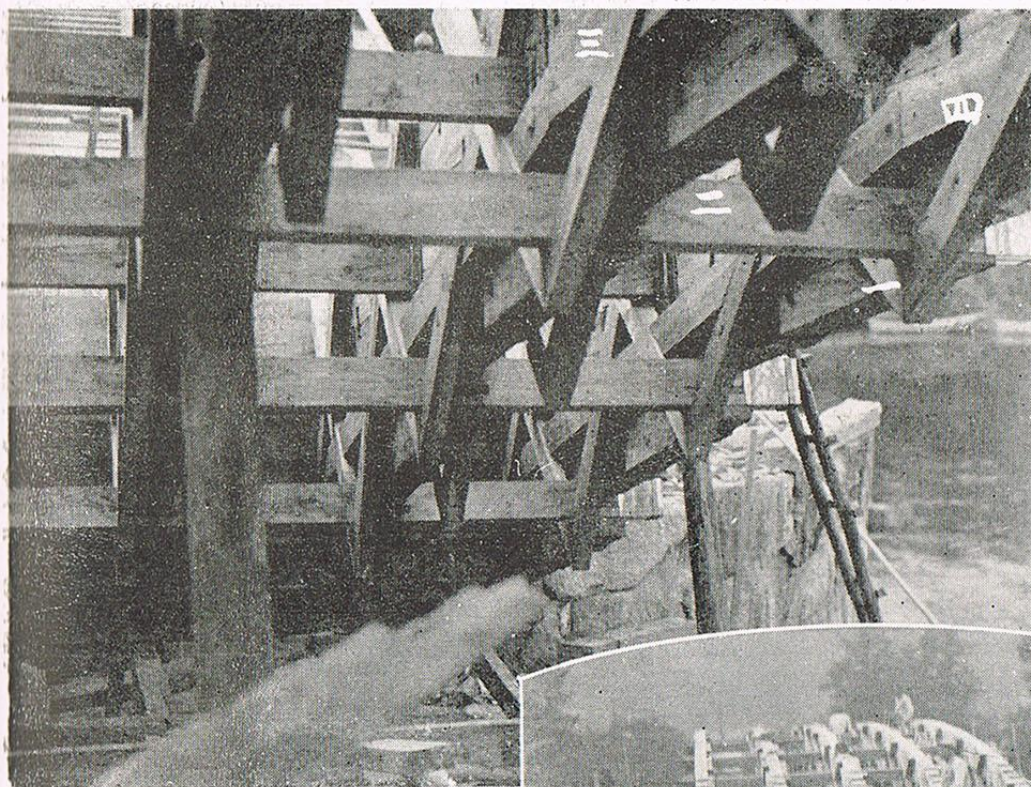
昭和廿七年四月二十八日第二橋梁架渡の光景

昭和二十八年一月十五日、渡初式当日二年の苦勞功成りて組合員一同勢揃い



(前列向て右より) 甘木屋元 (50) 宮本新一 (54) 海老崎染次郎 (69) 吉原豊蔵 (69)
小倉五郎 (38) 海老崎奈良次郎 (37) (後列向て右より) 西田満男 (48) 中川誠三 (48)
片倉寅吉 (61) 篠原経一 (60) 福島屋唯雄 (39) 茶屋源三郎 (58) 橋守元一 (58) 山本朝雄 (58)
鈴屋治助 (45)

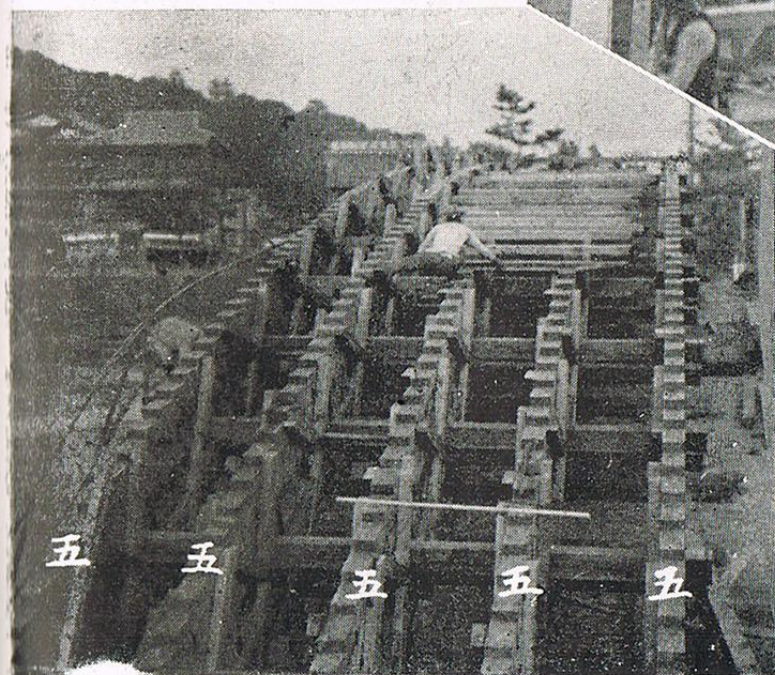
錦帯橋橋梁部建造の八機構 (其一)



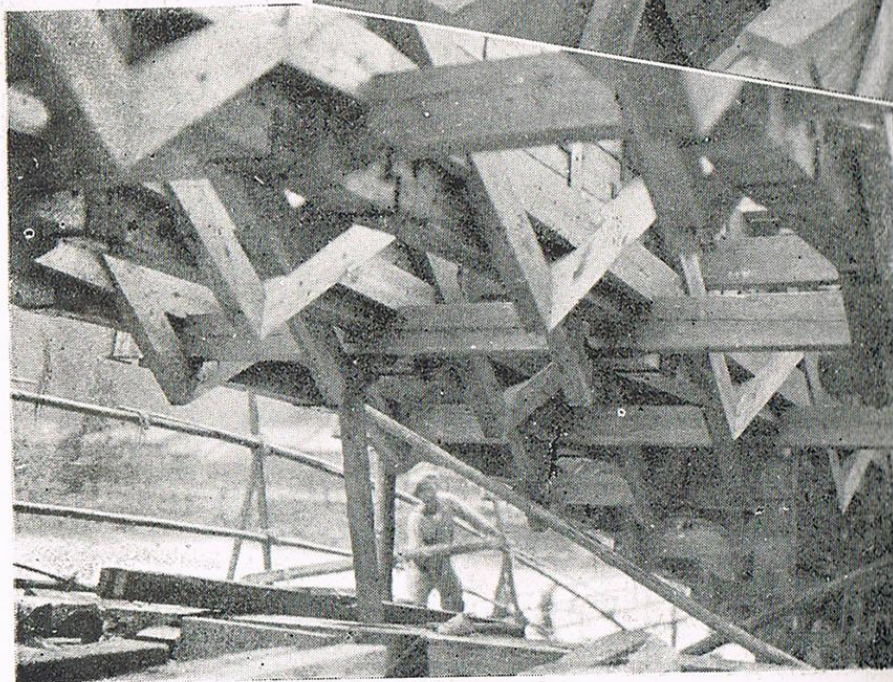
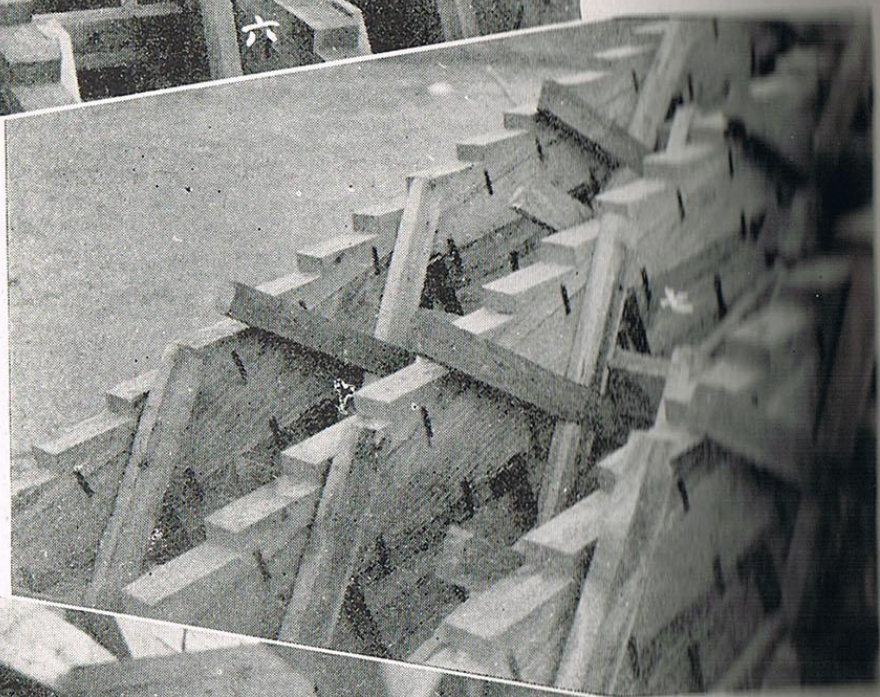
(図面説明)

記号一は 桁
 同二は 梁
 同三は 肋木
 同四は 鞍木
 記号五は 平均木

橋板下の構造を覗く

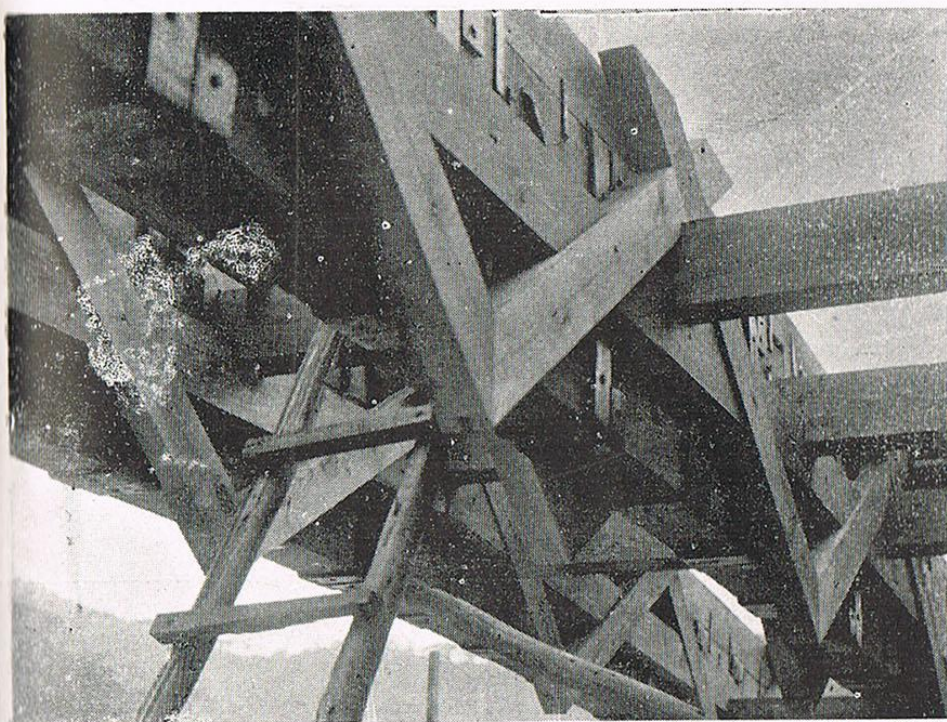


錦帯橋橋梁部建造の八機構 (其三)



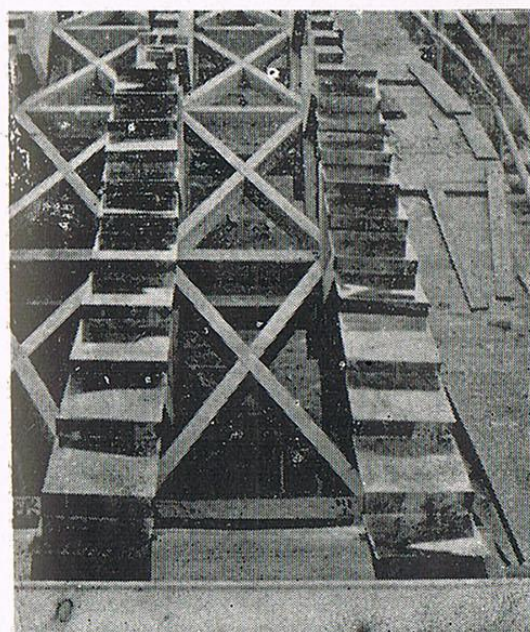
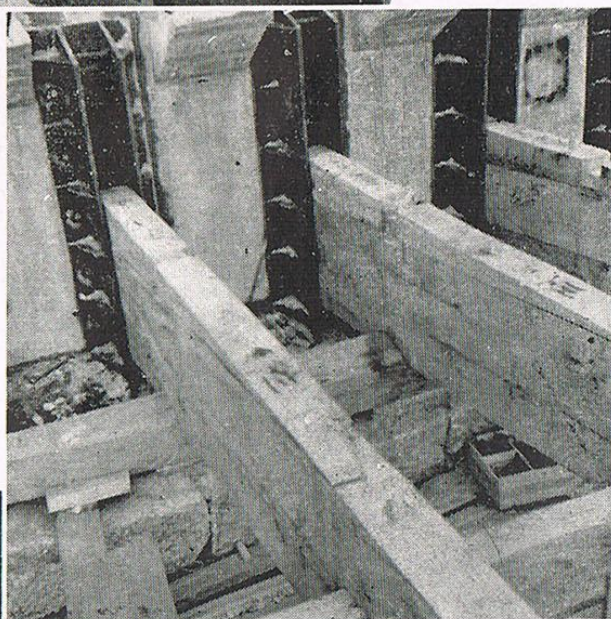
錦帯橋橋梁部建造の八機構 (其三)

錦帯橋橋梁部建造の八機構（其三）



鞍木の部

→ 橋台内の隔石を廃し桁受に沓鉄を以てした内部構造



振止め
此の機構を以て多人数渡橋するも左右に振動するを制止す

錦帯橋建設鉄工會の鐵具製造臨時工場

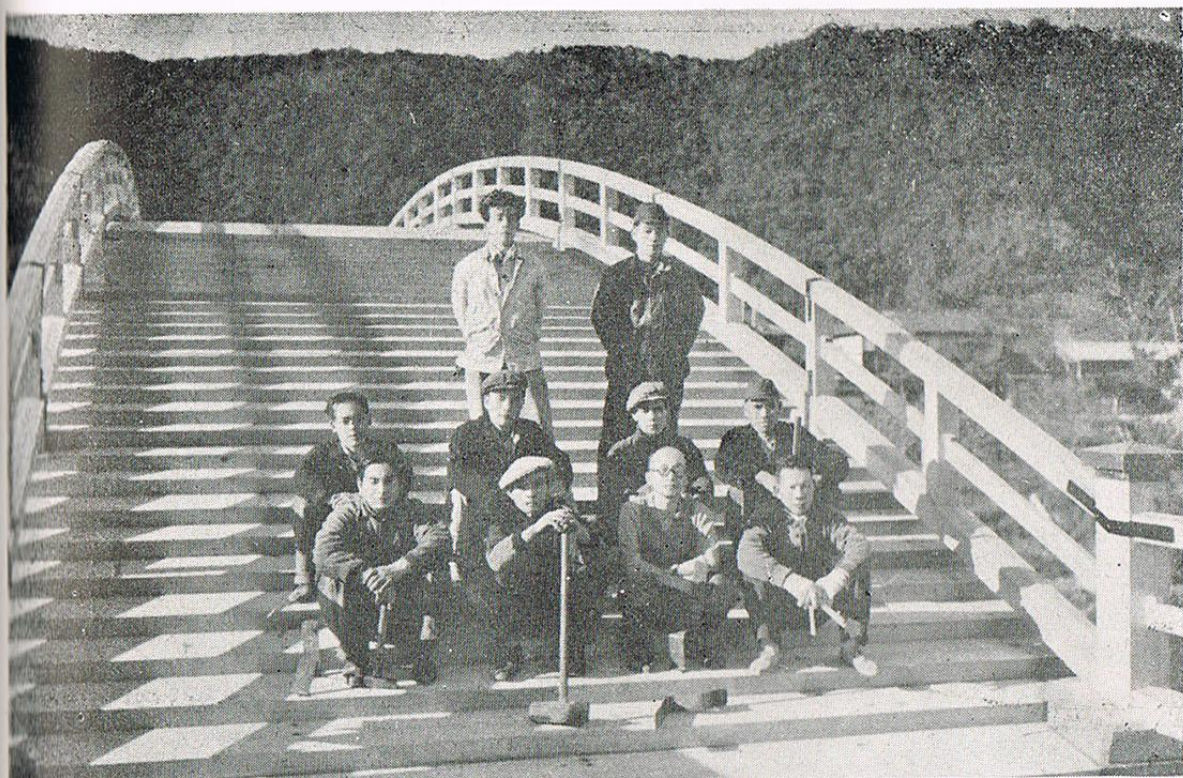


臨時工場
鐵具製造

工事中「ふいご」祭りの日に
工業者の定例に従い祭事執行

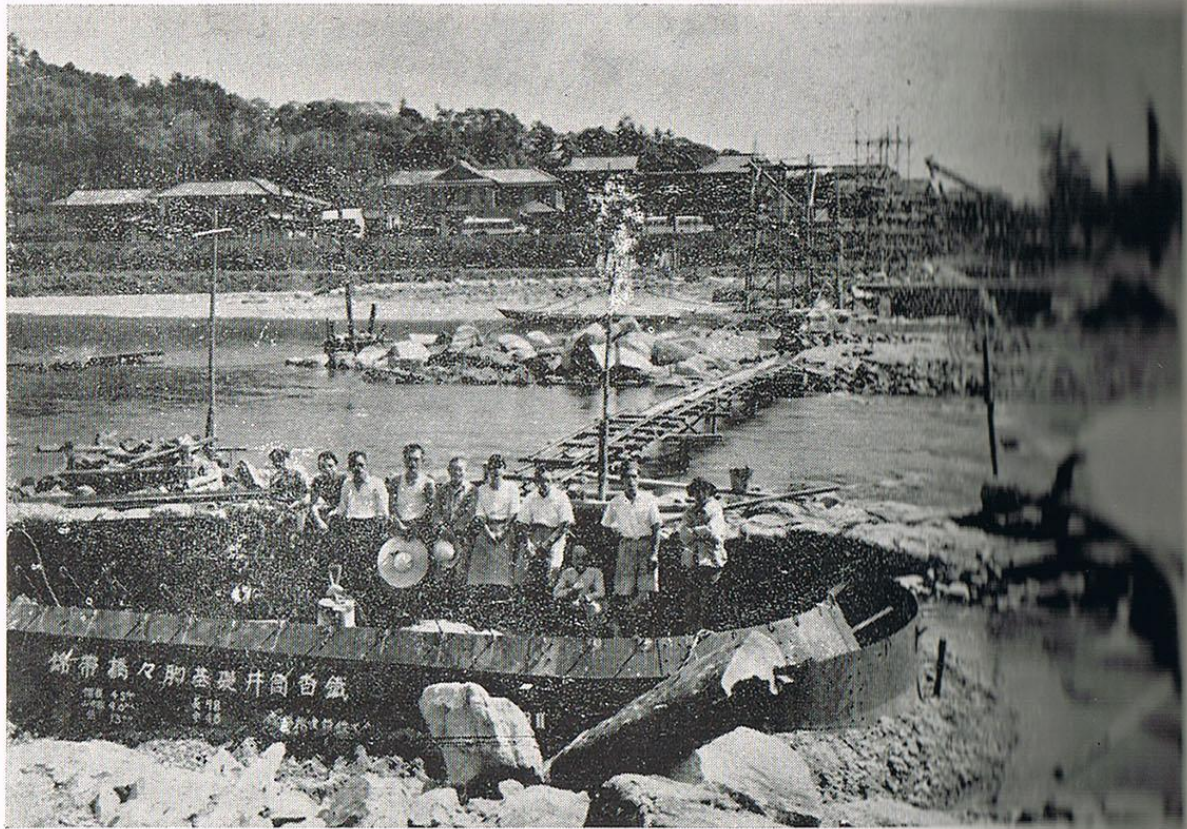


錦帯橋建設鉄工會の鉄具製造作業



鉄工會の井筒沓鉄完成引渡し据附

昭和二十六年六月製作完成



渡初式当日の錦帯橋建設鉄工会会員



村岡 文人

上林 四郎

藤村松太郎

澁川 岩雄

田谷幾太郎

岩根 文一

世並屋文明

豊島 員彦

堀村 邦人

橋脚(台)崩壊して築石散亂の惨景

東寄りの第一橋々台は第一
橋(有脚)と共に流失せざ
りしが減水後破損墜落す

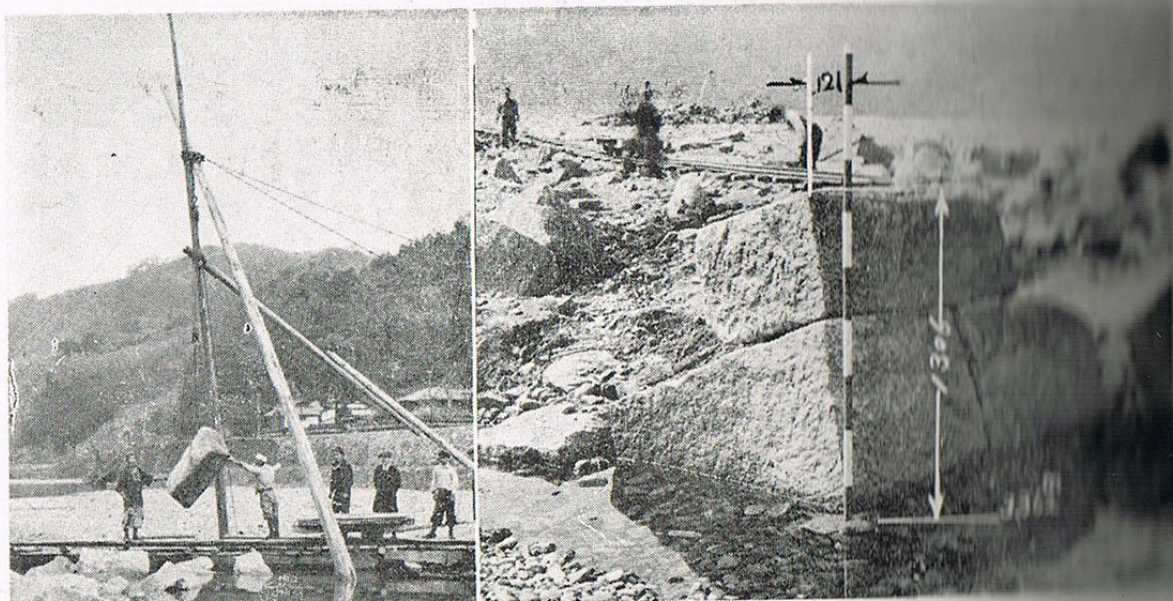
第二、第三橋間
の橋台激流にて
崩落散亂す



河床固めは橋台の保護の爲めである激流
が河床を洗い去ると橋台の基礎が危くな
る

橋台周辺の河床床固め状況

橋台の残壘を取拂いつつある状況



橋台下の掘下げ開始
旧基礎工事撤去の為



27. 9. 27.
3-4 河床の固状況

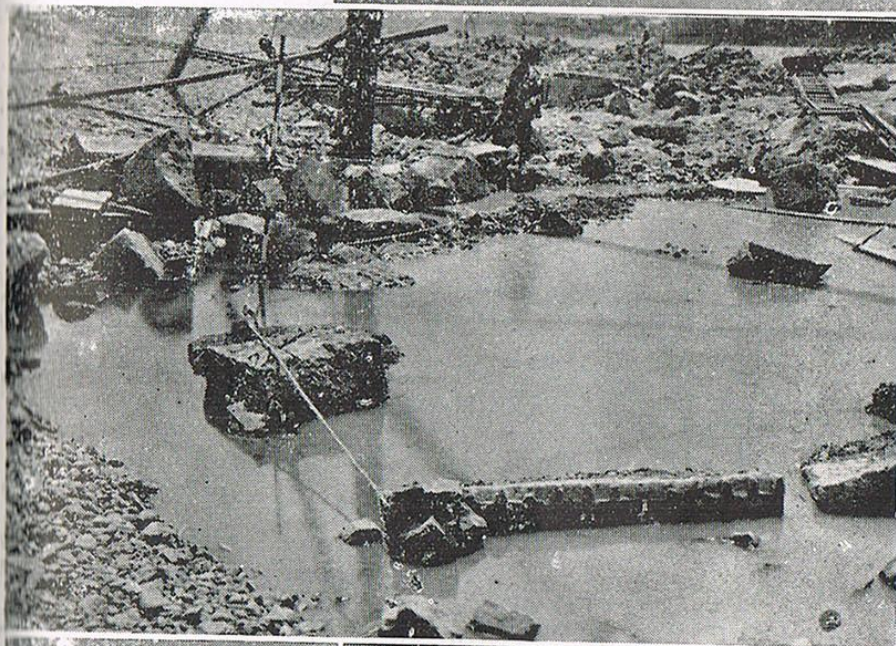
第三橋と第四橋附近の床固め、昭和二十七年九月二十七日現在

橋脚取拂いの後舊工作物堀出し及井筒探查の光景

水底の障害物に触れ当たったときは潜水夫をして何物なるかを探知せしむ又沈下中の井筒を探查せしむ

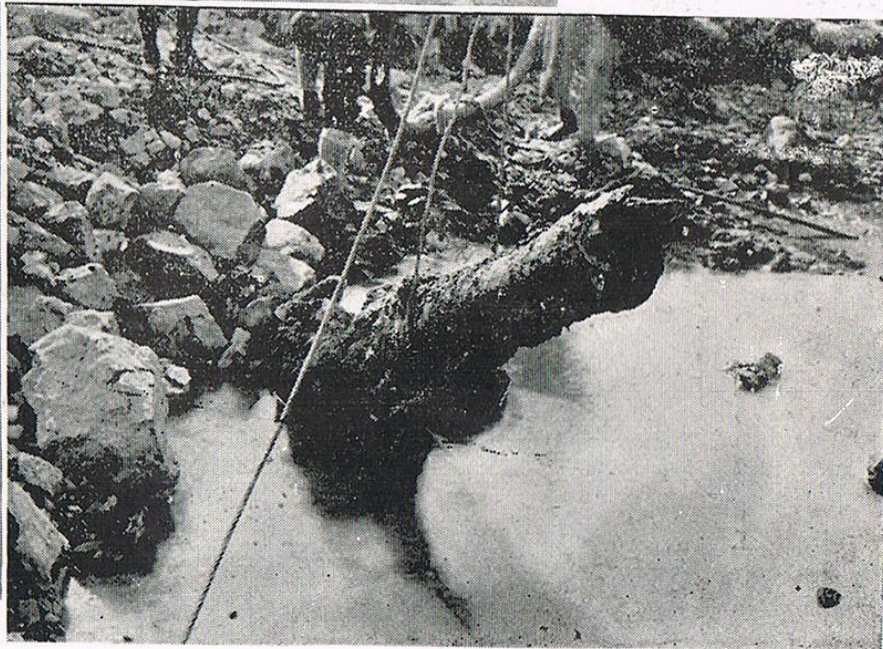
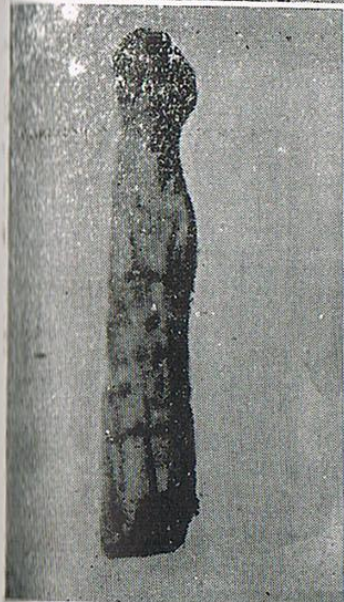
排水しつつ地中を探り出す

↓

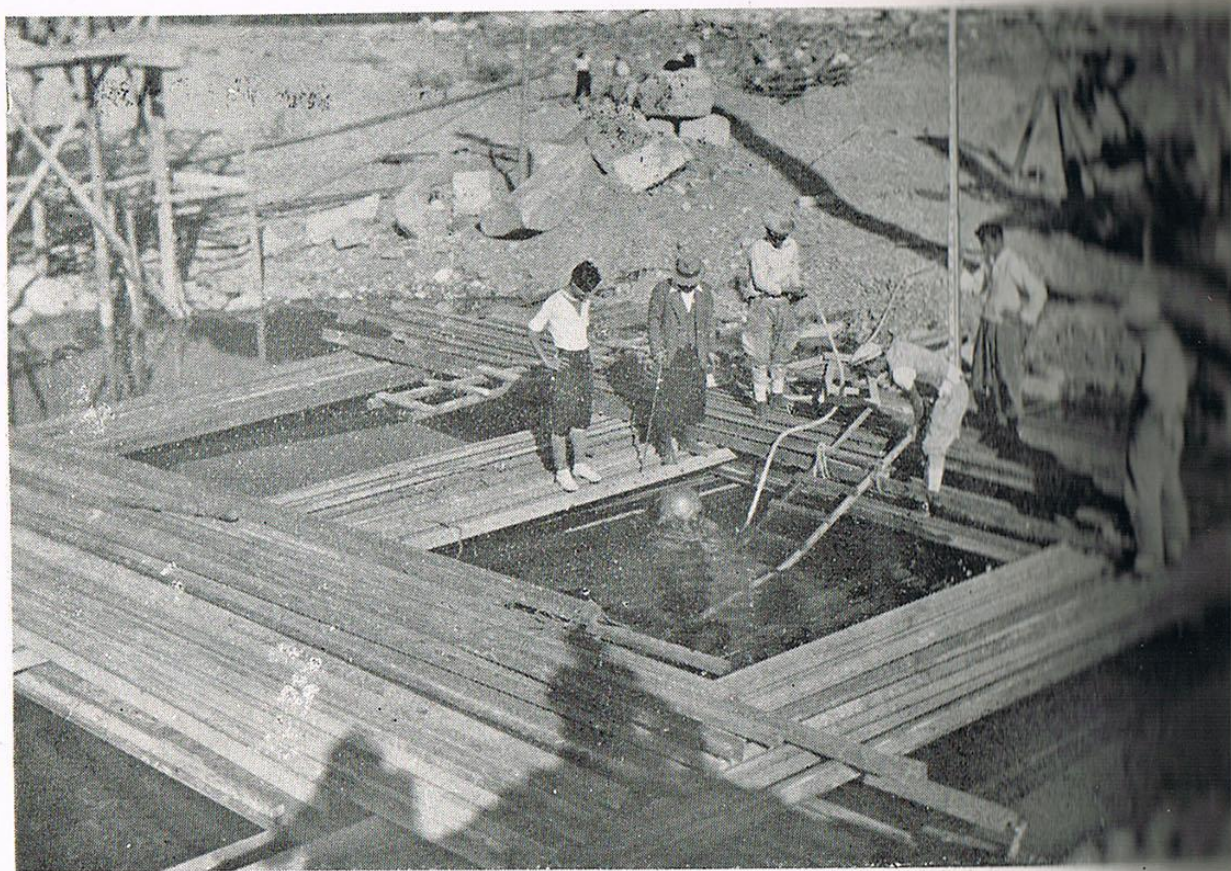


右下 二百八十年目に初めて地上に出た延宝年代の橋台下工作物編木の片割れ（既に腐朽してバラバラとなつている）

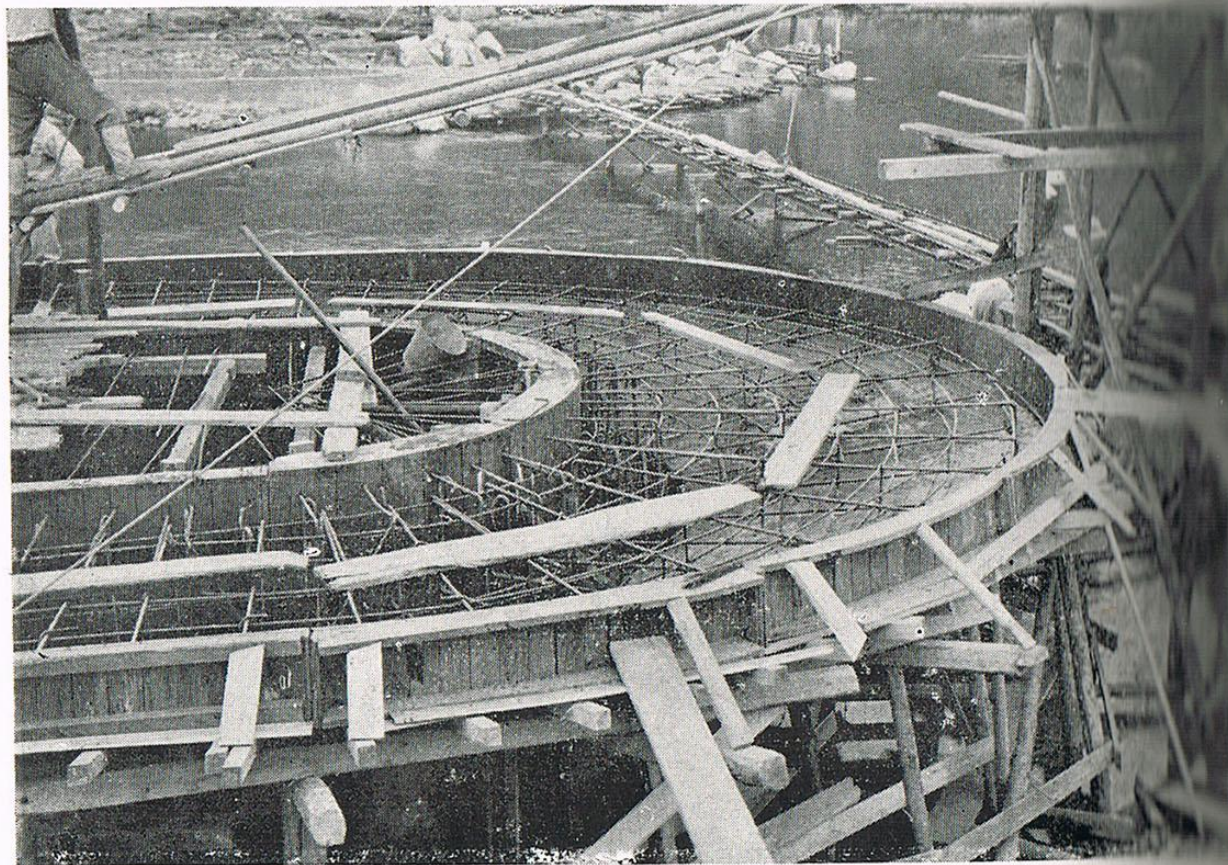
左下 此の橋台下から出て来た人像に似た朽木（人身御供の遺形でもあるまい）



井筒式橋脚埋設の現況



鉄道の軌条を積重ねて井筒を十メートル河床下に沈下せしむ



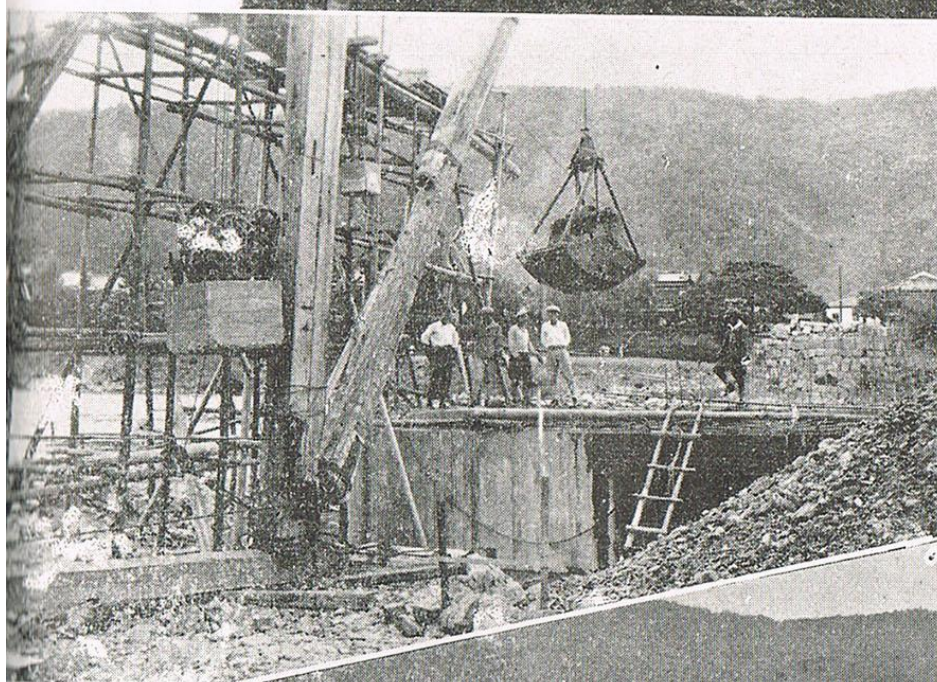
井筒式鉄筋コンクリート埋設工事を実見しつつ
二百八十年前の亀の甲型編木の埋設を想起す

井筒式橋台基礎工事の進行

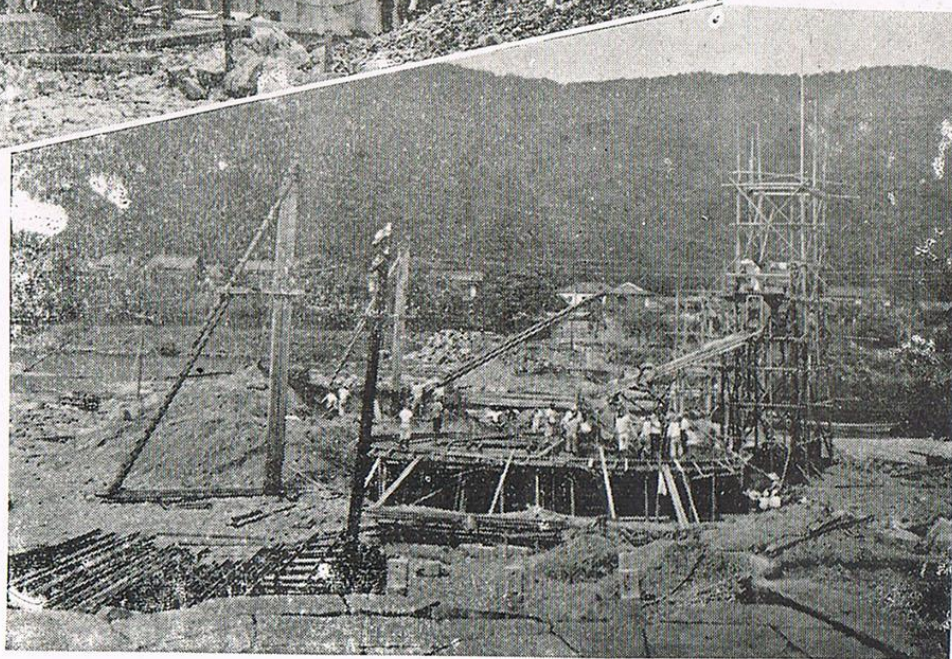
井筒を沈下せしむるため其内部河床の砂利を掘り上げる作業



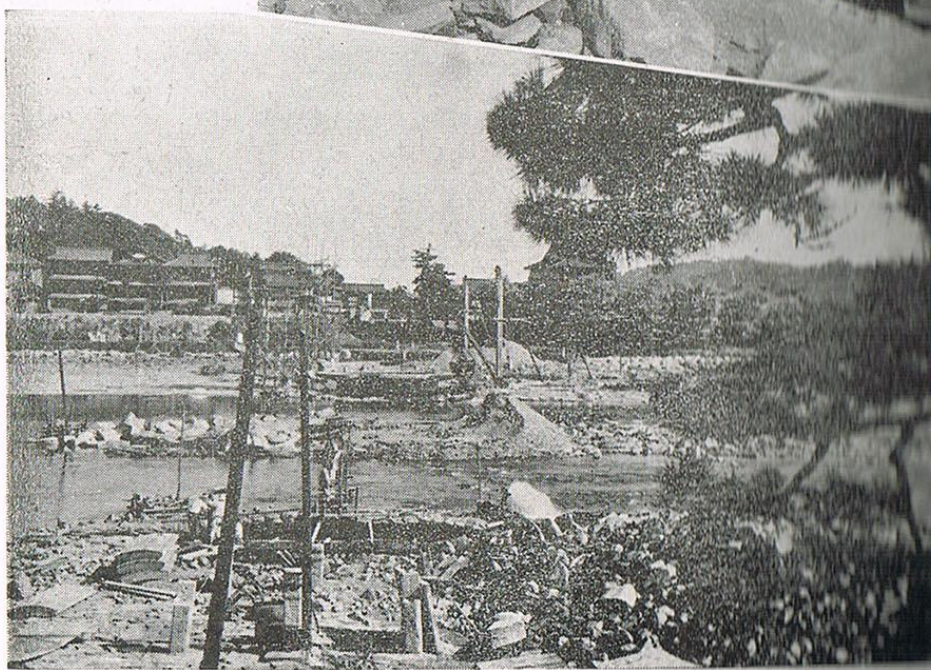
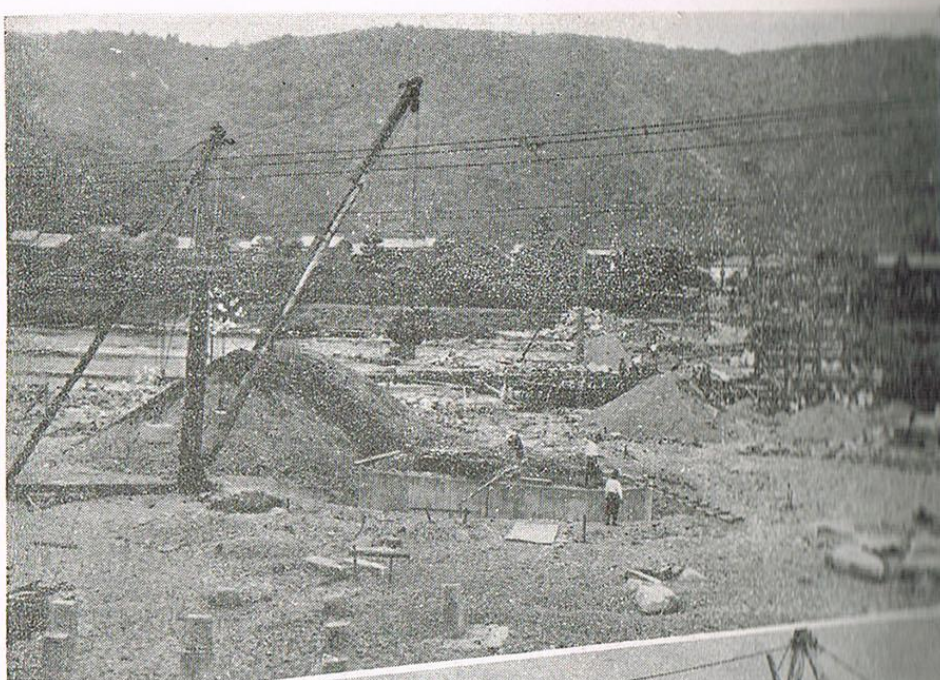
同上



コンクリート井筒沈下作業

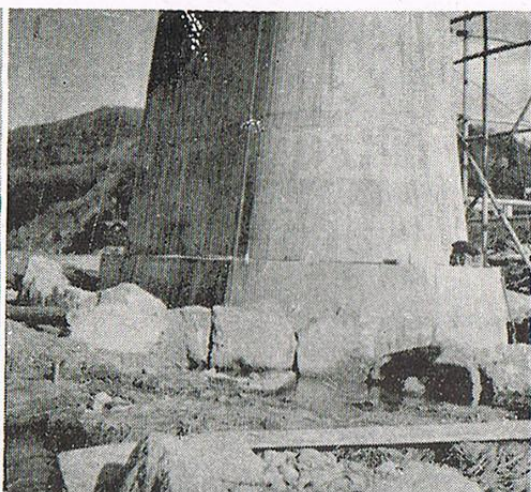


一望下にある各橋台(橋脚)の井筒沈下作業



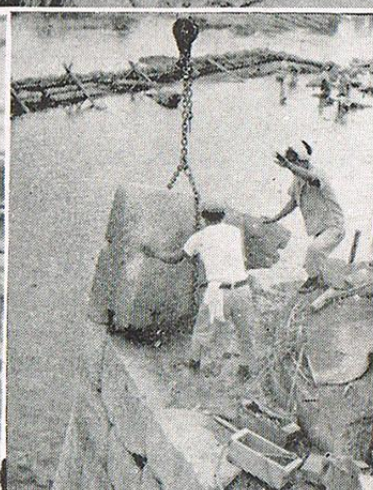
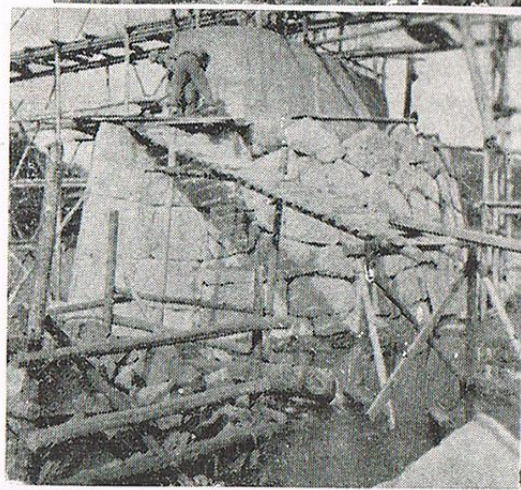
井筒成就して橋脚外壁に張石〔築石〕を装う作業

裸のまの橋脚（心壁という）

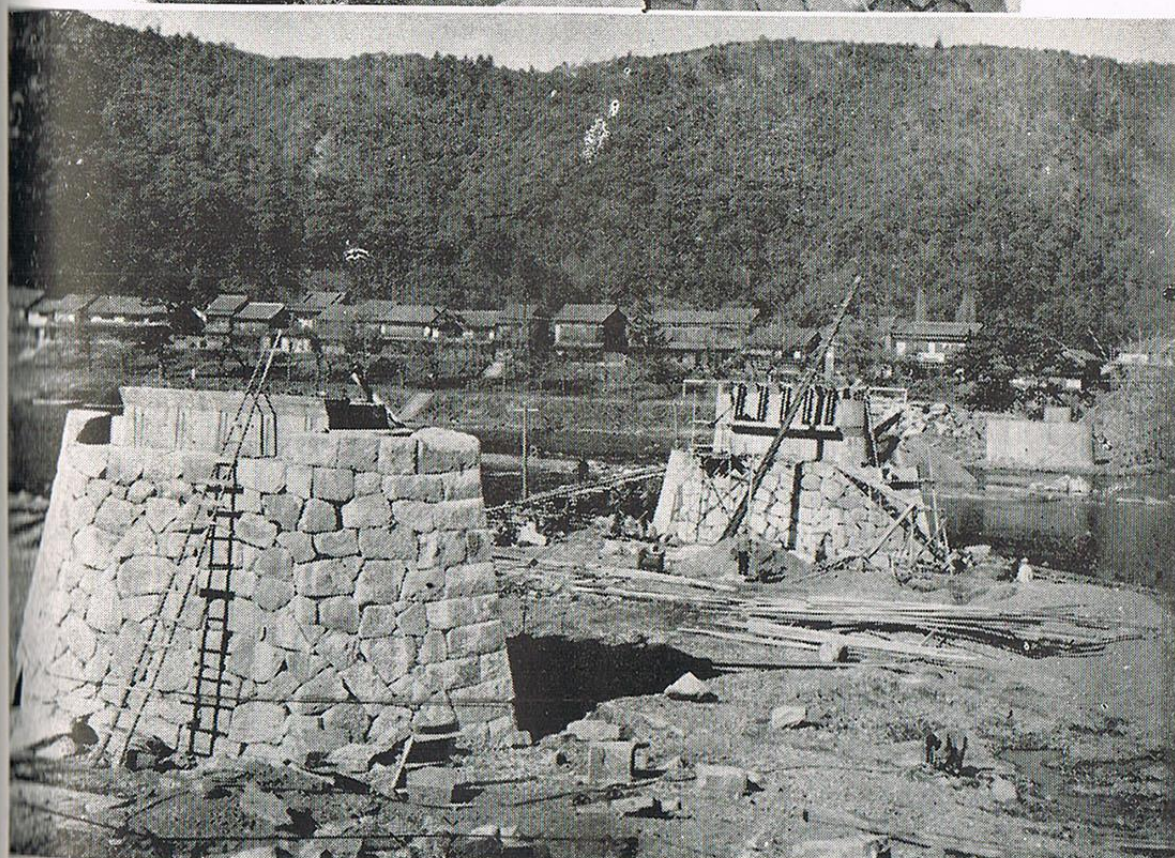


張石始め

張石の築き上げ進行す

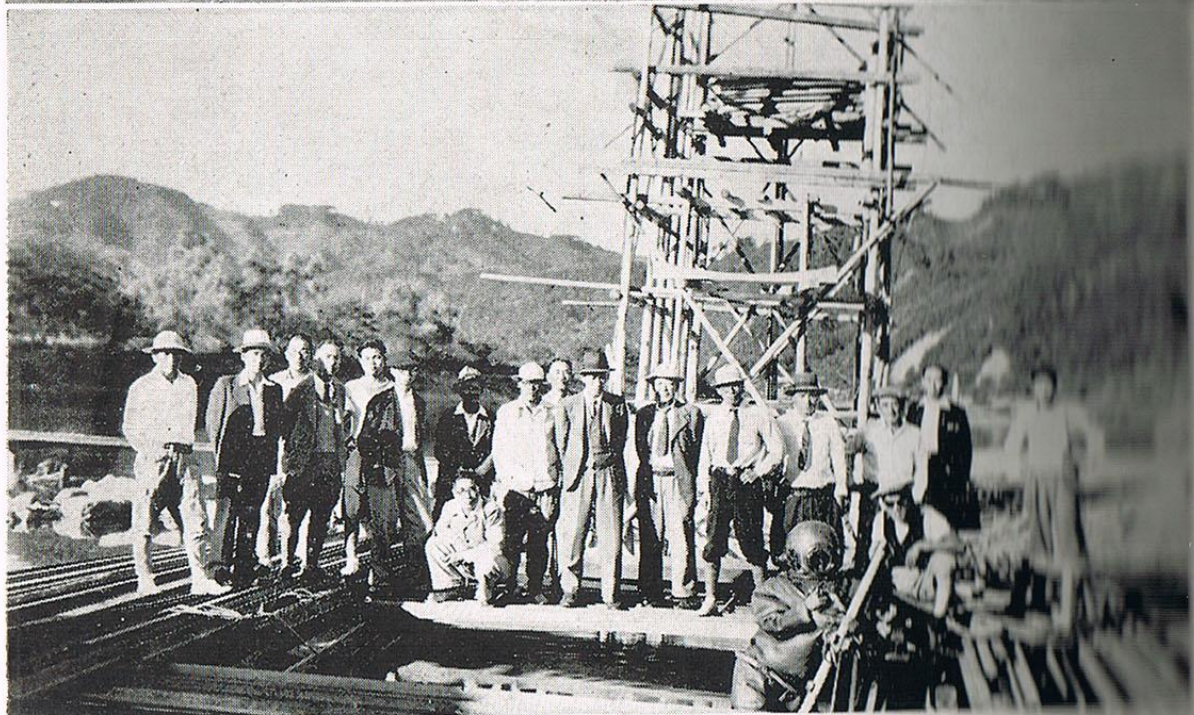
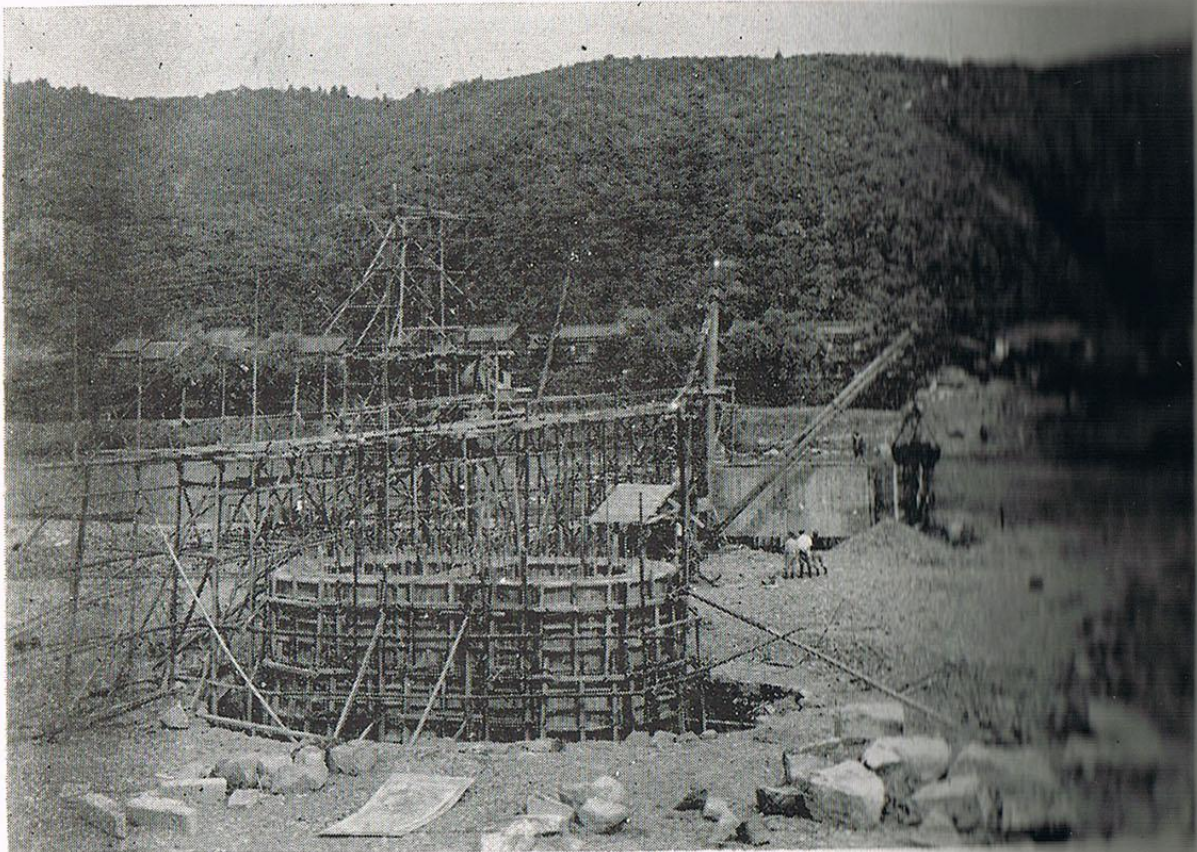


張石を吊上げるところ



石殆んど完了して外観は旧橋台の風景を失わず

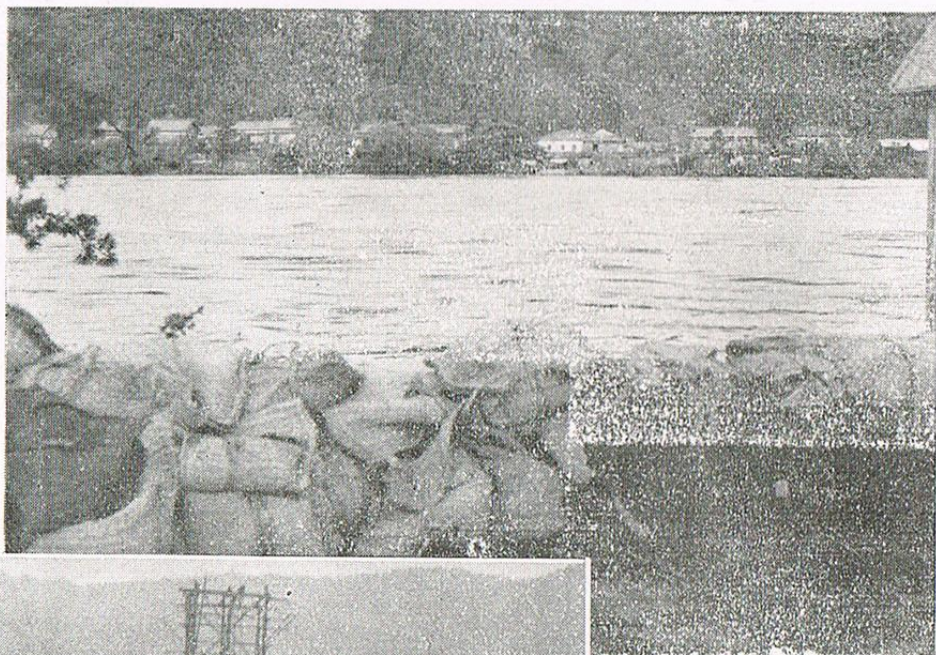
第二橋脚井筒沈下紀念撮影



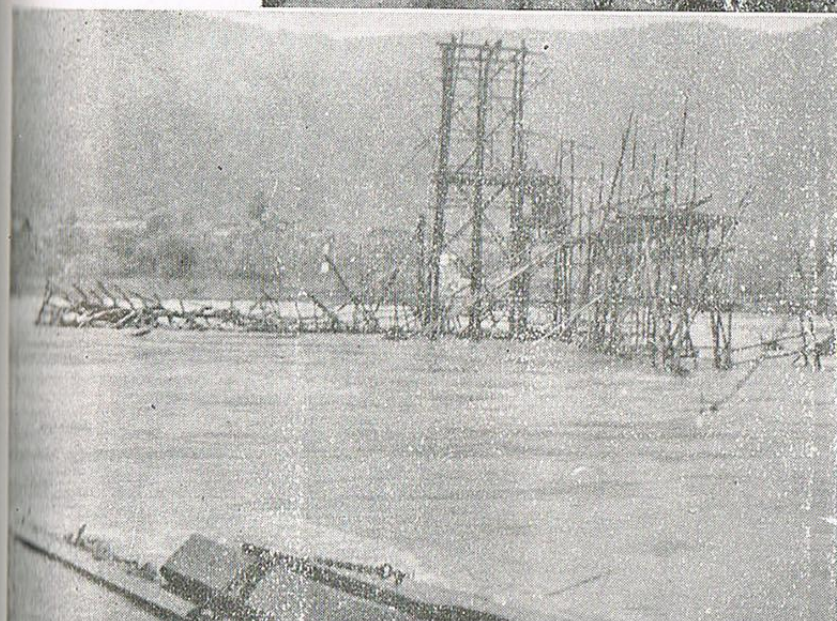
日野組社長 日野賢一
 前方潜水夫は若松昌三
 錦帯橋工務課長 八賀盛藏(故人)
 西尾保忠(元岩国市施設部長)
 岩国市助役 徳政繁生
 宝建設会社社員 深井
 浜二・八木興業会社社員 柏本人生
 主任 西沢福次郎
 川組社員 米屋和孝
 杉浦工業社員 小原源治
 錦帯橋建設局現場係 森岡技手
 大和興産会社社長 杉田朝次郎
 錦帯橋建設局現場主任 野村技師
 瀨村組主任 瀨村朋美
 日興土木会社専務 栗栖貞三

昭和廿六年十月十四日ルース颱風による錦川洪水

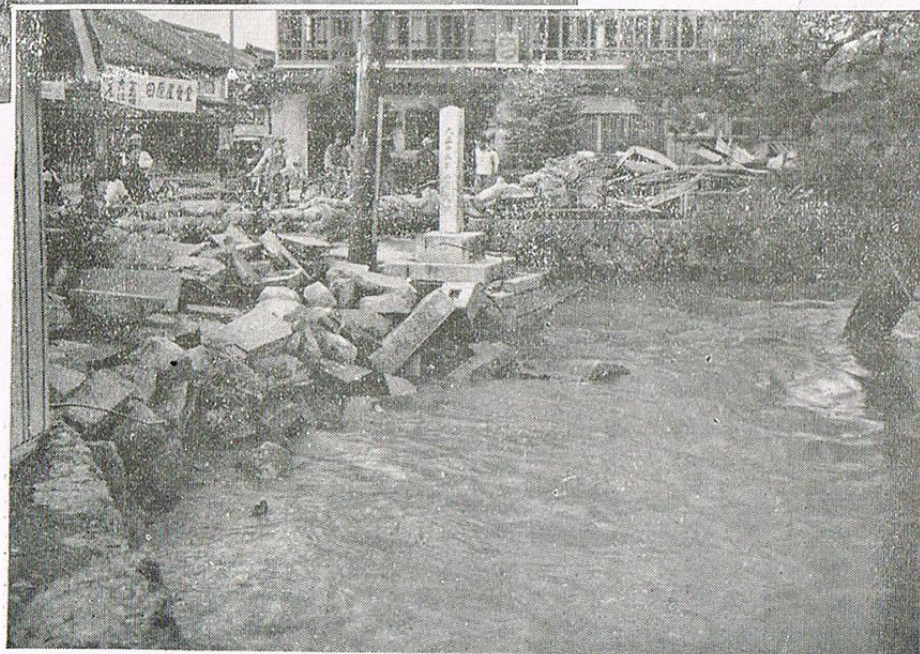
水位兩岸を圧しいき二尺余寸にて堤防を越えんとす
土俵にて防ぎつつあり



井筒橋脚沈下工事中の洪水にて作業開始以来二度目の大災
工作物濁流に捲かれ川中の離れ島のように今や倒壊漂流せんばかりの一大危機

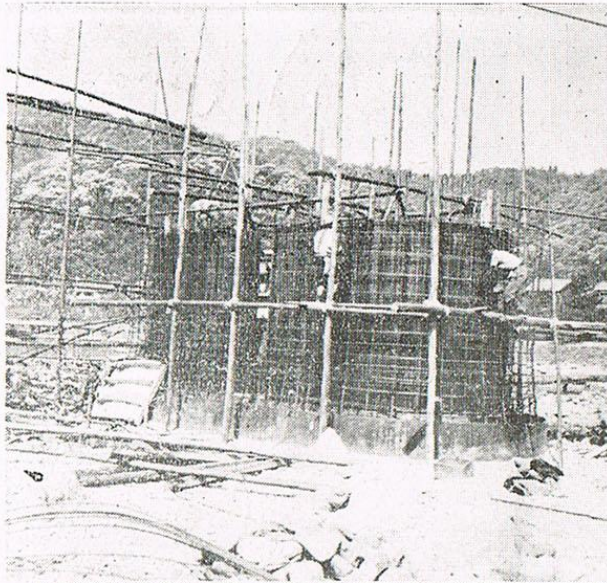


市街地方面の第一橋堤防、刻々増水して堤上に達せんとする危急、土嚢を以て防ぎつつあり



橋脚築造を担当した岩國建設協會の一瞥

井筒築造工事



増田組社長増田静平氏
大和興産社長杉田朝次郎氏（五一）



向て右より前列村川組社長村川捨太郎（六〇）日野組社長本会代表者日野繁一
兵衛（五六）向て右より後例杉浦工業長杉浦由次（五三）岩国土建社長伊藤清
興建設社長中村叶一（ ）八木興業社長八木定夫（四一）

岩國市議會の前任現任議員の面々

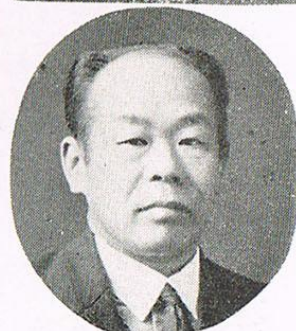
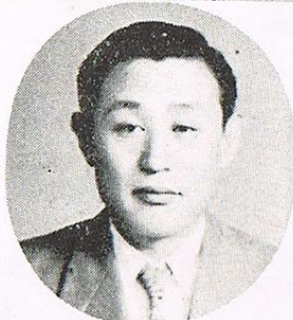
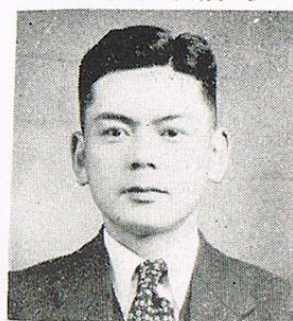
(其一)

浜重甫氏(前現)

岩村正夫氏(現)

井本トシ子氏(現)

市岡時夫氏(前現)



富沢茂氏(前現)

畑本哲氏(前)

錦本一郎氏(前)

西野究氏(現)



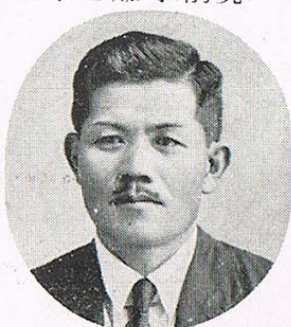
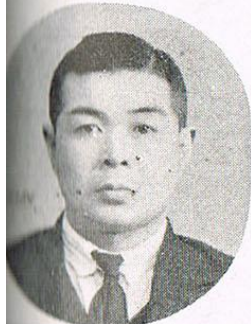
備考二、議員肖像の配列は右からイロハ順に依る
前は前議員(昭和廿六年四月改選前の在任者)前現は改選後再選現職に在る者

中沢徳雄氏(現)

中山千代一氏(現)

竹中七輔氏(前現)

柏村正一氏(前現)



村重梅吉氏(前)

村重俊雄氏(前)

村井勇氏(現)

村中柳助氏(前)

錦帯橋流失廢墟の中から敢然復興に努力した南

沖村初次郎氏(前現)

岡本円太郎氏(前)

沖井磯吉氏(前)

戸部孝典氏(前)



川村義光氏(現)

河上佳生氏(現)

河村政一氏(前)

上領直孝氏(前)

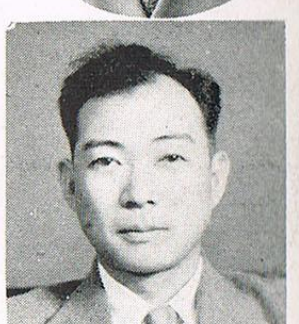
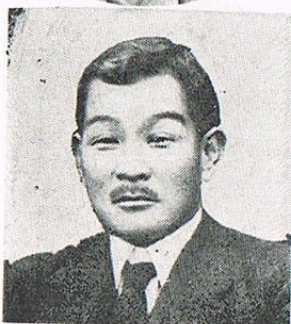
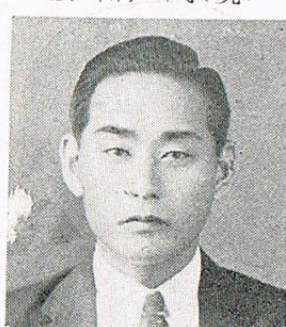


松田算氏(前)

松田清一氏(現)

国重久氏(前)

野坂半三郎氏(前)



秋本俊輔氏(前)

江本平三郎氏(現)

古田政美氏(現)

正木勇次氏(現)

したる岩國市議會の前任現任議員の面々 (其二)

坂井正夫氏(現)

粟屋壽氏(前現)

朝倉正光氏(現)

浅村丹氏(現)

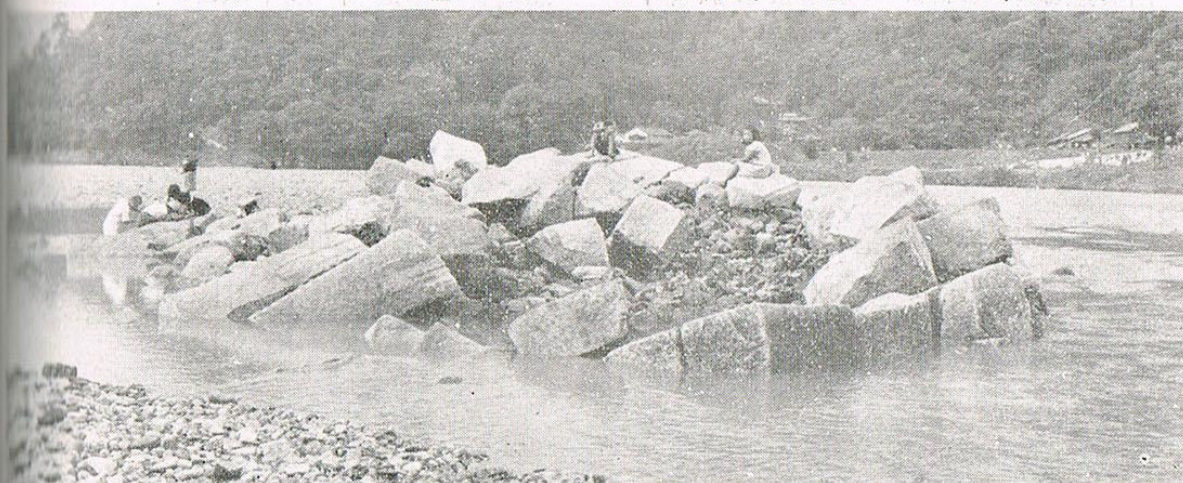


木戸正一氏(現)

木原宏作氏(現)

木村栄作氏(前現)

佐上政次氏(前)



島田梅一氏(前)

白本龍氏(前)

宮本喜一氏(前)

清原正一氏(前)



黒重辨一氏(前現)

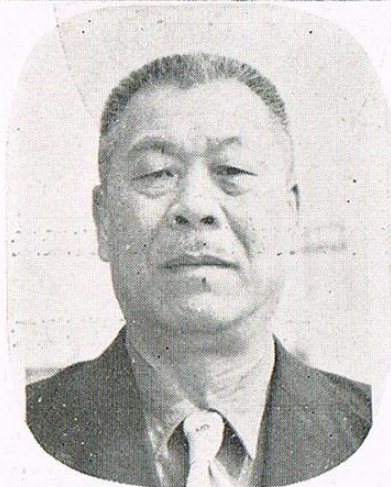
森喬新一氏(前現)

塩井亮吉氏(現)

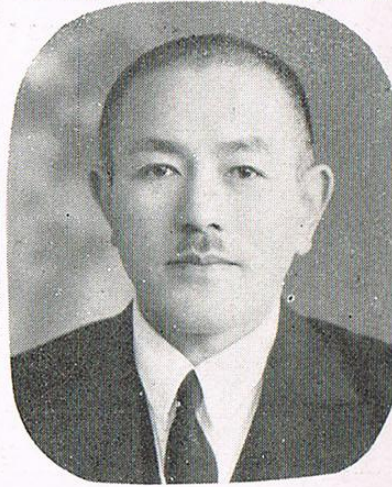
重本真氏(現)

錦帯橋流失廢墟の中から敢然復興に努力

村頼感前氏(現議員・現議長) 桑田佐助氏(現議員 前議長) 中津井実氏(前議員 前議長)



前西龍平氏
(現議員・現副議長)

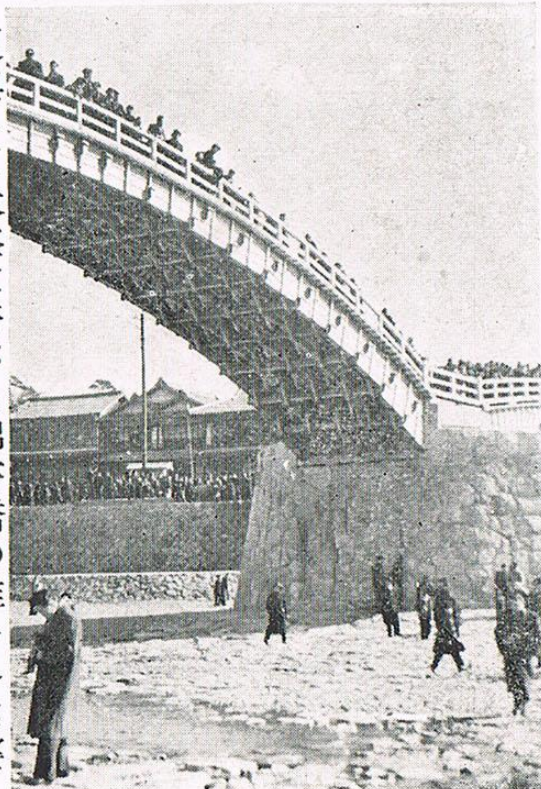


小川実氏
(現議員・前副議長)



(渡辺泰平氏)
前現議員・前副議長

復興して大空に跨がる錦帯橋の雄々しき姿



森繁四郎氏(前)

森岡勝氏(現)



杉田朝次郎氏(現)



森岡勝氏(現)

錦帯橋建設局の陣容

←局長久能寅夫氏(岩国市長)

市助役 土肥京一氏

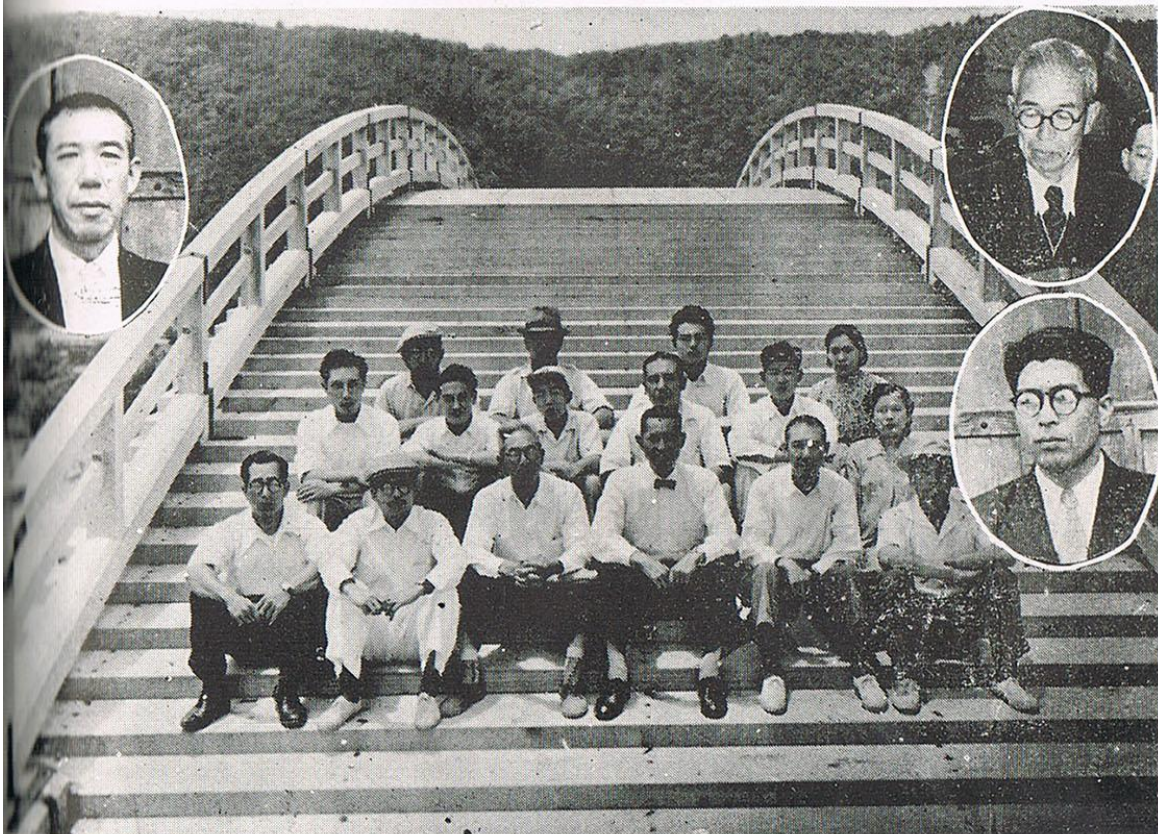
市助役 徳政繁生氏

←局次長総務課長 品川資氏氏

工務課長 八賀盛藏氏

主任技師 中村男正

総務課次長 美川武氏

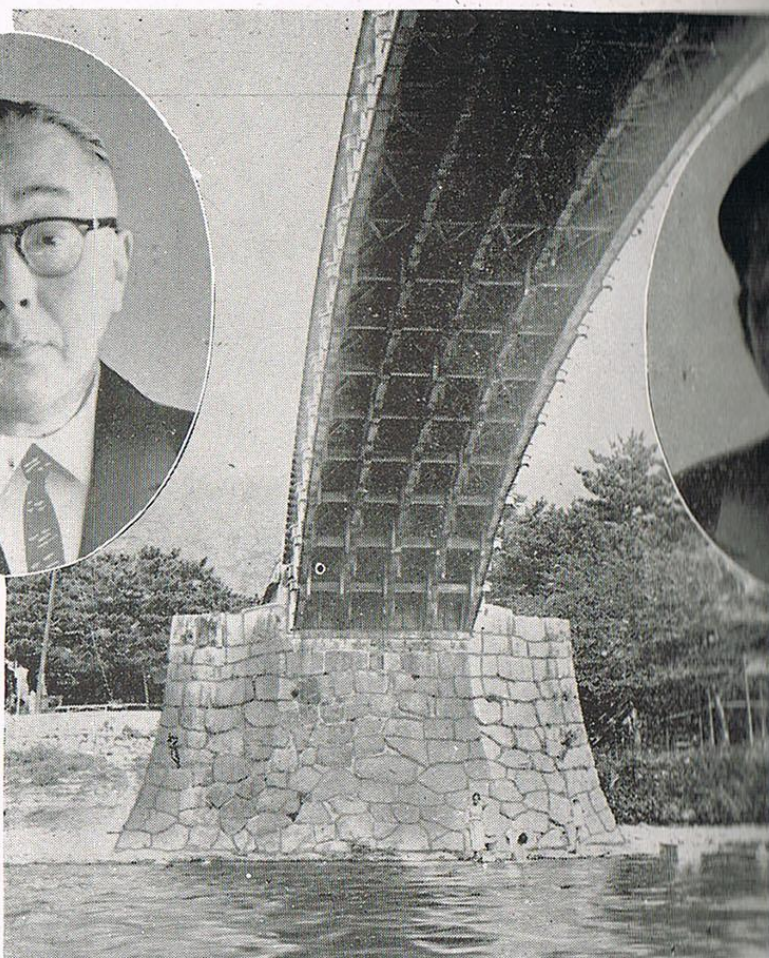


中堅部員向つて右より第一列 藤川武男・美川武・品川資・八賀盛藏・中村正男・藤正枝義
 二列 安藤久子・永野昭夫・柳川天流生・吉木友彦・柳川寿之・三戸直行
 三列 白銀壘カズ子・森岡義則 久保田忠夫・野村保

錦帯橋再建と技術顧問の両博士



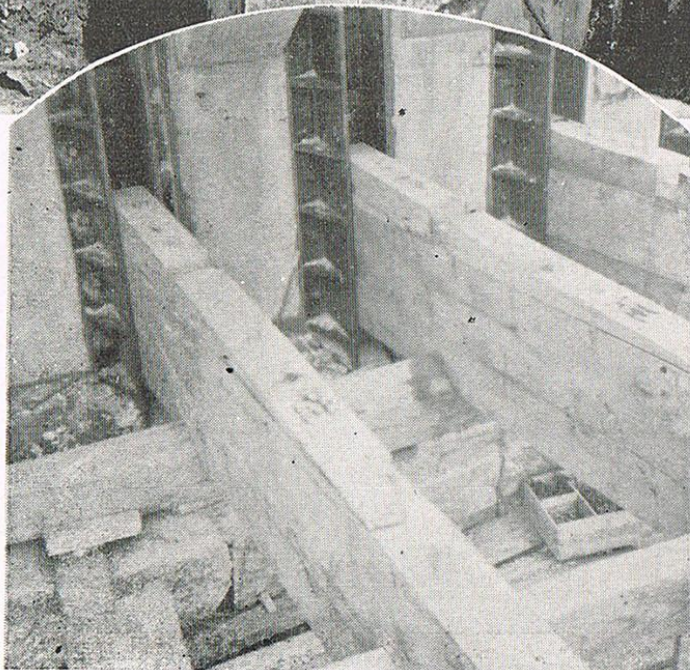
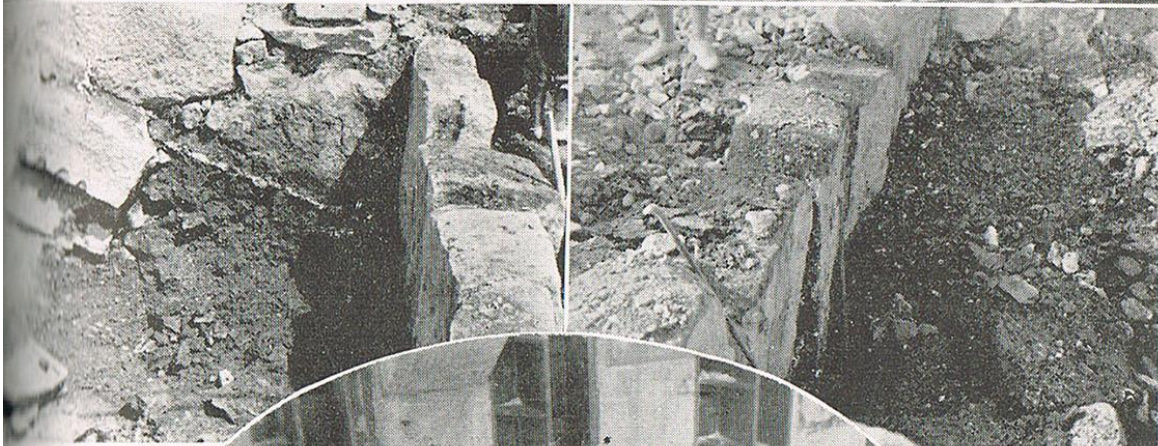
工学博士 寄木楠男氏



本書附録第一号(錦帯橋の再建)に両博士の抱負発表

橋桁戻し用の隔石の全廃

此の反り橋の両端が橋台上部の胎内に突張る処それが隔て石
此隔石に反り橋の桁が力強く突張る間は橋は強力である

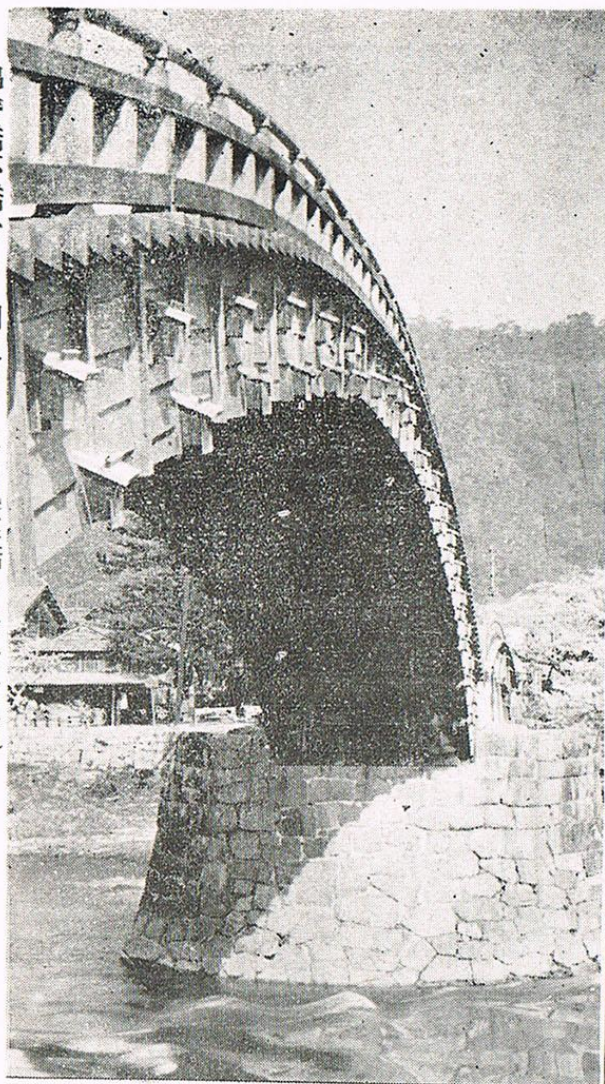


↑
隔石をあばいた処
厚い横長の大石一基であるが左右を
示すために其両面を現わす

其の隔石は此度全廃して沓鉄で突張
らせることになった、隔石式では水
気の為に桁受が腐蝕し、拱力が弱く
なる改良の沓鉄式は左の通りに桁を
受けさせる

甲斐の猿橋の桁起しと錦帯橋の其れと

錦帯橋が橋台より刎ね起きたる処猿橋の其れに似通う

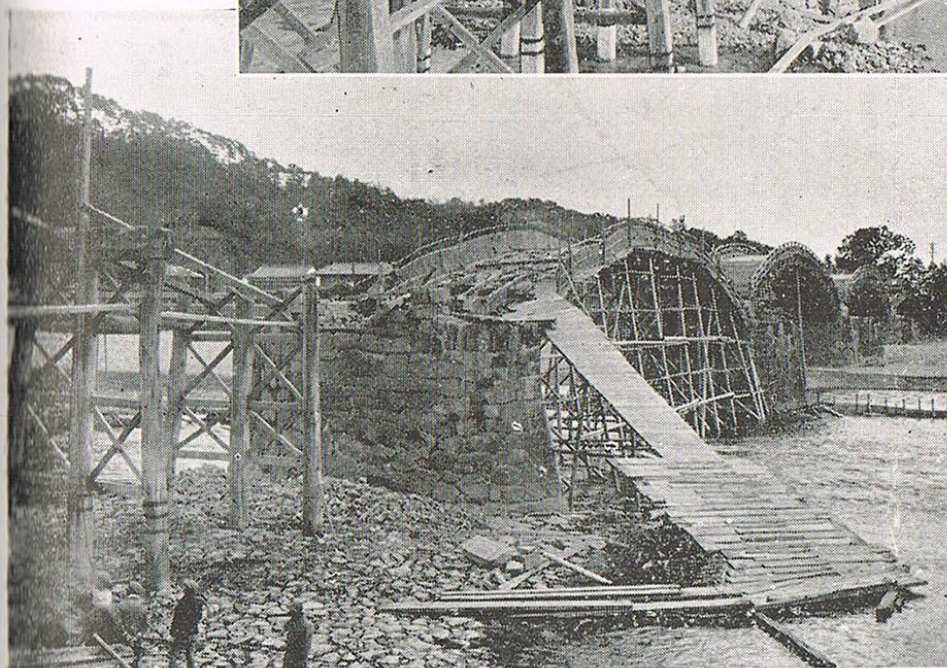


吉川広嘉が江戸より帰途甲州街道を通り猿橋を渡りて其の奇構に目を留め
錦帯橋の構想到ヒントを得たと伝えらるる其の橋の起端

第四橋第五橋架替當時の實景

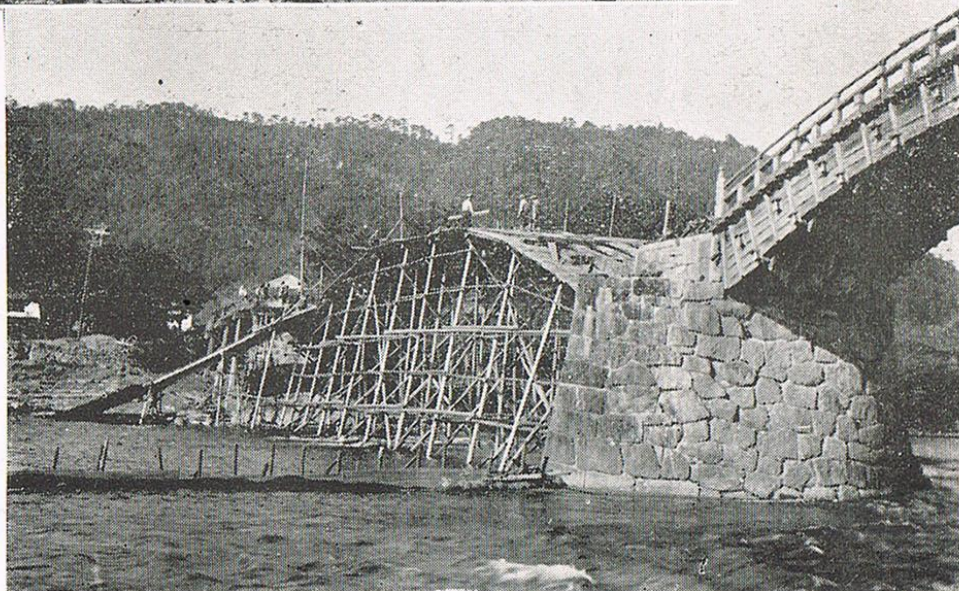
此の二つの橋は其れより十七年後の昭和二十一年頃橋板と高欄の張替年

×



×
度が来ていたが、終戦直後諸事混乱の為め之を果さざる内に昭和二△

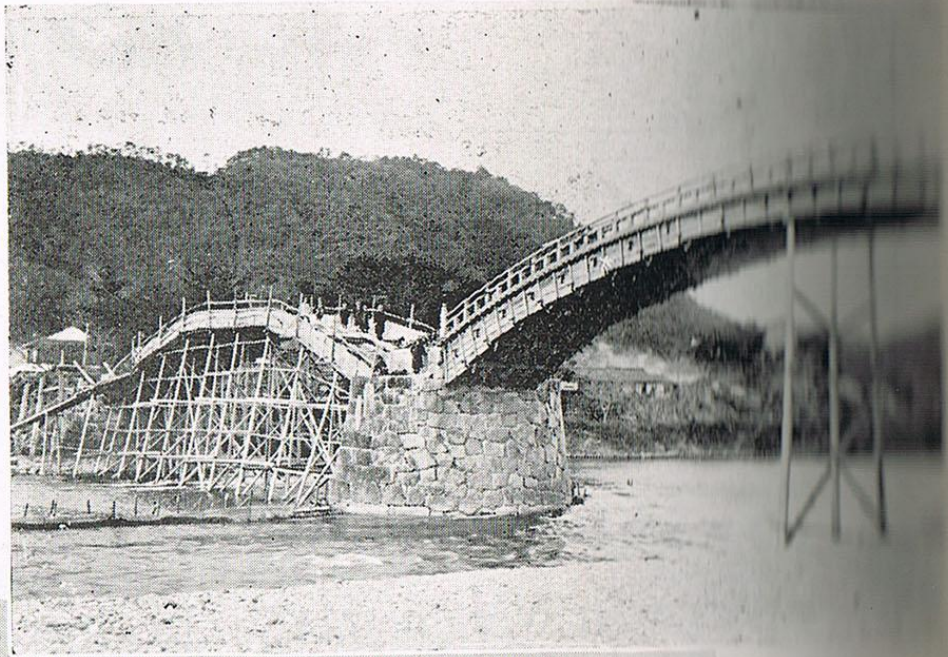
△
十五年九月の流失となつた



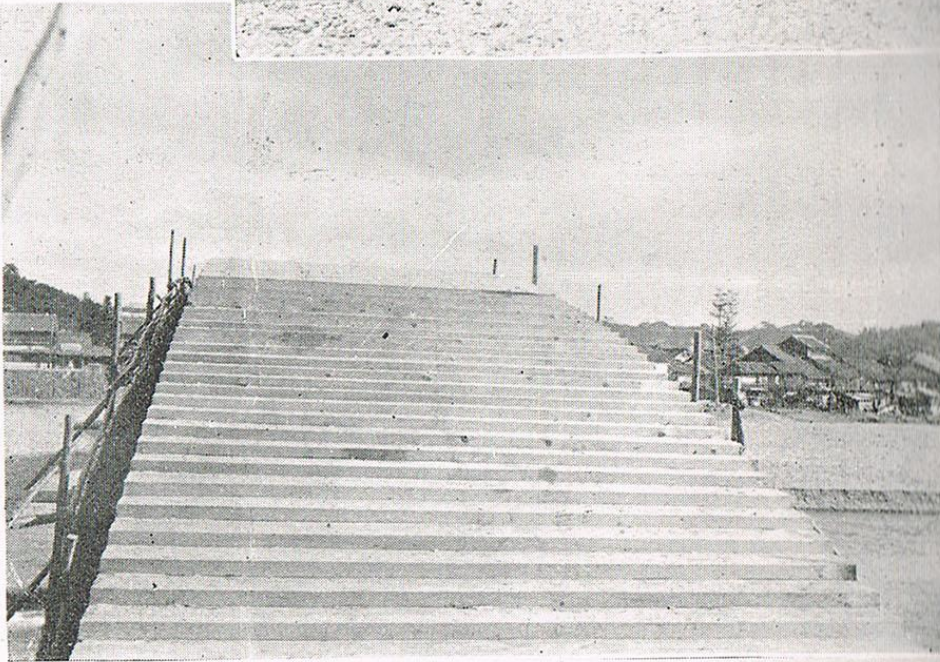
昭和四年横山寄り（西口）の

第三橋反り橋

第三橋は此年改築を施さざるも第四橋工事の為め其れが竣功安定するまで姑らく三支柱を以て其の動揺を防ぐ



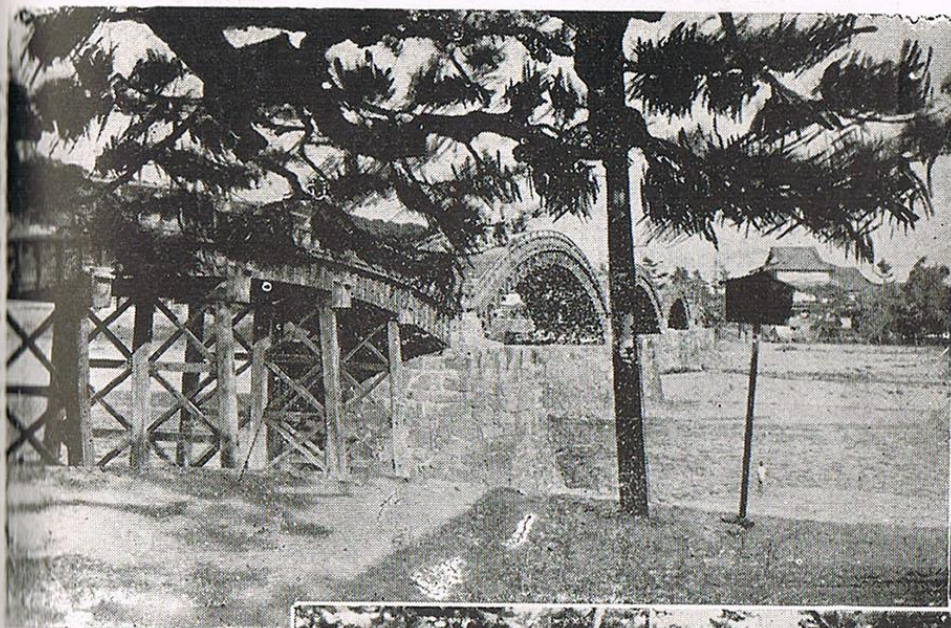
第四橋の階段の工事



第五橋の張板工事



…たりし壽木（^{やりこか}槍倒し松）は遂に枯れた



繼衛兵のように錦帯橋横山口の橋畔を守る
ること二百数十年の寿齡「槍倒し松」は
岩国保勝会で百方手を尽し殊に中島林学
博士を三四回も招請し治術を施したが寿
命尽きた為めか遂に枯死した



昭和十九年頃の松の木の手入れ状況
緑り盛えし目の「槍倒し松」の梢
思い思いに河岸の路上に垂れ蔽う



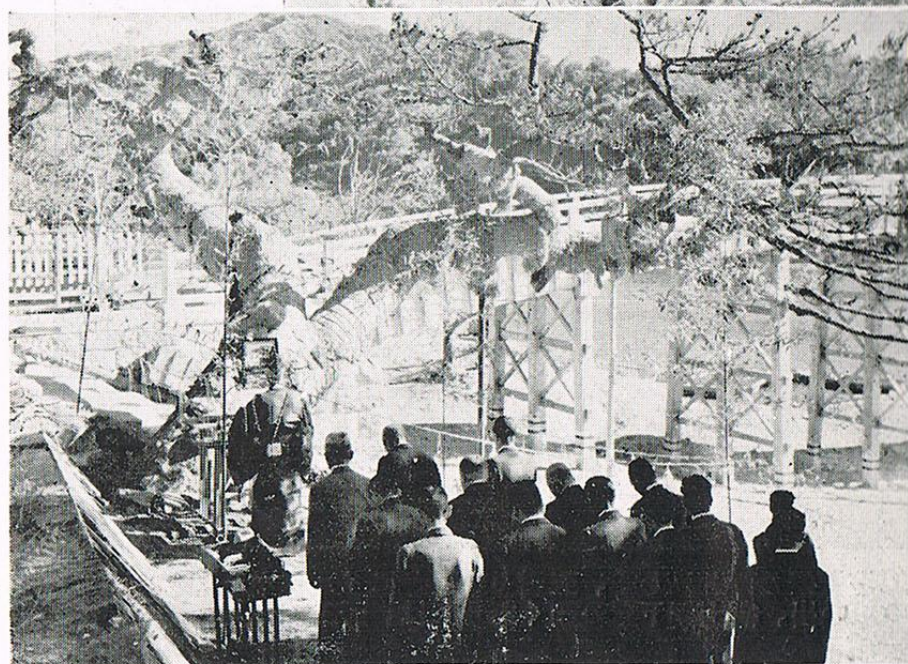
其後追々葉や梢に変兆を呈したので虫害を
思いて手当を為すことしばしばであつた

錦帯橋の護衛樹たりし松魂掛然



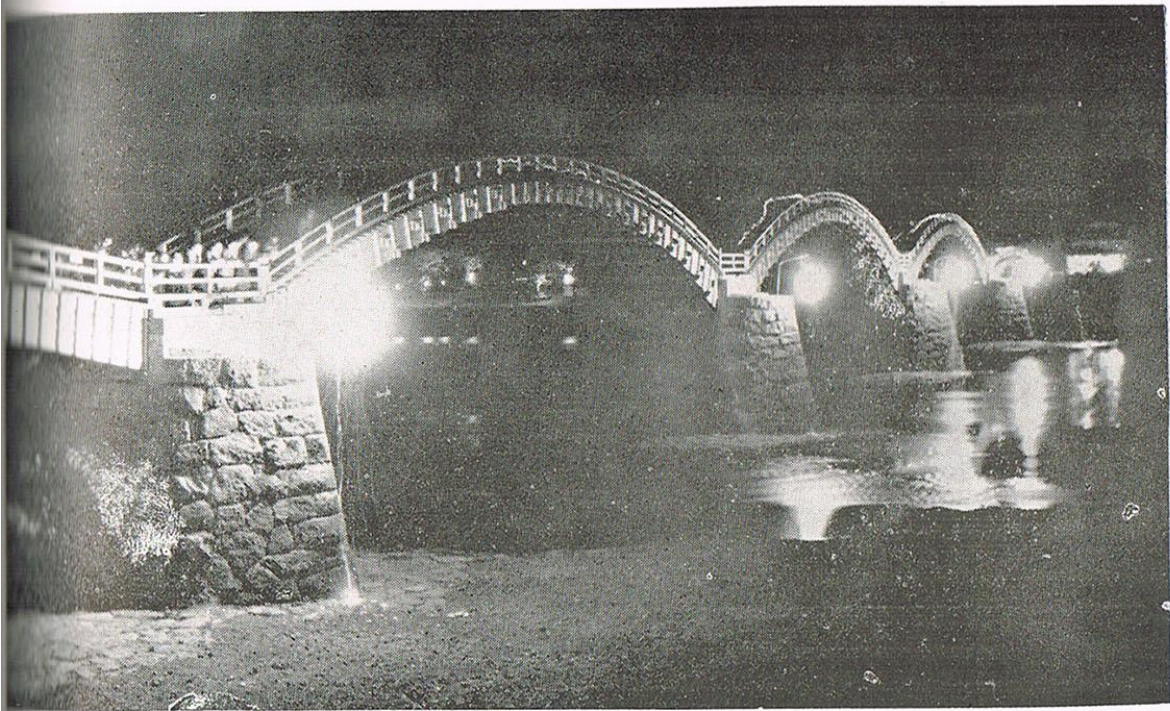
松魂掛の松は、錦帯橋の護衛樹として、明治時代に植樹された。この松は、戦後、松の木が枯死したため、松の魂を掛けたと云う。

或は注封薬或は西穀斗を根に施し
百万手を尽したるも養主勿枯なく
色目に甚しく公魂遂に滅す
新しき松樹を下流から移植し其の
後継と為したが是亦発育せず衰死
した、此くて各木橋畔に空し

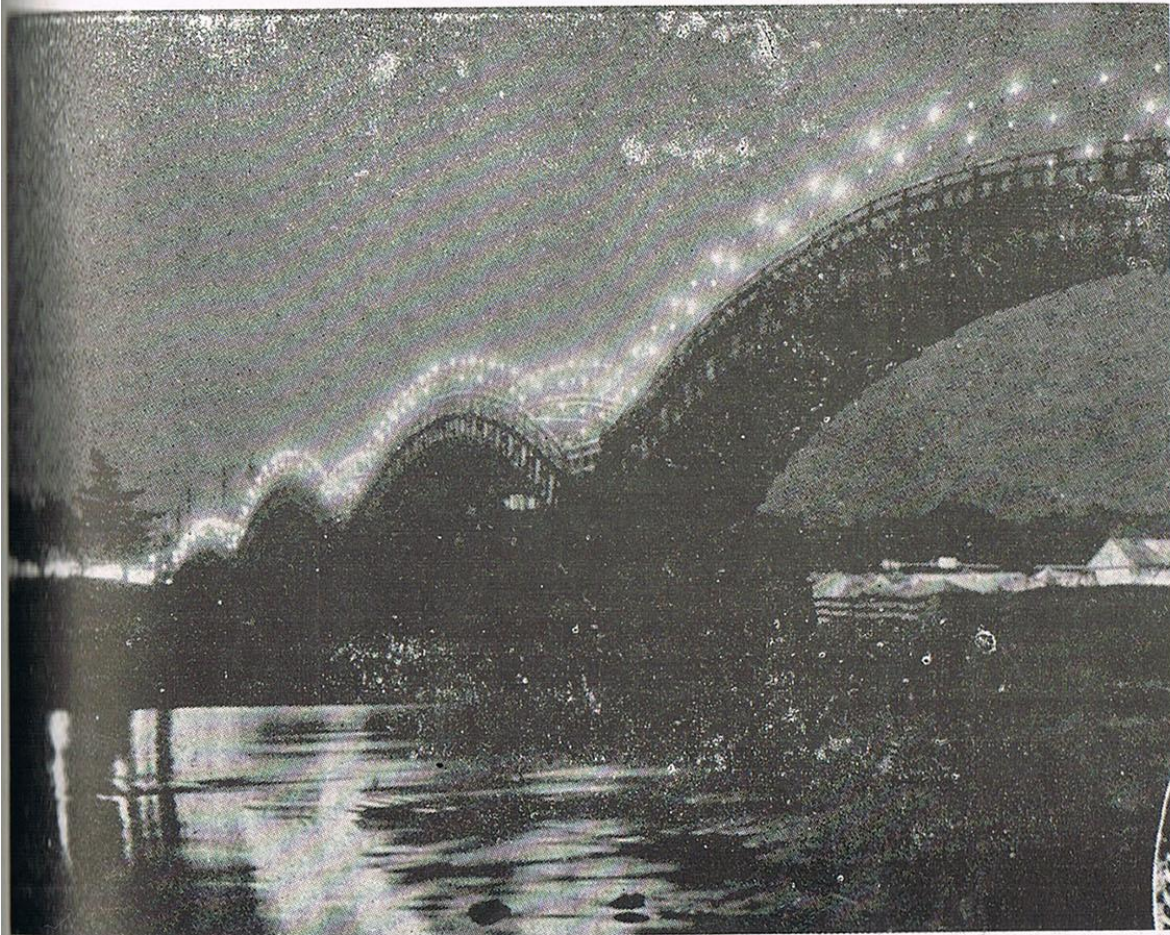


遂に伐除に決し弔祭を行い、別を湛む

浮城のように映り出た宵暗の錦帯橋



昭和二十八年五月三日の完工式当夜、特別の催しとして橋台の側壁に炬火籠を吊り「かがり火」を焚いて不夜城を現出した最も花やかな此夜の豪華版



昭和十一年初めて錦帯橋祭の行われし時、五橋の全高欄にイルミネーションを輝やかした其夜の思い出、橋上橋下屋の如くありしは、完工式の其の夜の「かがり火」と好一対

完工式錦帯橋の祝賀團平田の噺田（はやしだ）と鶴飼 （昭和二十八年五月三日）



← 横山高
学校運
場に於
るはや
田の行
事



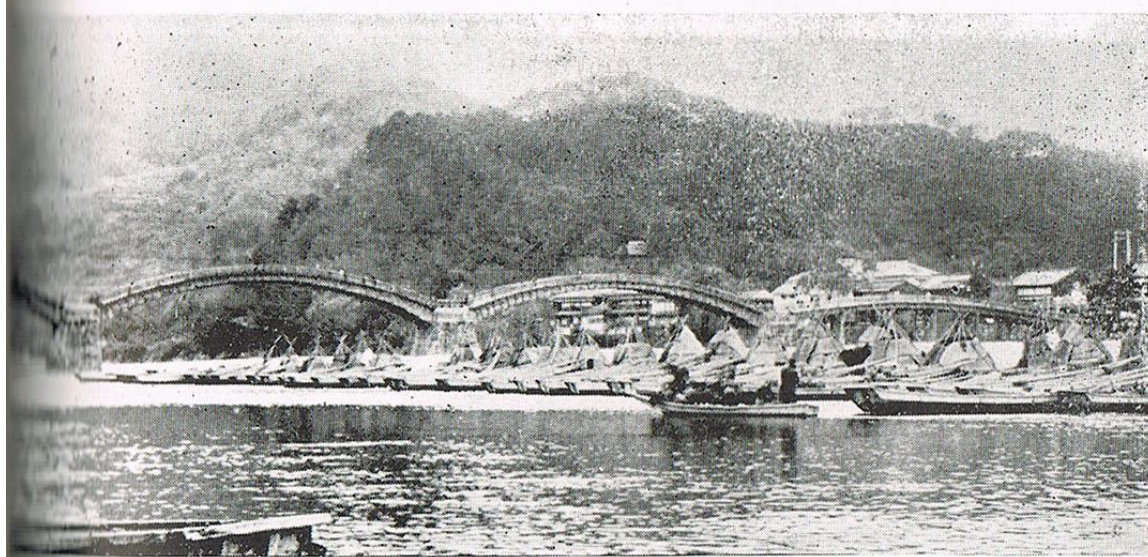
の
り受
けた
も
所藏の
由緒
ある品
を譲
り受
けた
も
は、吉
川元
士爵家
古来
紋付の
羽織
の着た
大
方な羽
織の羽
織の羽
織の羽

噺田装式の飾牛五頭の内

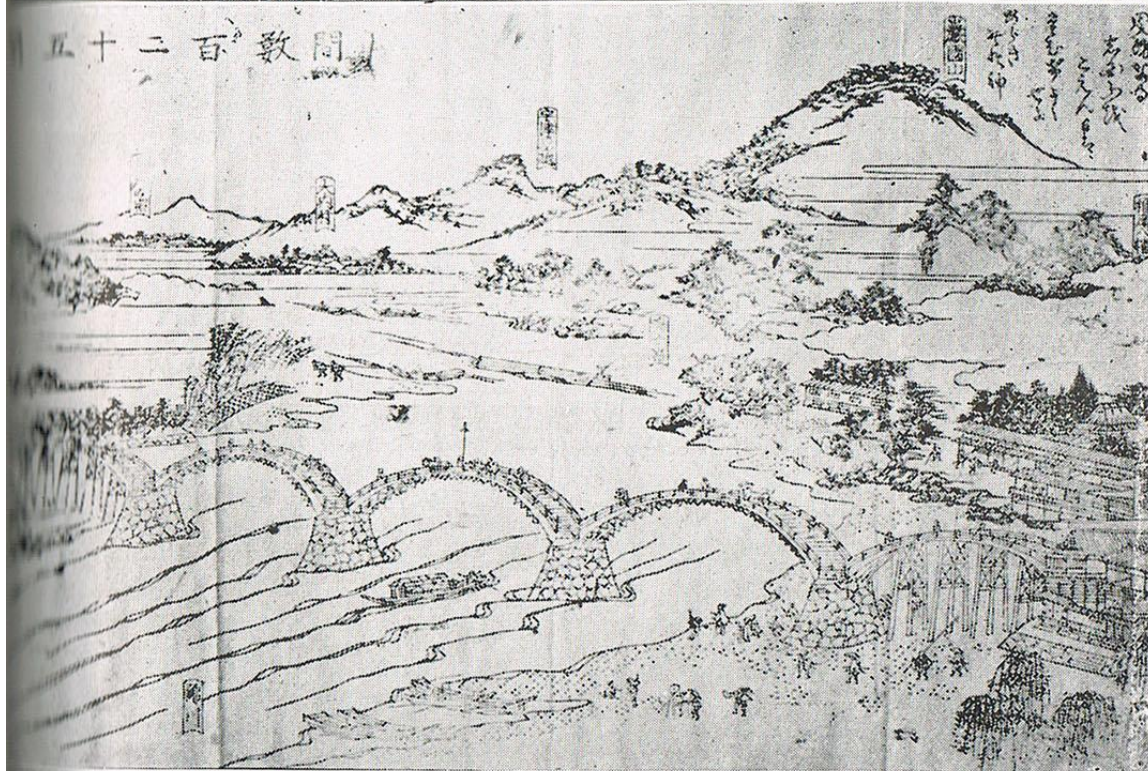


思い出深き錦帯橋の歴史的面影

大正二年頃の写真・南桑舟（なぐわぶね）の輻湊



岩国の奥地並に石州方面の山嶽地帯から物産を運出し又は北方から生活必需品を輸入する唯一の運輸機関川舟二三十隻は常に橋



「周防国錦帯橋図」
「上横町紙屋萬兵衛板」といふ当時の観光旅客相手の木版刷り名所図絵、今の絵はがきといふところ



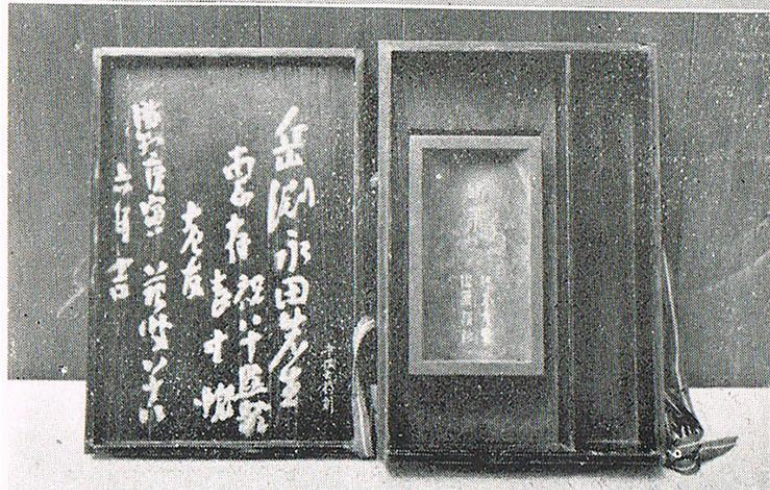
春の日傘をかざして橋欄によりかたり話し合う二人の娘、パーマネントに洋装の現代から見れば羨望返しの

徳富蘇峰先生の愛硯(錦帶硯)と錦帶橋
(橋下にくろがつていた奇石が硯となつて二百年)
(後に岩国に帰る奇縁物語は本書附録第六号参照)

錦帶橋ができて三四十年後の事か、岩国の田生なる人が偶然橋下にて濃紫色の一奇石を見出した、「錦帶」の二字が彫つてある、之を携えて上洛し播磨の儒者にて越前侯のお抱えの学者播磨清絢に示した、之を賞玩した清絢は田生から貰い受け、大坂の名工に托し硯に作つて珍藏した、其れがどうして二百餘年の後に蘇峰先生の手から故郷の岩国に返つたか、附録第六号を読めば解かる



展べられた巻物には硯の由来と其の高雅な特色を賞歎したる清国人等の文章又錦縹のようである



硯の裏面は中帯にて
錦帶 越前文学
播磨清絢
の篆文字が彫刻してある

二十八年前の今上陛下と錦帯橋

(大正十五年五月二十八日猶東宮に在わせし時岩国へ行啓の其の日)



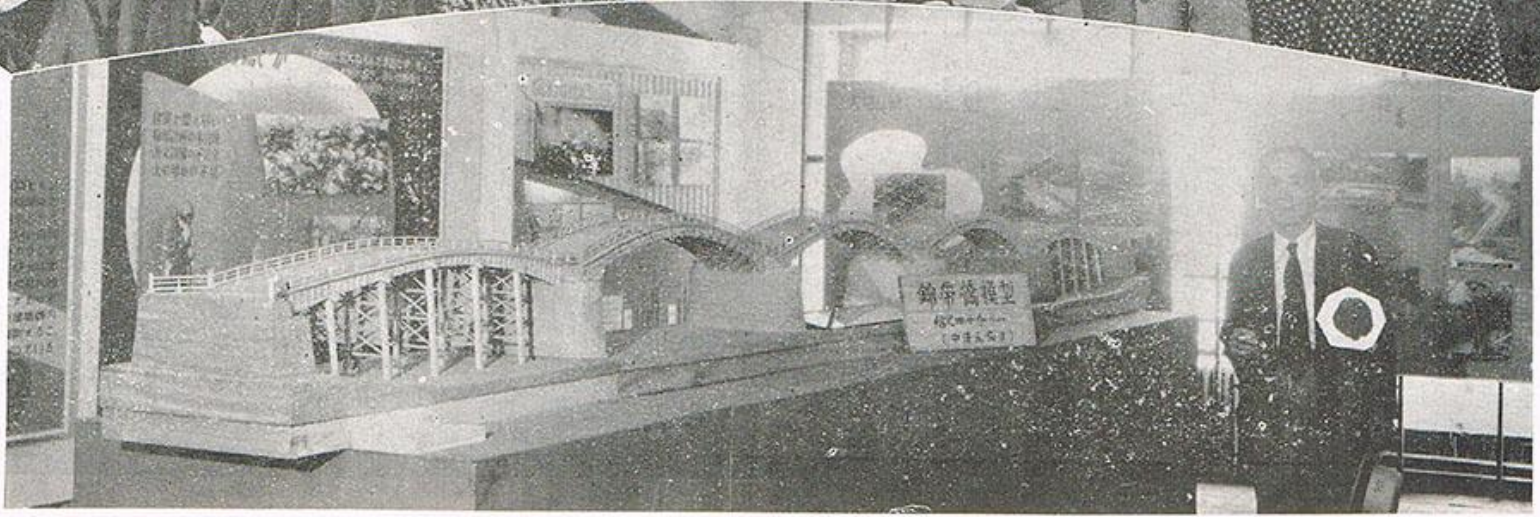
皇太子陛下
行啓記念碑

大正十五年五月橋頭に建立された記念碑(題字は
文部大臣樫密顧問官の官歴ある岩国の江木千之氏)

昭和二十七年七月建設省が全国災害展覧会を東京三越六階にて開会せし時キジャ台風被害落橋記念として最も記念すべき大正十五年五月二十八日、今上陛下の猶東宮に岩国に行啓、錦帯橋を渡御ありて吉川子爵邸に臨ませらる、比模型吉川家より献上し殿下御嘉賞ありし三十年前の光榮ある歴史的作品



中沢一家郎党齋戒沐浴して九重雲架き所に納る光榮を神前に祝禱する（○印中沢五橋）



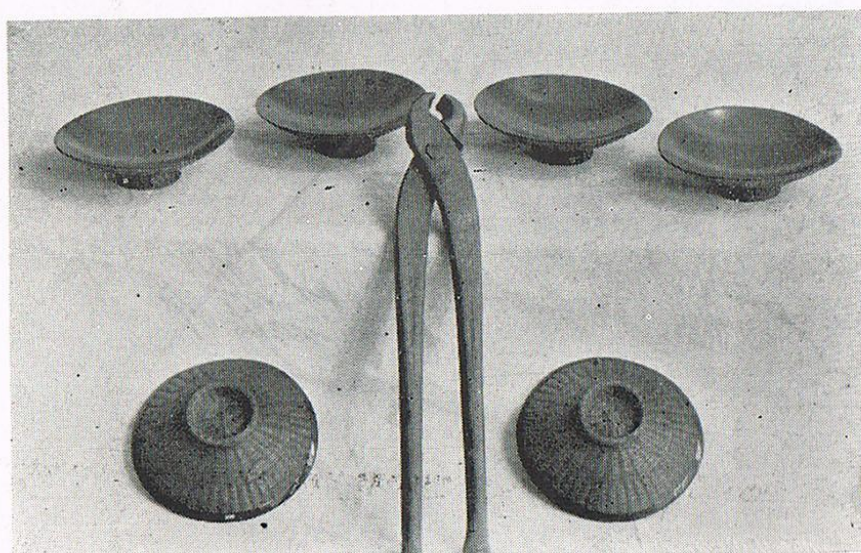
昭和二十七年七月建設省が全国災害展覧会を東京三越六階にて開会せし時キジャ台風被害落橋記念として

して岩国市より出陳したもの
災害展覧会出陳
(中沢五橋作)

湯浅七右エ門と兒玉九郎右エ門の幽香しき遺影



湯浅家に伝わる七右エ門秘伝の「石塙書」五卷（戸波駿河の家伝）其他の文書（大橋初まりの事、湯浅家系図、観音靈驗記等）徴古館蔵、本書附録第三号参照

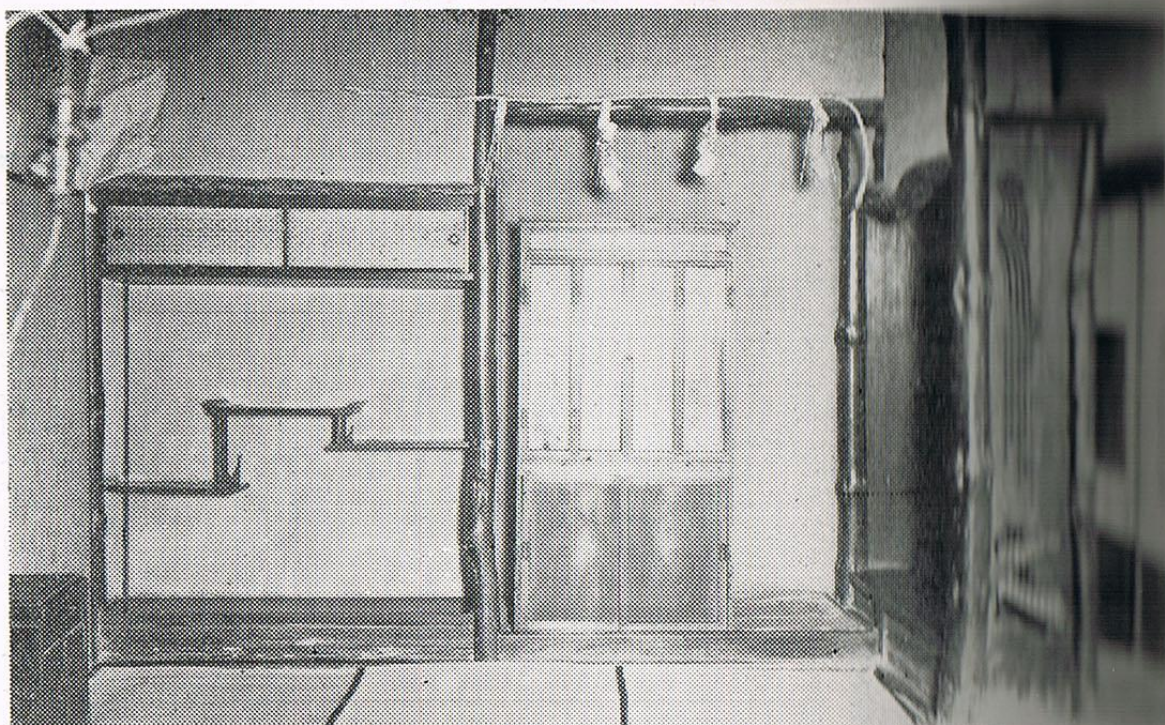


兒玉家に残る九郎右エ門の唯二つの遺品（釘抜一挺、兒玉の刻込み記号あり、兒玉九郎右エ門の兒と九とを合せたものか）木杯

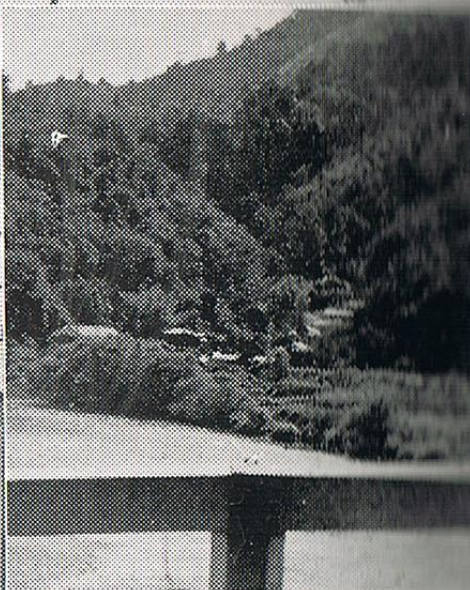
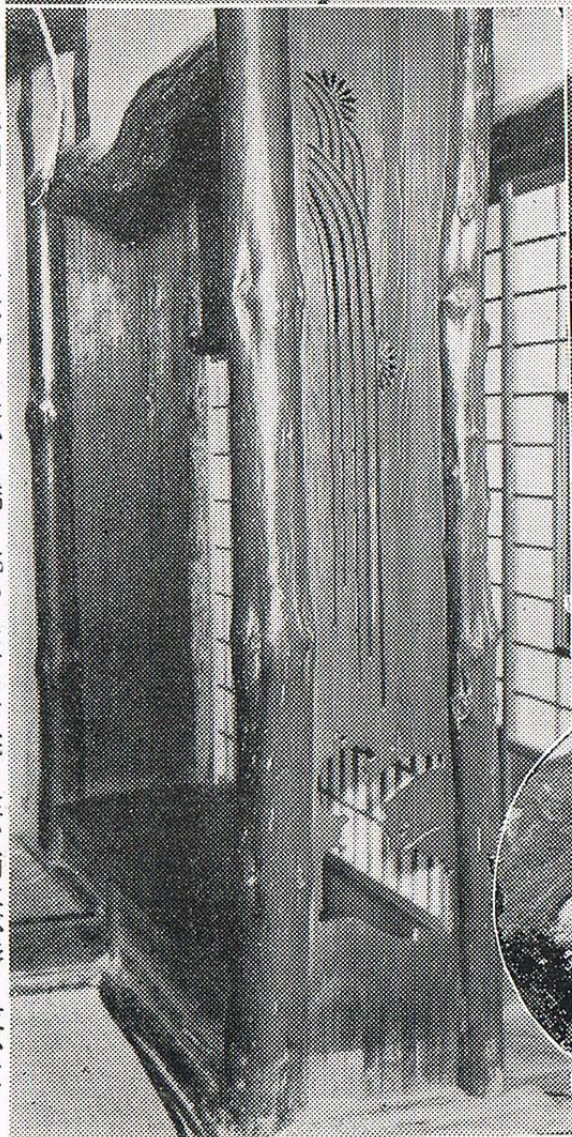
六個は内は朱塗にて、外は竹の繊維を以て極めて精巧に掩いたる工芸美術の標本ともいうべきものにて、延宝の昔錦帯橋落成の時、殿様から御褒美として拝領せし物と兒玉家に言い伝う

吉川廣嘉卿が架橋を監視した別荘の一案

(岩国萬谷の登りつめた高い処)



広嘉卿がよりすがつて遙かの橋を眺めた其の書院の柱、菊水が彫り抜いてあるが柱は虫が食つて古色三百年の思い出深し



別荘の室から錦帯橋を望む

萬谷御別莊の月夜物語

錦龍軒 一山

一山の母は物覚えの善い人で岩国に於ける色々の伝説物語を知つていた、一山の子供の頃寝物語りに話してくれた其中の一つに、萬谷御別莊の月の夜の辰姫様というのがある。此度「錦帶橋史」が脱稿して、その御別莊の写真が掲載せらるゝに就ては、此の抒情詩にも似た古い物語りを添えておくのも、亦一興なるべしと思ひ立ちて、茲にしるす。

延宝元年八月十五日の夜、一天水の如く晴れわたりて岩国城下萬戸の月処隈なく照り渡る。此夜吉川広嘉卿は萬谷の別莊へくつろいで、工事半ば進行の錦帶橋を眺めて悦に入っている。

河霧立昇る薄絹の幕の彼方に、夢のような浮橋の絵姿を遙かに眺めて、微酔一酌二酌と、夜は更けゆくほどに、月はます／＼明かに天地にしみついて、昔し詩人の歌いける此の良夜を奈何にせんと月夜鳥ならぬ吾が身も恍惚としてゐると、一羽の白鳥が川の面に浮いて出た。羽音もたてずヒラヒラと空を旋つて此方に飛んで来る。白鳥と思いきや白衣に緋の袴を着けた二八の美姫が、音もなく広嘉公の泉水のほとりに降り立つた見れば何やら両手に布久紗の包み物をささげている。蘭のような香氣が明月の庭一面に薫ほる。広嘉卿はこの異様の美姫を屹度見おろして居ると、美姫はニコリと笑をたたえて、其の包み物を卿の前に恭しく差し上げて申すよう。

「妾は、錦川なる龍神様の御使として参上いたしました辰姫と申す

乙女で御座ります。龍神様は、このたび、殿の君様が萬人の不便を

橋を御造り遊ばして、それが又、龍神様御自身の御姿を其まゝ浮彫にして雄々しくも氣高くも、五聯におたみ下され、錦川の水の中ばかりか川の上の大空にまで、萬代にわたりて吾が姿を、お伝え下さる眷の身と相成りまして、満足此上ないと、龍神様は仰せられ殿の君様の御長命をお祝い申したいとて、錦川の最中の底の、金砂銀砂の精丹を神妙に鍊り給いてお作り遊ばした御菓子、其の名を龍神様が萬代の昔より萬代の後の世まで安らかに俵われます、碧りも清き此川に因みて「錦川」と名づけ給い、今日只今、殿の君様へ献上仕り幾久しく御茶の料にと、わざわざ参向、此の由をお伝え申せと妾へ御大役を仰付けられた次第で御座ります……」

広嘉卿はちつと聞入つて、それはそれは重々忝けないことで御座ると、取りも敢えず蓋を開いて見給へば、此は如何に、大輪白の梅の花か桃の花か、牡丹の花かと思まがうばかりの圓形に、しつらいたる名菓である。手に取りて復び見返し給うに、さにあらず、正に是れ、わが錦帶橋を組立てた稀代の一品、さて／＼所願成就と、おし戴いて納め給へば、辰姫も亦大役の成就を喜びて、還り去ると見る間に、ヒラヒラと白衣の袖をひるがえして、川の彼方に飛びゆく先きの流れは、月下の水煙、——さても不可思議の事もあるものぢやと、覚えす合掌瞑目の広嘉卿の瞬間天地はからりと開けて、まどろむ夢は醒めもうした。

その昔岩国の郷土名菓として「錦川」というのがあつたが、此の物語りに因みて生れたものといふことだ。

此のたび錦帶橋再建の喜びを機会に、郡上の善道宗匠無想軒西川宗伯

名勝保存に付文部委員の視察

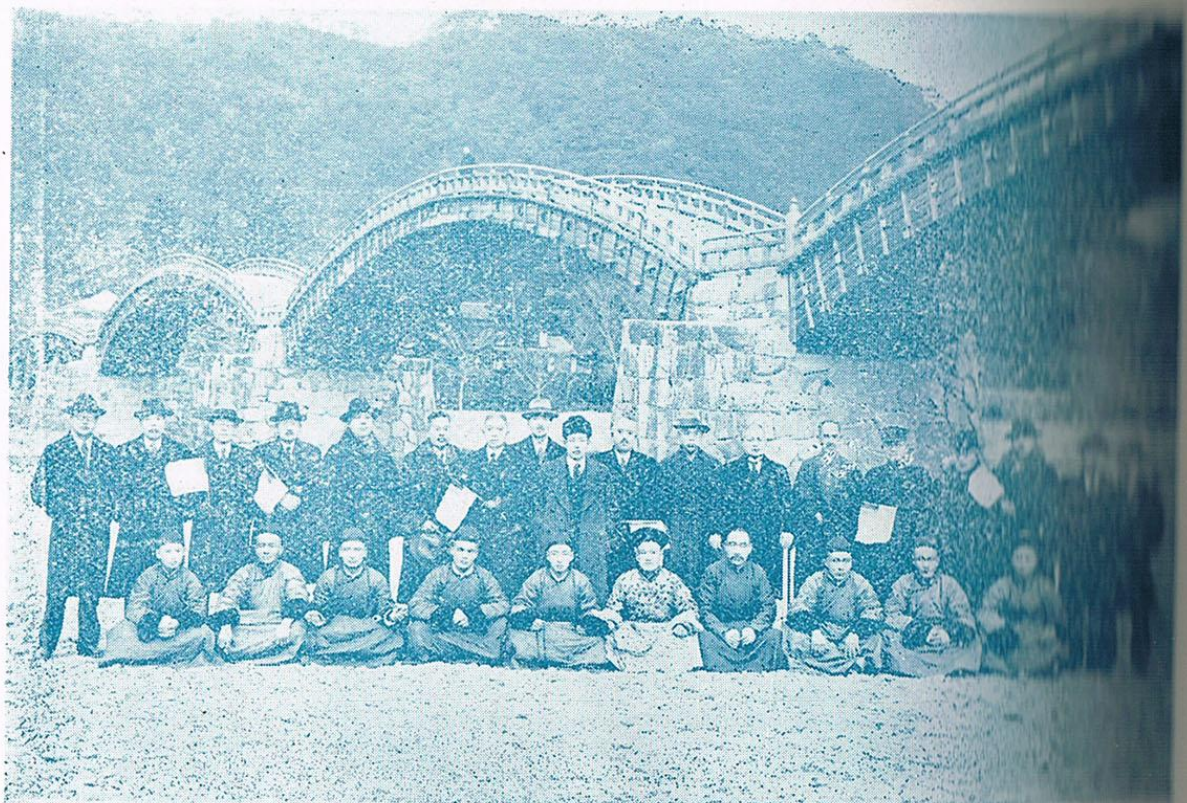


神風五龍松を
天然紀念物に
編入の為視察
の文部省囑託
理學博士
三好 學氏
(○印)



錦帶橋国宝橋
入に伴い代橋
架設位置検分
の為視察の文
部省囑託
国府屋東氏
(○印)

蒙古音楽団の一行錦帶橋訪問の其日



昭和十三年二月蒙古音楽団の一行来邦し錦帶橋見物を兼ね
岩国に来た時の記念撮影（岩国出身の日蒙善隣会理事藤中辨輔元大佐引率）

外字新聞に現われた錦帯橋の再建復興

颱風に破壊流失された橋は今や此の如く再建された (1953年一月三十日紙上掲載)

昭和廿八年五月三日完工式の日
出場したるミス岩国と来賓駐
留軍将校
(1953年五月廿二日紙上)

PERSONNEL AT FEAMCOM AB SET RECORD FOR BLOOD DONATIONS

Air Log

OBSERVER

AFPS, WD PID NEWS RELEASES

1ST AIR LOGISTIC FORCE, APO 323, JANUARY 30, 1953

TYPHOON-WRECKED BRIDGE IS REBUILT



KINTAI BRIDGE—after being destroyed by a typhoon in 1949, the world-famous Kintai bridge was rebuilt on its original site at Iwakuni. The original bridge was built in 1673. The new bridge was just recently dedicated.

By Staff, William Bishop
AIR LOGISTIC FORCE—With an estimated crowd of 50,000 Japanese watching the colorful ceremony, the historic Kintai Bridge at Iwakuni was officially rededicated January 15 with Iwakuni's Mayor Kuno Taroas leading the procession. The world famous structure, which stood on the same location for nearly 300 years, was wrecked by the "Great Typhoon" on September 18, 1949.

Col. Joseph A. Morris, commanding officer of the 1st Air Logistic Force, representing the United States, presiding at the ceremony. He expressed his admiration for the military and civilian workers who had the bridge rebuilt. He also praised the Japanese who are responsible for the reconstruction job. The ceremony was held at the bridge site, which was the site of the original bridge. The new bridge is made of stone and is 120 feet long and 16 feet wide. It is built on a point of land about 100 feet above the water level. The bridge is a masterpiece of Japanese architecture and is a symbol of the city of Iwakuni. The ceremony was attended by many guests, including the Mayor of Iwakuni, the Mayor of the city of Iwakuni, and the Mayor of the city of Iwakuni. The ceremony was a great success and the new bridge is now open to traffic.

DEPOT SUN

IWAKUNI AIR DEPOT, JAPAN

Famous Bridge Reopened; Local Boy Takes Part

January 15 the 750 foot Kintai Bridge spanning the Kibinogawa River in Japan was reopened for traffic. It was completely wrecked in 1949 by a typhoon. The bridge was originally built in 1673. It is 34 feet above normal water level. The bridge was originally built by Mr. and Mrs. Earl Bishop of Union Blounts and a son of the Japanese dignitary present. The original foundation work of the bridge has remained intact for more than 270 years, except in 1949 when two of the piers were damaged by a flood. 750 special guests, including Air Force officials and press, and eight families representing three generations followed the reopening. Photos are official Air Force photographs.

DEPOT COMMAND

Open To Traffic 15 January.

The designer of the Kintai Bridge, known as the "Kintai-kyo," was the famous Japanese architect, Lord Hirotsugu Kikawada. The bridge was built in 1673, the 3rd Lord of the Kikawada Clan. From ancient times, the Kintai-kyo was a famous bridge, being of great interest to the world. It was a serious problem for the Kikawada, but Lord Hirotsugu solved that problem and for all times with his design. When the original design was formulated by the Kikawada, it was a masterpiece of Japanese architecture. The bridge was built on a point of land about 100 feet above the water level. The bridge is a masterpiece of Japanese architecture and is a symbol of the city of Iwakuni. The ceremony was attended by many guests, including the Mayor of Iwakuni, the Mayor of the city of Iwakuni, and the Mayor of the city of Iwakuni. The ceremony was a great success and the new bridge is now open to traffic.

MR. MORRIS SPOKE

Col. Joseph A. Morris, USAF, representing the United States, presiding at the ceremony. He expressed his admiration for the military and civilian workers who had the bridge rebuilt. He also praised the Japanese who are responsible for the reconstruction job. The ceremony was held at the bridge site, which was the site of the original bridge. The new bridge is made of stone and is 120 feet long and 16 feet wide. It is built on a point of land about 100 feet above the water level. The bridge is a masterpiece of Japanese architecture and is a symbol of the city of Iwakuni. The ceremony was attended by many guests, including the Mayor of Iwakuni, the Mayor of the city of Iwakuni, and the Mayor of the city of Iwakuni. The ceremony was a great success and the new bridge is now open to traffic.



WASHED OFF by a typhoon two years ago, the famous Kintai was rebuilt on its exact original location and opened to traffic Jan. 15 with some 50,000 (including leading 1st Air Logistic Force) on hand to witness the colorful ceremony. This is twice when the structure a few minutes before the sun was officially completed and reopened. May Colonel Morris attended both ceremonies.

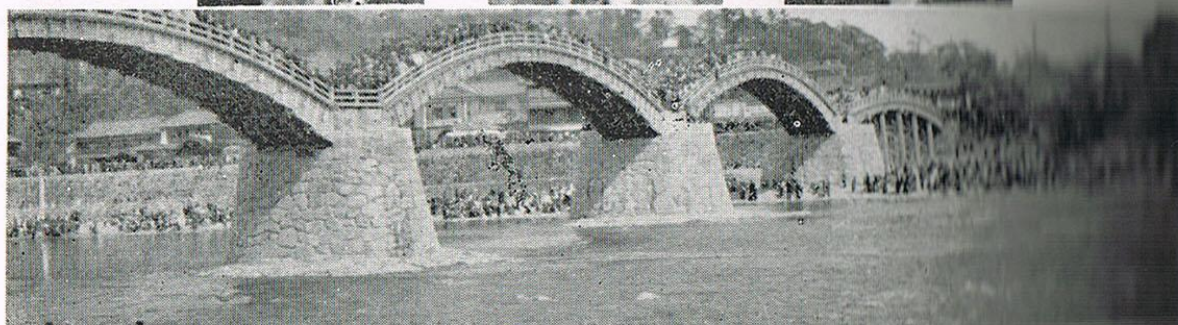
昭和廿八年一月十五日渡初式の日
(本誌1953年三月十六日紙上掲載)

岩国市涉外嘱託 西川忠男氏提供

再建の喜びに沸く錦帯橋と當時の報道陣



毎日新聞岩国通信部
主任 水野時美氏
防長新聞岩国
支局長 田中 豊氏



岩陽新聞社長
吉永 滋氏



周東新聞社長
土肥素水氏



興風時報社長
塩井亮吉氏



岩陽新聞社長
吉永 滋氏

錦帯橋史の編纂終結記念日の著者
 (昭和二十五年十一月着稿——同二十八年五月脱稿)



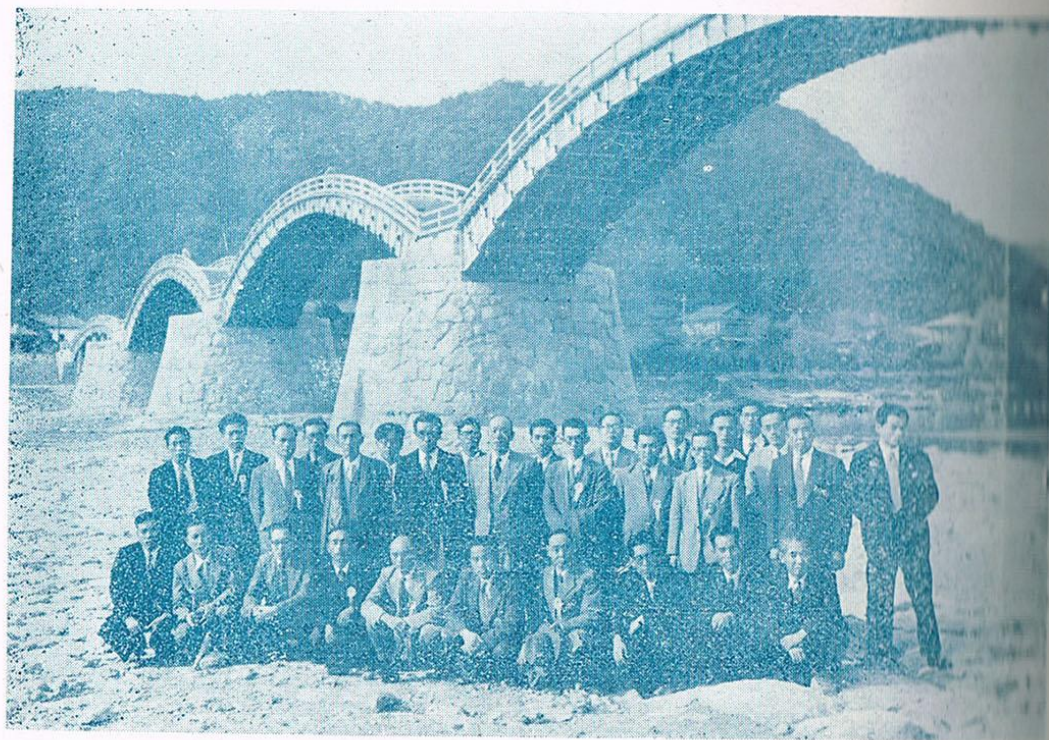
岩国徴古館に於て撮影(著者永田新之允、八十三歳)



日本建築学会員大舉して新装の錦帯橋見學

(A班B班に分れ昭和二十八年十月二十六日来岩記念撮影)

昭和廿八年十月廿四、五の両日広島市に於て開催された日本建築学会大会終了後全学会員の一部が来岩す。



岩國観光協会の錦帯橋史発行会議

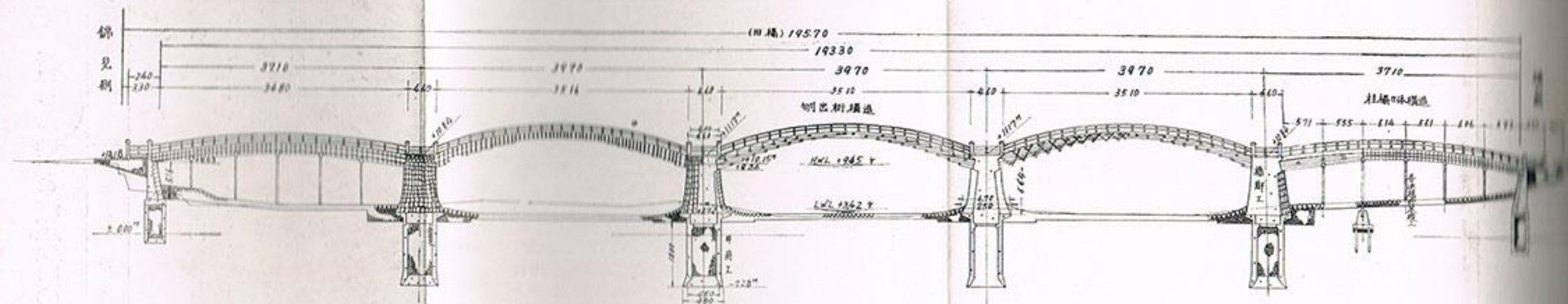
(昭和二十八年十二月五日岩国商工会館に於て)



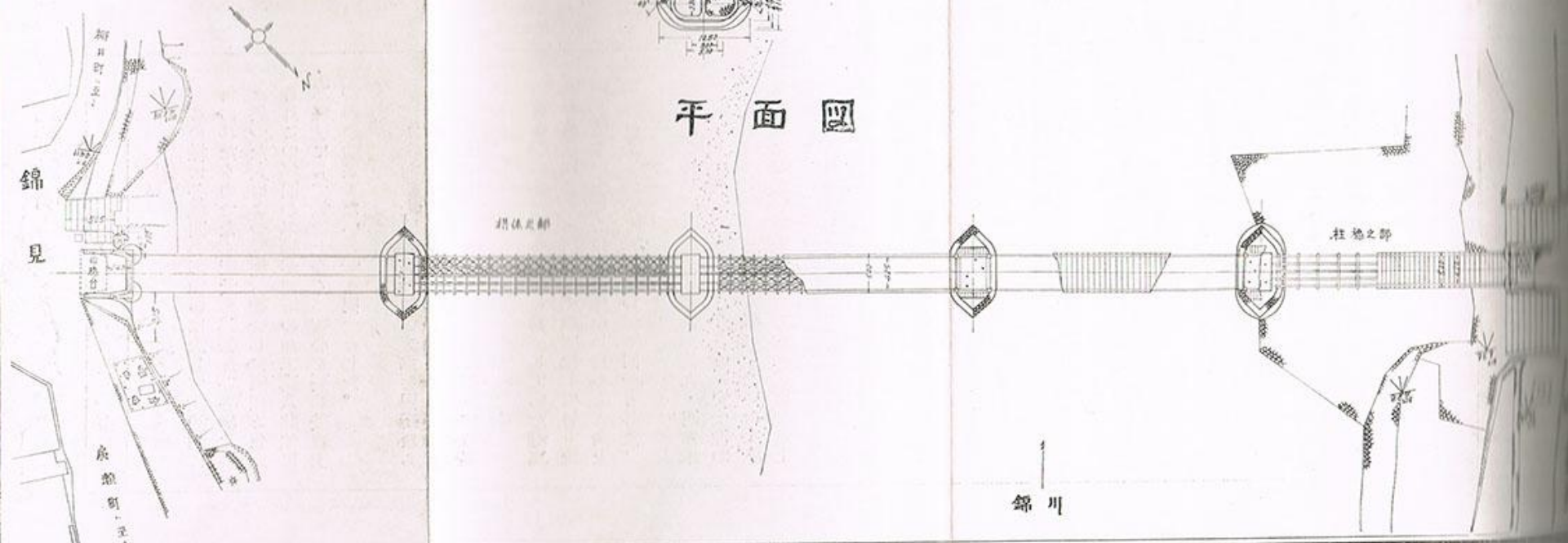
錦帶橋一般圖

縮尺 三百分之二

側面圖



平面圖



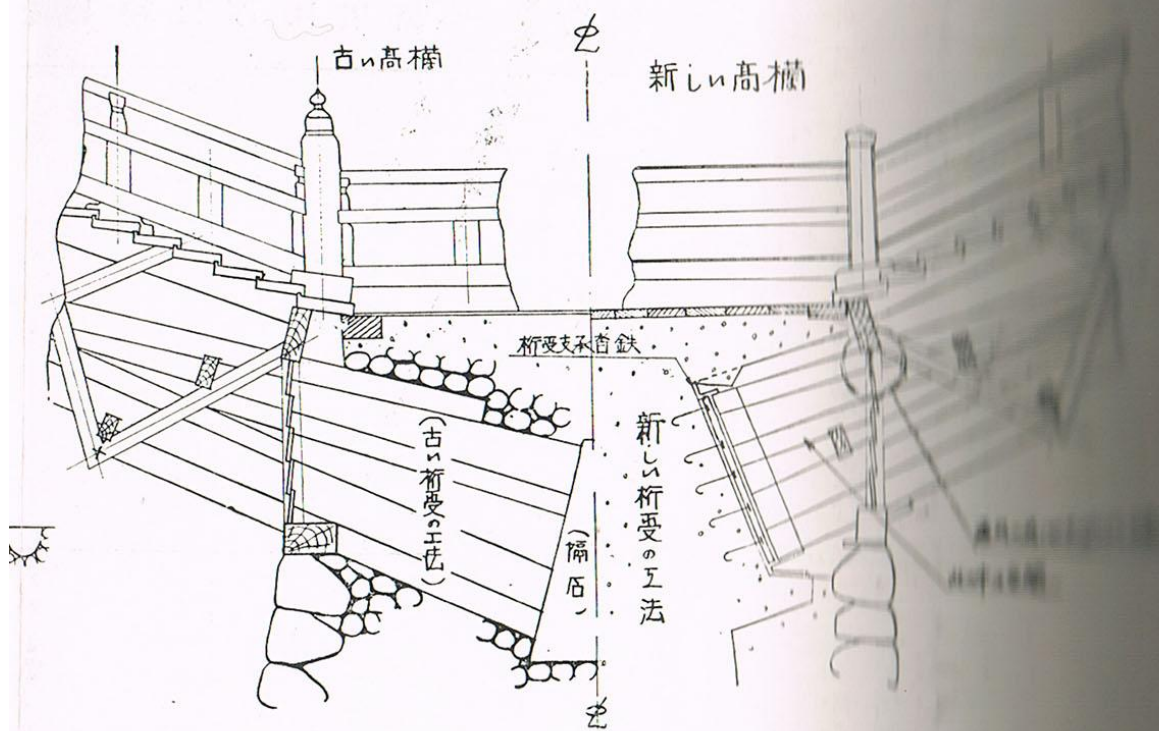
新しい橋と流失前の橋との構造比較説明

昔の錦帯橋	新しい錦帯橋	変更した理由
一般形状 (一) 径間の不揃い 第一径間三七米、第五径間三四・八米、第二径間三五・六米、第三径間三五・一〇米、第四径間三四・九六米 (二) 橋長 一九五・七米	径間を同一とした 第一、五径間三四・八米、第二、二、三径間三五・一〇米 橋長 一九三・三米	この様に各径間の不揃いは決して意識的に行われたものでなく測量の誤差及び各橋を各々異つた人によつて施行監督した関係と想定されこの径間の不揃が橋桁の加工購入其他に不経済にして施行上多くの苦心を要し美観上特別の効果もないと考え同一とした。 治水上前後堤塘法線に従い流水を円滑ならしむる為二・四米短縮した。 これにより左岸橋詰乗込広場を拡張する事にした。 各橋脚が各々其の方向を異にしていたが現在の河状は昔の河状とは相当変化して居り橋脚基礎も一〇米の井筒を採用したので安全上から見ても必要を認めないので同一とした。
(三) 橋脚形状の不揃い (四) 橋脚の高さ	橋脚形状を同一とした 橋脚の高さ 中央で一米高くした	昔の橋脚の高さでは最高洪水位九・四六米で約一・〇米水没する事となり橋の安全性からも木材の腐朽の点からも面白くないので中央橋脚で約八〇厘両岸橋台で約五〇厘の高上げをした。
(五) 橋脚基礎 (編木基礎) 編木基礎法と称する枠を使用し枠は生松丸太末口六寸五・九米の太木を橋脚の弧形に応じ組合せ橋脚の上下流両端は十字字管盤木を敷込み各材の交点には生松丸太の地杭を打込み錦堅め、この基礎は河床より二・二・七米の深さに据えてあつた。	(鉄筋混凝土隔壁付階円形井筒) 長九・五米深一〇米の隔壁付階円形井筒を平水位下六〇厘に沈下させ井筒底部に厚一・五米の水中心クリートを施し井筒内部は栗石を填充上部橋脚と連絡を保たさした。	錦川河床の異動及び流失の原因建設省の通牒もあり洪水時の洗掘四米を考慮した結果による。
(六) 橋脚躯体 (石積内部粘土混栗石) 基礎土台上に根石一・五一一・八厘を据込み石組揃え次第々々にせいろうを組み組み立てる。石垣は築造石垣の仕法により組石の大きなものを大小安定よく按配し隙間には扶石を法面より三厘内に入れ	(石積内部鉄筋コンクリート心壁) 井筒上部に上巾三・〇米高五・九米の鉄筋コンクリート心壁をもつて昔の粘土混栗石中結の工法を改め形状仕様石質とも昔の通り心壁より外廻り一・三米に昔に倣い石積を施し石積合端は昔の通り漆喰を用い。創先合端は昔の通り	橋脚基礎井筒となりたる為工法上より変更した。 橋脚外廻り石垣干切漆喰は美観上昔の通り変更しない。

構造圖

高橋と桁受(隔石)新旧比較圖

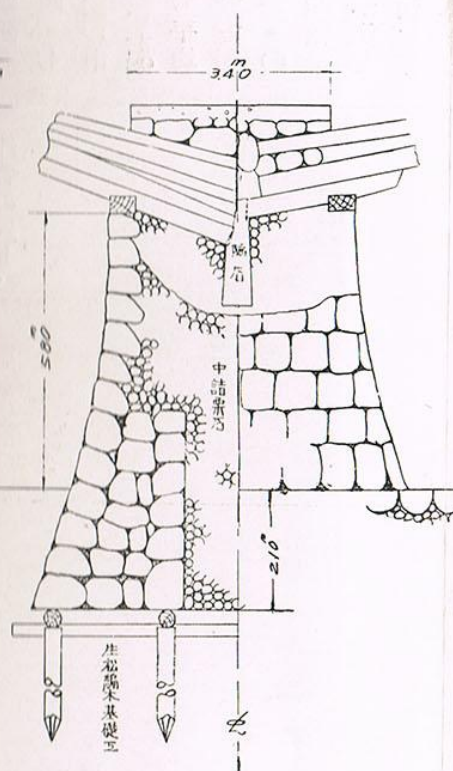
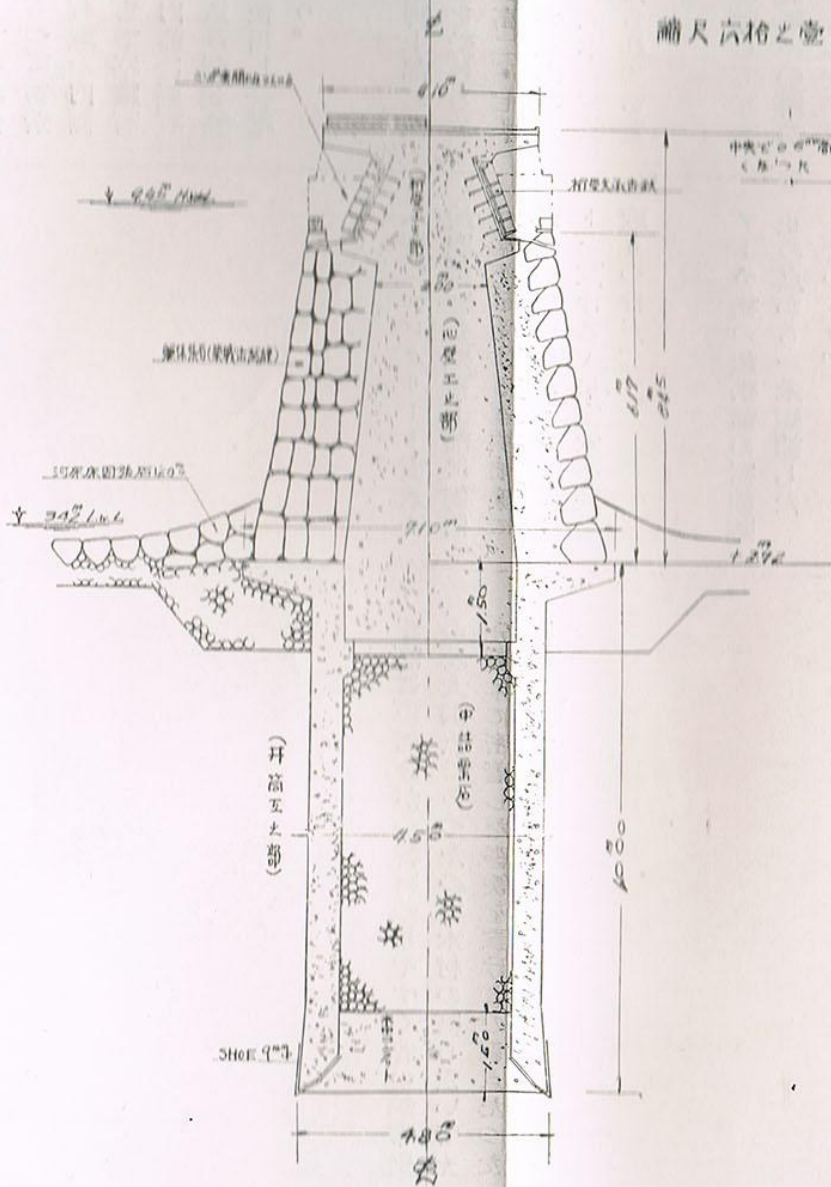
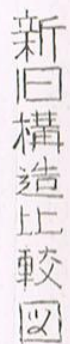
30 : 1



錦帶橋新舊比較

新といひ摺脚図

昔の橋脚図



干切を用う。

堅固に築立してその合端は漆喰をもつて密着せしむ。表石垣の内側に躯体の $\frac{1}{2}$ まで空積石垣を築立て内部は礫石粒土混を詰込み剣先笠石は火石を使用し合端は干切を用う。

(七) 橋脚上部

(隔石) 橋脚上部には刳橋の端部を受ける為厚四五種高二・七米の「隔石」が五本埋込まれこれに五本の刳橋の桁を支えられていた

(八) 橋体工事

橋巾五米に対して五本の拱肋が間隔一〇四米に配置してある支間三五・一米、拱矢四・七

米拱矢比 $\frac{1}{7.5}$ 、拱肋の中は全径間を通じ一七

高さは拱頂に於て平均

木を加えて七四^{cm}支間

の $\frac{1}{2}$ の点に於て一・〇

〇米である。拱肋は半

徑間十一本の桁が楔を

狭んで重なり、拱肋を作

り各桁の先端は鼻梁を

架けて次の桁を刳出し

一構格を為す桁の末端

は後梁にて拱肋を横に

貫き後詰木にて支えら

れる各材の接触面には

柄木を配る拱肋の結束

は桁金物一分格に二箇

所四枚緊結し鉄釘にて

打付ける。

(九) 欄干

擬宝珠を冠したるもの

(十) 其の他

(桁受コンクリート支承鉄取付) 心壁の上部に刳橋の端部を受ける為拱軸線に直角の桁受鉄筋コンクリートを設けこゝに支承鉄を取りつけた。

アーチ橋の起拱部の腐蝕防止の点から一米短縮した外昔の通り。

昔はこの部分が一番腐蝕しやすく昔の錦帯橋の最大弱点であつたので木材の腐らないで充分躯体に密着した鉄を設け昔の弱点だつた腐蝕の対策とした。

享保二年施行の形式に改む

・ 交詢社会議による

(文部省文化財保護委員会の要求による)

(木材防腐処理) 木材には総てペンタクロール、フェノールナトリウム塩五%水

溶液の圧力注入を行つた。三〇年毎の架換えをいくらかでも長く保たさしむる為行つた。

溶液の圧力注入を行つた。